



2022年度 IRコンソーシアム 学生調査結果報告

2023年12月
藤女子大学IR専門部会

本学では、2018年から国公立66大学が加盟する大学IRコンソーシアムの会員となり、学生に対し、学修行動や学習時間、能力に関する自己評価、満足度を中心としたIRコンソーシアム共通の調査項目で学生調査を実施しております。

本報告では、2022年度に実施した上級生調査結果をまとめ、2018～2022年度との経年比較を行いながら、2021年度に引き続きコロナ禍における本学の現状も含めて分析いたしました。各学科、事務部局等においてこの学生調査結果を参考にいただき、学生サービスの充実・強化を図るための取り組みについて立案・実施にお役立ていただき、さらに見直し・改善をいただく機会となれば幸いです。

最後になりますが、本調査にあたりご協力をいただきました学生の皆さまと教職員各位に心よりお礼を申し上げます。

藤女子大学IR専門部会

I. 学生アンケート回答率内訳

II. 学生アンケートの両学部の間年比較結果

1. 授業での経験

2. 学修に関する経験

3. 時間の使い方

4. 能力の変化

5. 教育への満足度

6. 設備・制度への満足度

学生アンケート回答率内訳（2022年度）

2022年度 IRコンソーシアム 学生アンケート回答者

学年	英語文化学科			日本語・日本文学科			文化総合学科			文学部計		
	回答者数	対象者数	回答率	回答者数	対象者数	回答率	回答者数	対象者数	回答率	回答者数	対象者数	回答率
1年	60	92	65.2%	70	90	77.8%	60	83	72.3%	190	265	71.7%
2年	44	80	55.0%	67	96	69.8%	68	87	78.2%	179	263	68.1%
3年	57	96	59.4%	66	108	61.1%	67	91	73.6%	190	295	64.4%
4年	42	103	40.8%	64	109	58.7%	54	104	51.9%	160	316	50.6%
学科計	203	371	54.7%	267	403	66.3%	249	365	68.2%	719	1,139	63.1%

学年	人間生活学科			食物栄養学科			保育／子ども教育学科			人間生活学部計		
	回答者数	対象者数	回答率	回答者数	対象者数	回答率	回答者数	対象者数	回答率	回答者数	対象者数	回答率
1年	30	33	90.9%	37	43	86.0%	60	75	80.0%	127	151	84.1%
2年	18	40	45.0%	52	71	73.2%	76	80	95.0%	146	191	76.4%
3年	38	67	56.7%	61	72	84.7%	63	85	74.1%	162	224	72.3%
4年	27	57	47.4%	72	77	93.5%	59	68	86.8%	158	202	78.2%
学科計	113	197	57.4%	222	263	84.4%	258	308	83.8%	593	768	77.2%

※学生アンケート実施期間 2021年12月15日～2022年2月1日

大 学 計			
学年	回答者数	対象者数	回答率
1年	317	416	76.2%
2年	325	454	71.6%
3年	352	519	67.8%
4年	318	518	61.4%
全学年	1,312	1,907	68.8%

学生アンケート回答率内訳（2021年度）

2021年度 IRコンソーシアム 学生アンケート回答者

学年	英語文化学科			日本語・日本文学科			文化総合学科			文学部計		
	回答者数	対象者数	回答率	回答者数	対象者数	回答率	回答者数	対象者数	回答率	回答者数	対象者数	回答率
1年	60	82	73.2%	64	90	71.1%	68	90	83.7%	192	262	73.3%
2年	74	96	77.1%	85	115	73.9%	66	91	87.9%	225	302	74.5%
3年	48	98	49.0%	69	100	69.0%	75	98	73.3%	192	296	64.9%
4年	33	100	33.0%	41	90	45.6%	53	113	57.4%	127	303	41.9%
学科計	215	376	57.2%	259	395	65.6%	262	392	66.8%	736	1,163	63.3%

学年	人間生活学科			食物栄養学科			保育／子ども教育学科			人間生活学部計		
	回答者数	対象者数	回答率	回答者数	対象者数	回答率	回答者数	対象者数	回答率	回答者数	対象者数	回答率
1年	30	39	76.9%	51	72	70.8%	56	81	69.1%	137	192	71.4%
2年	37	73	50.7%	47	76	61.8%	53	85	62.4%	137	234	58.5%
3年	20	56	35.7%	55	80	68.8%	26	65	40.0%	101	201	50.2%
4年	23	55	41.8%	70	84	83.3%	35	77	45.5%	128	216	59.3%
学科計	110	223	49.3%	223	312	71.5%	170	308	55.2%	503	843	59.7%

※学生アンケート実施期間 2021年12月15日～2022年2月1日

大 学 計			
学年	回答者数	対象者数	回答率
1年	392	454	72.5%
2年	362	536	67.5%
3年	293	497	59.0%
4年	255	519	49.1%
全学年	1,239	2,006	61.8%

学生アンケート回答率内訳（2020年度）

2020年度 IRコンソーシアム 学生アンケート回答者

学年	英語文化学科			日本語・日本文学科			文化総合学科			文学部計		
	回答者数	対象者数	回答率	回答者数	対象者数	回答率	回答者数	対象者数	回答率	回答者数	対象者数	回答率
1年	76	94	80.9%	105	119	88.2%	77	92	83.7%	258	305	84.6%
2年	70	100	70.0%	82	101	81.2%	87	99	87.9%	239	300	79.7%
3年	59	92	64.1%	63	82	76.8%	74	101	73.3%	196	275	71.3%
4年	76	110	69.1%	64	99	64.6%	58	101	57.4%	198	310	63.9%
学科計	281	396	71.0%	314	401	78.3%	296	393	75.3%	891	1,190	74.9%

学年	人間生活学科			食物栄養学科			保育／子ども教育学科			人間生活学部計		
	回答者数	対象者数	回答率	回答者数	対象者数	回答率	回答者数	対象者数	回答率	回答者数	対象者数	回答率
1年	51	72	70.8%	62	76	81.6%	70	85	82.4%	183	233	78.5%
2年	39	58	67.2%	66	80	82.5%	50	65	76.9%	155	203	76.4%
3年	36	54	66.7%	62	85	72.9%	61	76	80.3%	159	215	74.0%
4年	35	55	63.6%	73	95	76.8%	63	83	75.9%	171	233	73.4%
学科計	161	239	67.4%	263	336	78.3%	244	309	79.0%	668	884	75.6%

※学生アンケート実施期間 2020年12月7日～12月21日

文学部 : 2020年12月1日現在在学中の学生

人間生活学部 : 2020年12月1日現在在学中の学生

(休学者及び海外及び国内協定校留学中の学生を除く。)

大 学 計			
学年	回答者数	対象者数	回答率
1年	441	538	82.0%
2年	394	503	78.3%
3年	355	490	72.4%
4年	369	543	68.0%
全学年	1,559	2,074	75.2%

学生アンケート回答率内訳（2019年度）

2019年度 IRコンソーシアム 学生アンケート回答者

学年	英語文化学科			日本語・日本文学科			文化総合学科			文学部計		
	回答者数	対象者数	回答率	回答者数	対象者数	回答率	回答者数	対象者数	回答率	回答者数	対象者数	回答率
1年	89	96	92.7%	91	99	91.9%	88	97	90.7%	268	292	91.8%
2年	60	83	72.3%	61	85	71.8%	71	101	70.3%	192	269	71.4%
3年	86	100	86.0%	74	93	79.6%	62	87	71.3%	222	280	79.3%
4年	69	87	79.3%	59	104	56.7%	59	92	64.1%	187	283	66.1%
学科計	304	366	83.1%	286	381	74.3%	280	377	74.3%	869	1,124	77.3%

学年	人間生活学科			食物栄養学科			保育／子ども教育学科			人間生活学部計		
	回答者数	対象者数	回答率	回答者数	対象者数	回答率	回答者数	対象者数	回答率	回答者数	対象者数	回答率
1年	39	59	66.1%	76	81	93.8%	61	65	93.8%	176	205	85.9%
2年	47	54	87.0%	82	84	97.6%	73	75	97.3%	202	213	94.8%
3年	42	54	77.8%	88	98	89.8%	76	83	91.6%	206	235	87.7%
4年	50	63	79.4%	75	79	94.9%	79	89	88.8%	204	231	88.3%
学科計	178	230	77.4%	321	342	93.9%	289	312	92.6%	788	884	89.1%

※学生アンケート実施期間 2019年9月～11月

文学部 : 2019年9月25日現在在学中の学生

人間生活学部 : 2019年10月30日現在在学中の学生

(休学者及び海外及び国内協定校留学中の学生を除く。)

大 学 計			
学年	回答者数	対象者数	回答率
1年	444	497	89.3%
2年	394	482	81.7%
3年	428	515	83.1%
4年	391	514	76.1%
全学年	1,657	2,008	82.5%

学生アンケート回答率内訳（2018年度）

2018年度 IRコンソーシアム 学生アンケート回答者

学年	英語文化学科			日本語・日本文学科			文化総合学科			文学部計		
	回答者数	対象者数	回答率	回答者数	対象者数	回答率	回答者数	対象者数	回答率	回答者数	対象者数	回答率
1年	85	93	91.4%	80	83	96.4%	67	107	62.6%	232	283	82.0%
2年	69	87	79.3%	85	102	83.3%	47	88	53.4%	201	277	72.6%
3年	74	80	92.5%	69	98	70.4%	55	91	60.4%	198	269	73.6%
4年	54	83	65.1%	36	85	42.4%	41	94	43.6%	131	262	50.0%
学科計	282	343	82.2%	270	368	73.4%	210	380	55.3%	762	1,091	69.8%

学年	人間生活学科			食物栄養学科			保育学科			人間生活学部計		
	回答者数	対象者数	回答率	回答者数	対象者数	回答率	回答者数	対象者数	回答率	回答者数	対象者数	回答率
1年	49	56	87.5%	80	88	90.9%	66	75	88.0%	195	219	89.0%
2年	50	55	90.9%	84	96	87.5%	78	84	92.9%	212	235	90.2%
3年	50	62	80.6%	77	81	95.1%	74	87	85.1%	201	230	87.4%
4年	51	84	60.7%	76	84	90.5%	62	78	79.5%	189	246	76.8%
学科計	200	257	77.8%	317	349	90.8%	280	324	86.4%	797	930	85.7%

※学生アンケート実施期間 2018年11月～12月

2018年10月31日現在在学中の学生（休学者及び海外及び国内協定校留学中の学生を除く。）

大学計			
学年	回答者数	対象者数	回答率
1年	427	502	85.1%
2年	413	512	80.7%
3年	399	499	80.0%
4年	320	508	63.0%
全学年	1,559	2,021	77.1%

1. 授業での経験

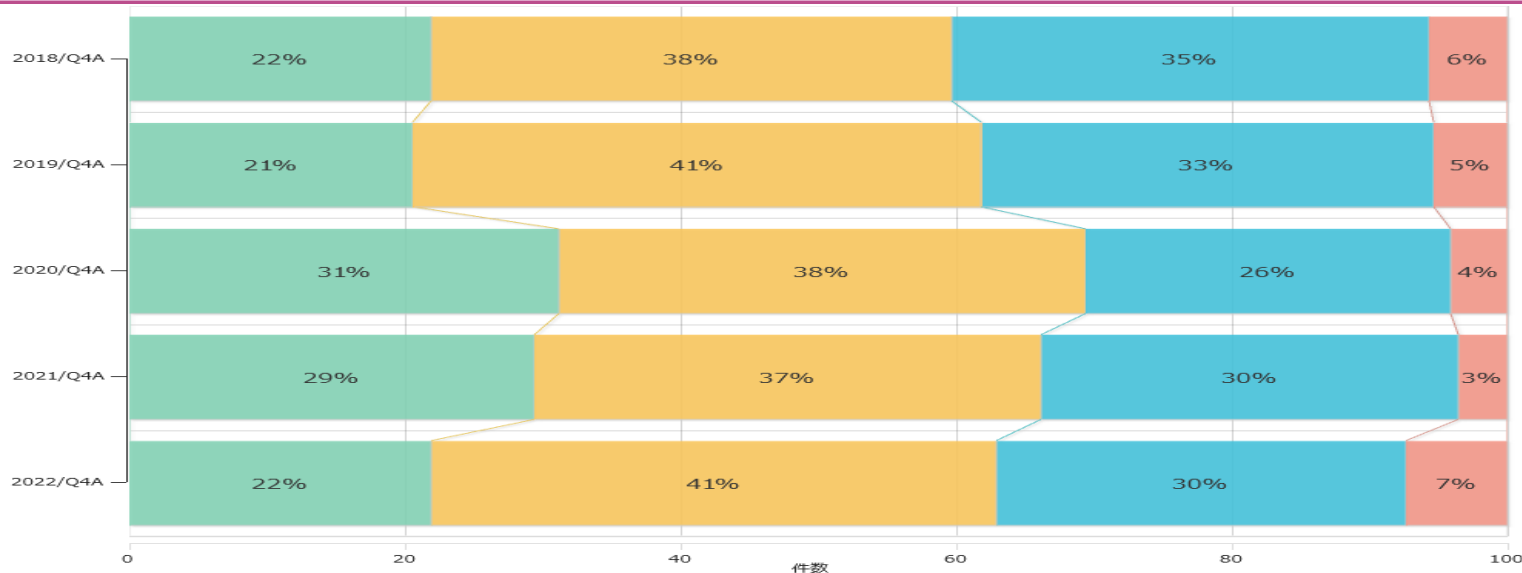
Q. あなたが受講した大学の授業で、次のようなことを経験する機会はどのくらいありましたか。

- 1-1. 実験、実習、フィールドワークなどを実施し、学生が体験的に学ぶ
- 1-2. 仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ
- 1-3. 授業内容と社会や日常生活のかかわりについて、教員が説明する
- 1-4. 授業の一環でボランティア活動をする
- 1-5. 学生自身が文献や資料を調べる
- 1-6. 定期的に小テストやレポートが課される
- 1-7. 教員が提出物に添削やコメントをつけて返却する
- 1-8. 学生が自分の考えや研究を発表する
- 1-9. 授業中に学生同士が議論をする
- 1-10. 授業で検討するテーマを学生が設定する
- 1-11. 授業の進め方に学生の意見が取り入れられる
- 1-12. 取りたい授業を履修登録できなかった
- 1-13. 出席することが重視される
- 1-14. TAやSAなどの授業補助者から補助を受ける

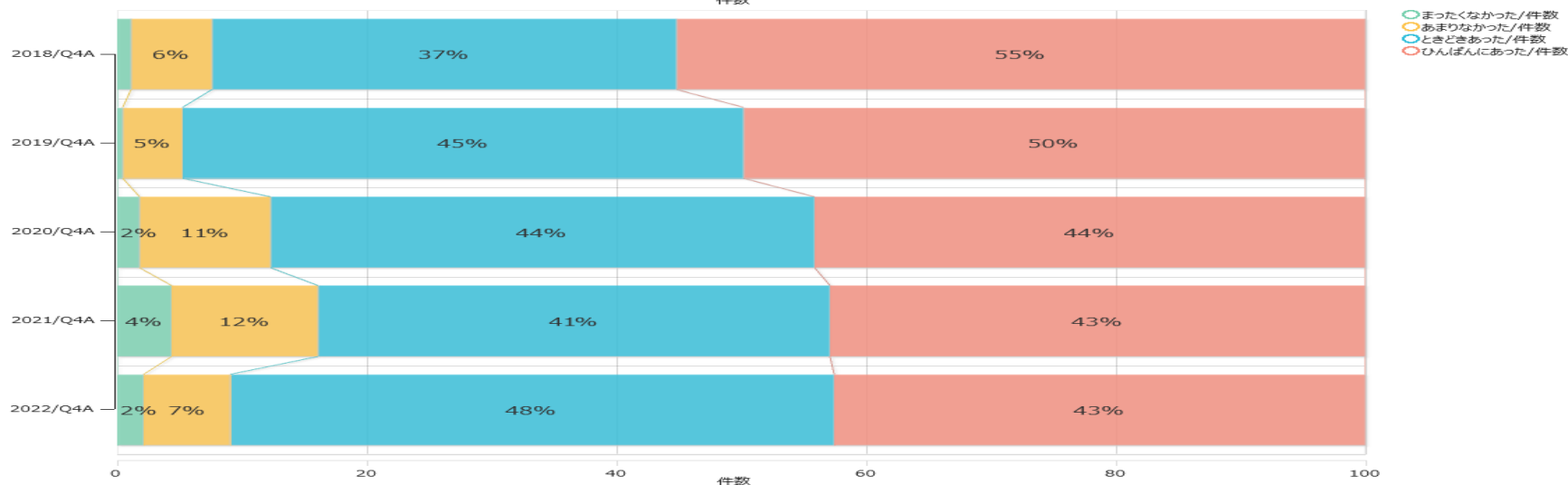
1-1. 実験、実習、フィールドワークなどを実施し、学生が体験的に学ぶ

[Q4-A]

文学部

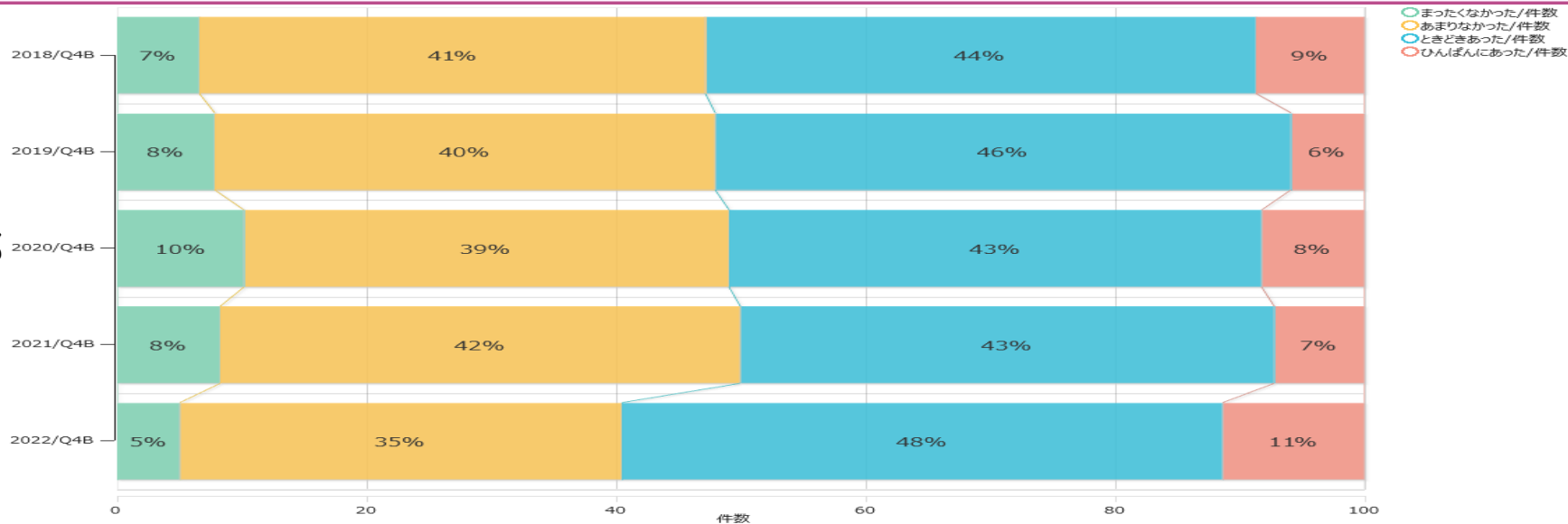


人間生活学部

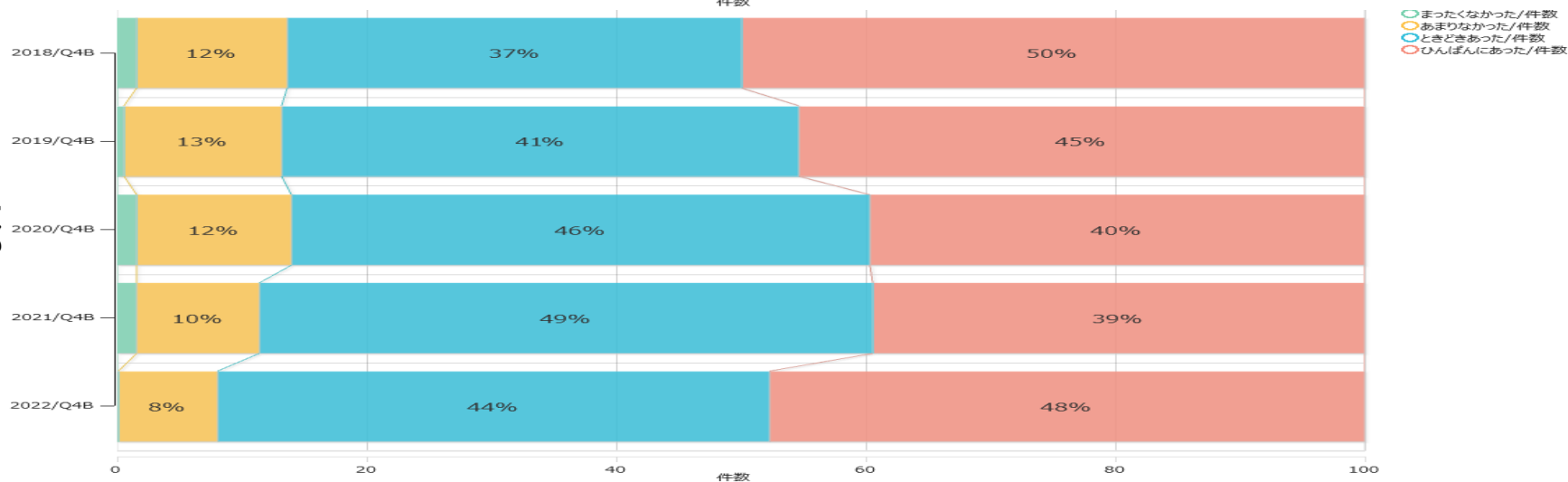


1-2. 仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ [Q4-B]

文学部

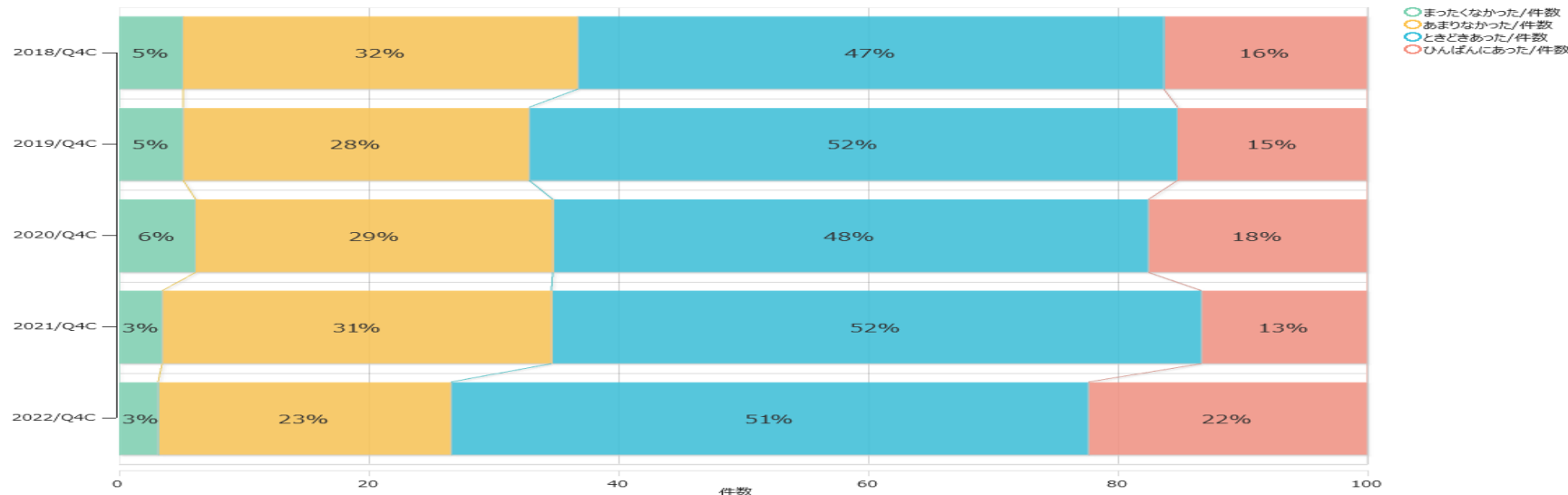


人間生活学部

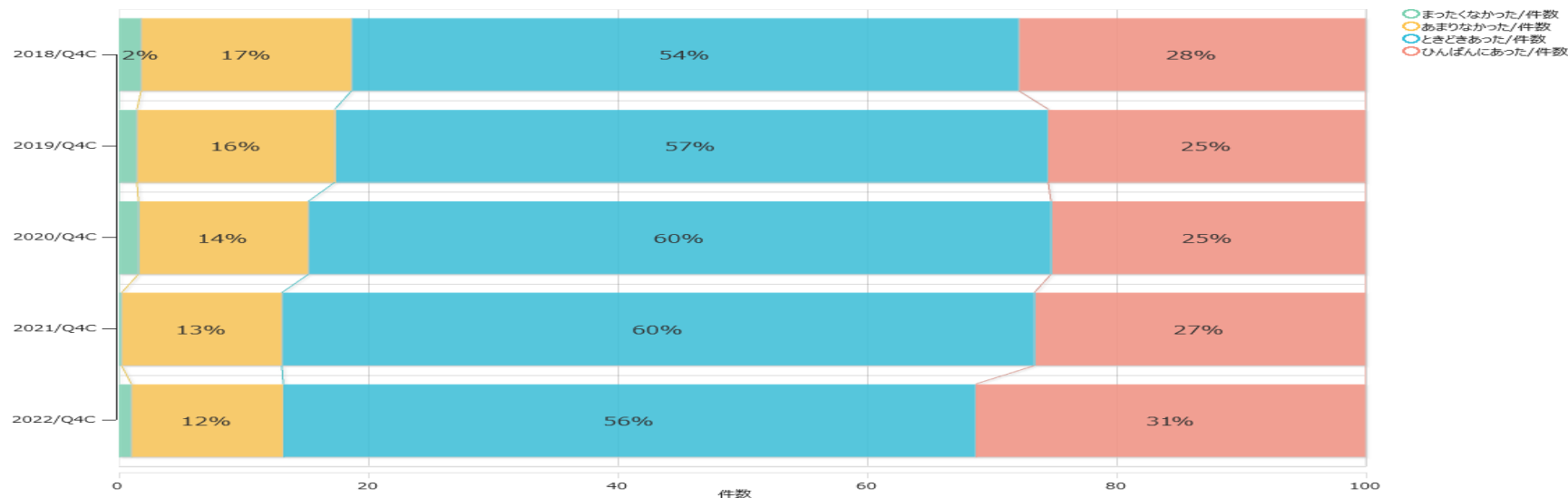


1-3. 授業内容と社会や日常生活のかかわりについて教員が説明する [Q4-C]

文学部

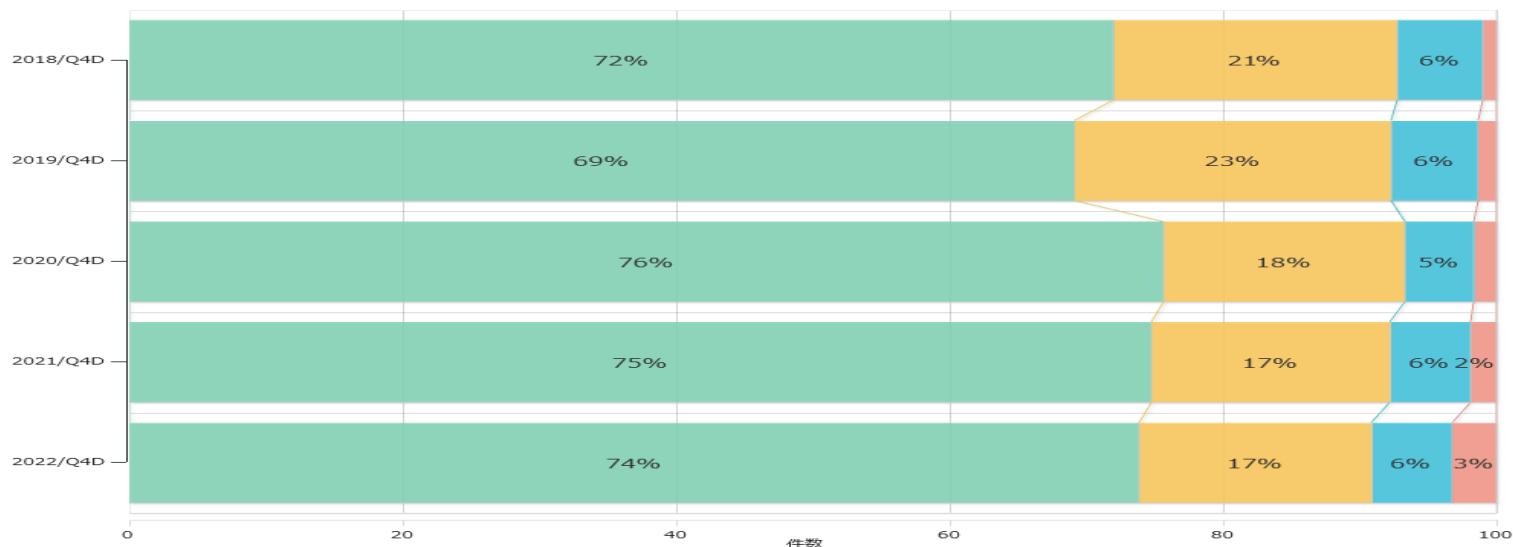


人間生活学部

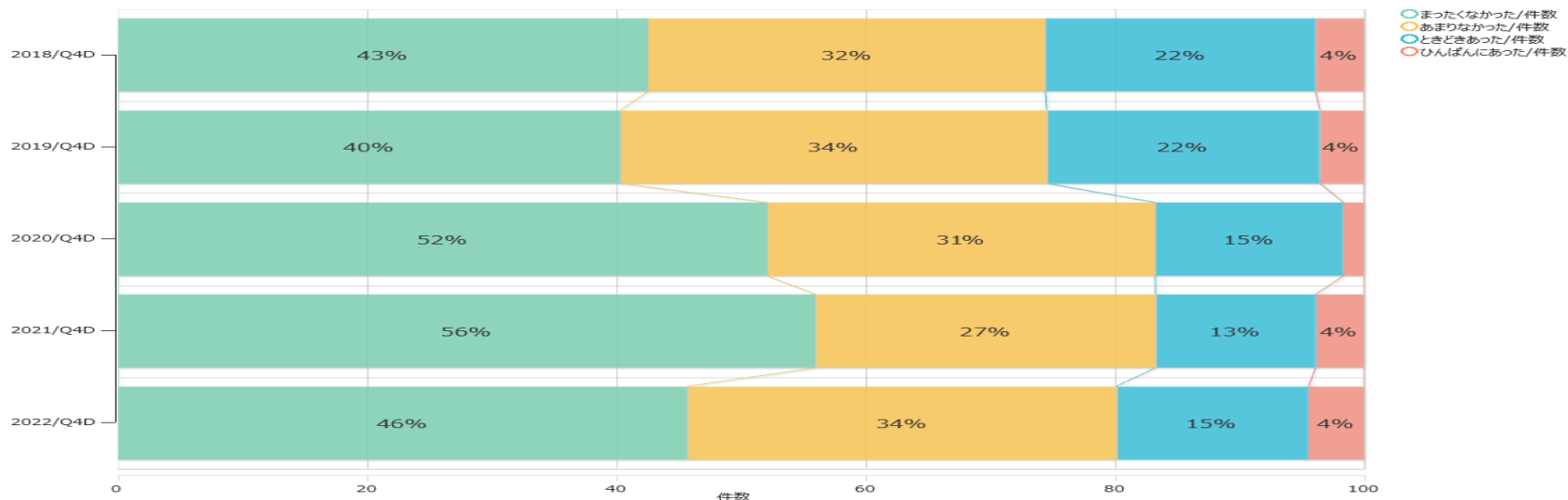


1-4. 授業の一環でボランティア活動をする 【Q4-D】

文学部

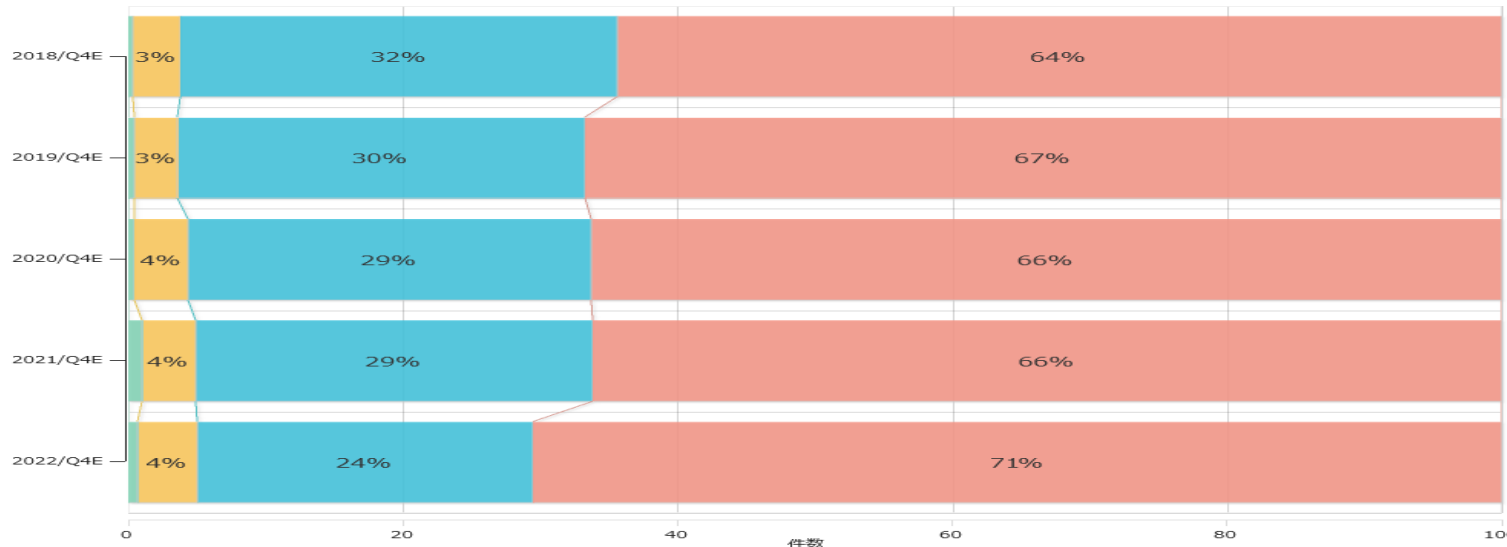


人間生活学部

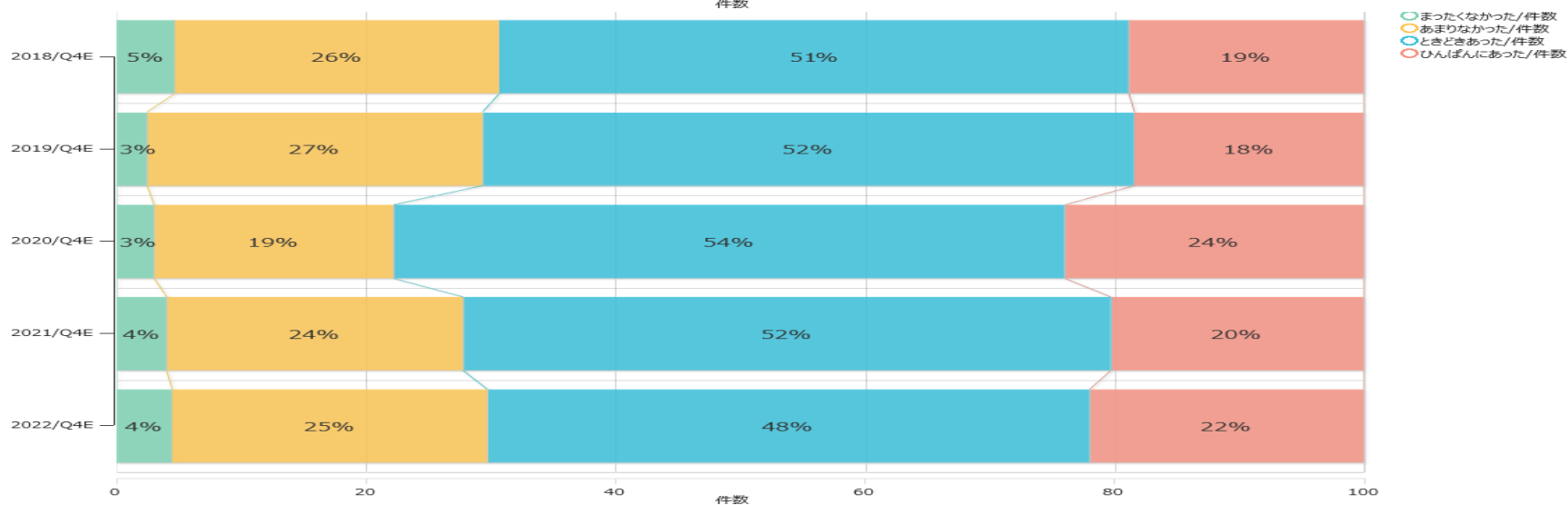


1-5. 学生自身が文献や資料を調べる 【Q4-E】

文学部



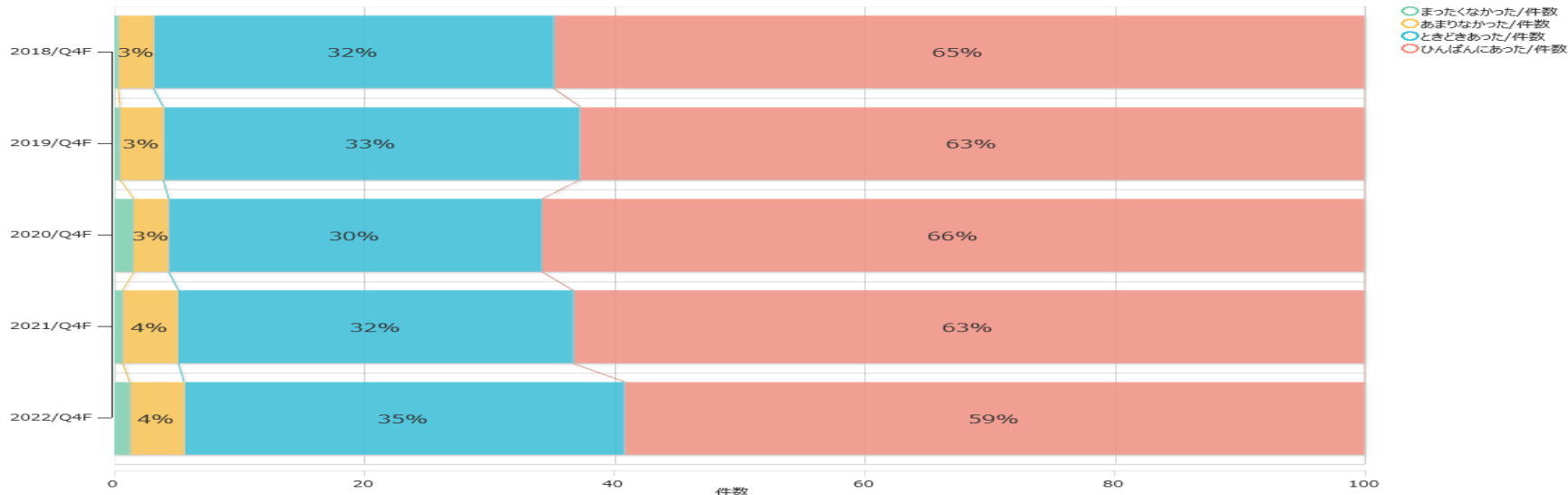
人間生活学部



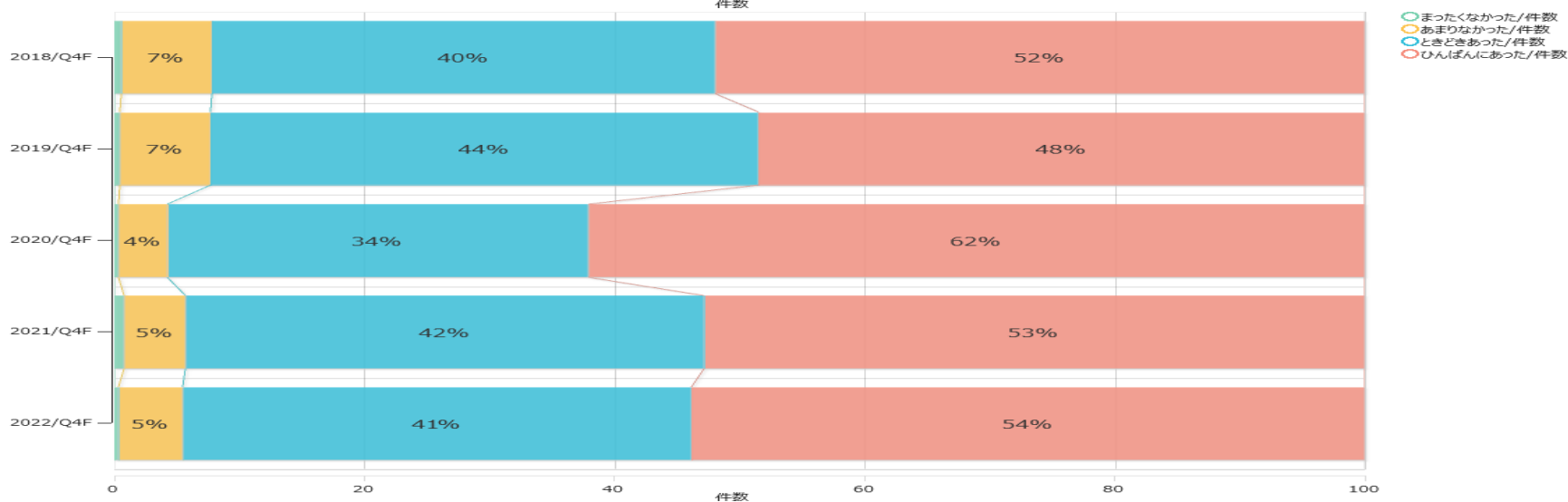
1-6. 定期的に小テストやレポートが課される

【Q4-F】

文学部



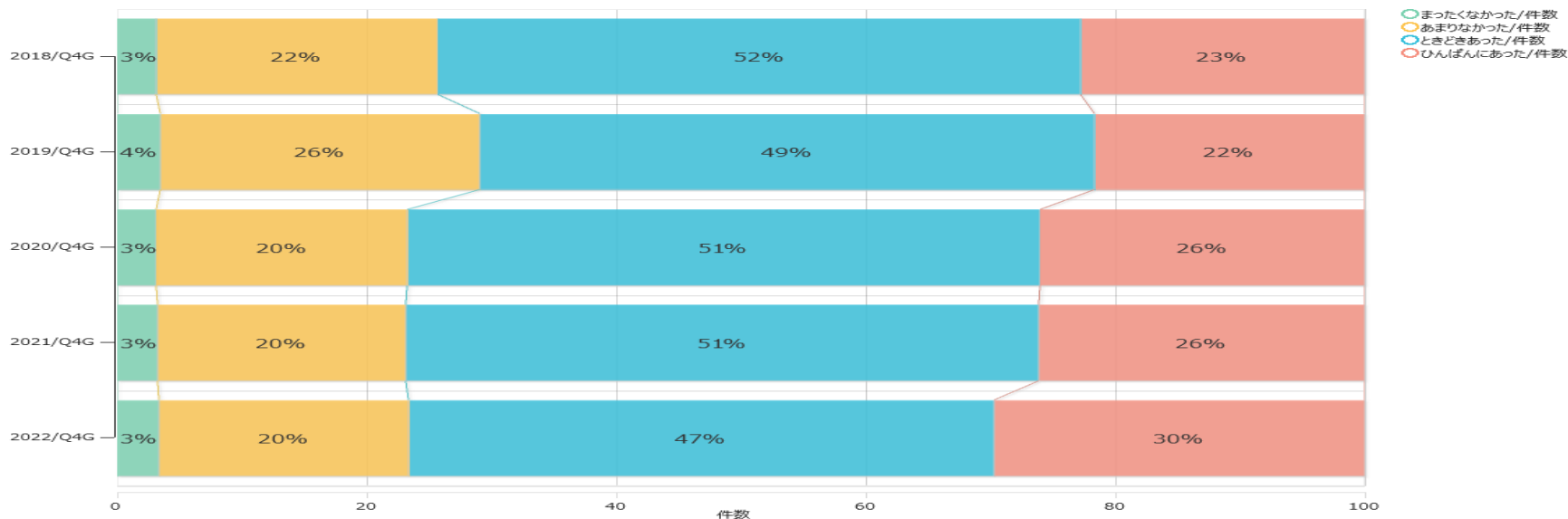
人間生活学部



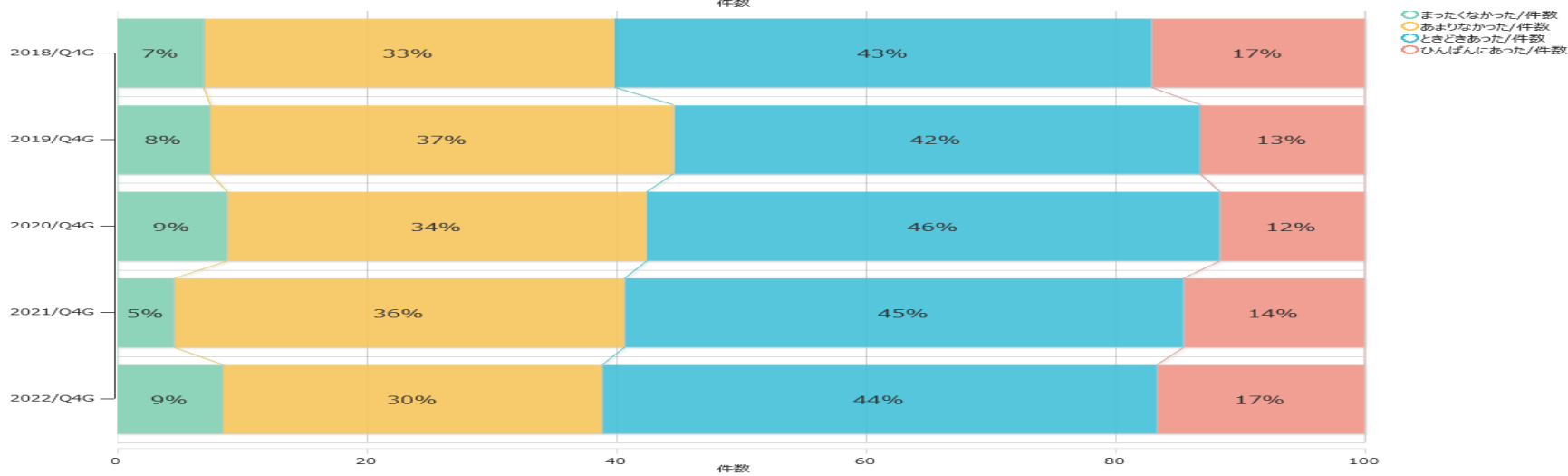
1-7. 教員が提出物に添削やコメントをつけて返却する

【Q4-G】

文学部

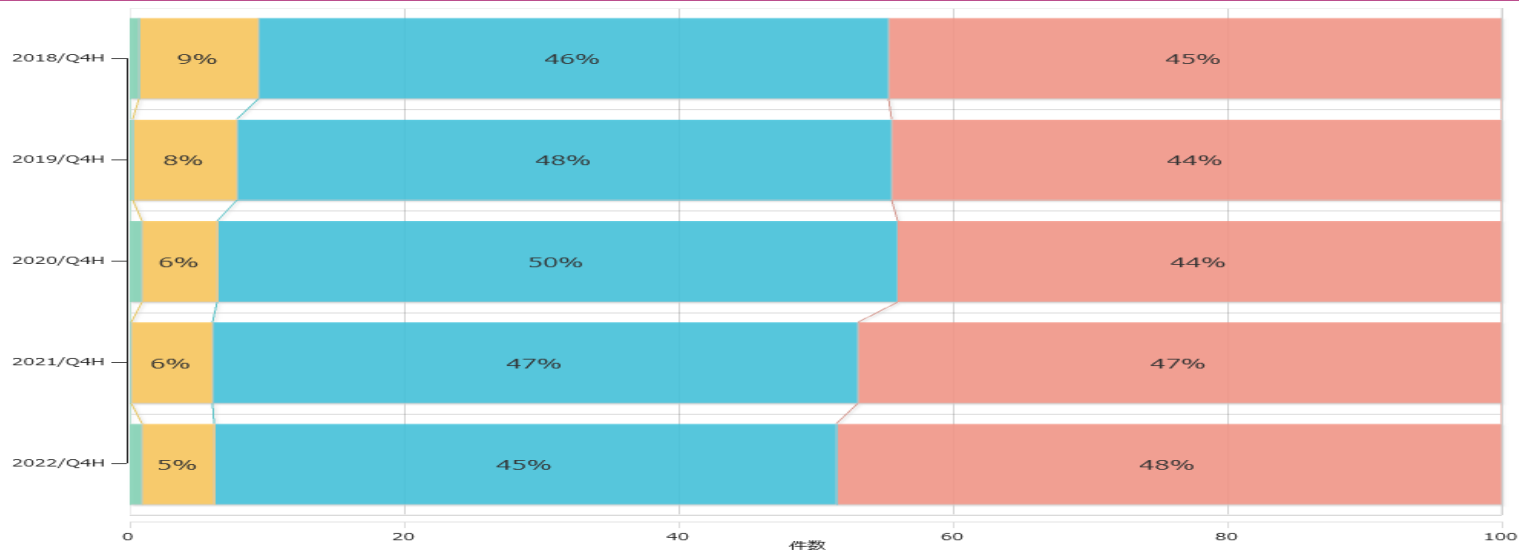


人間生活学部

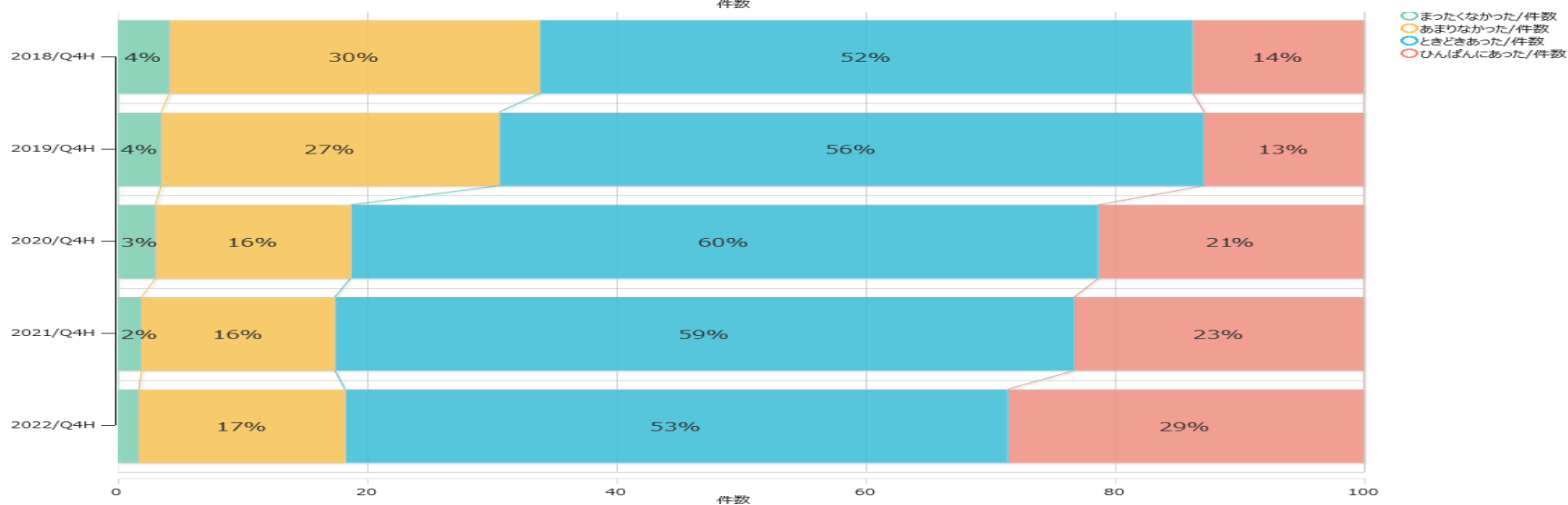


1-8. 学生が自分の考えや研究を発表する [Q4-H]

文学部

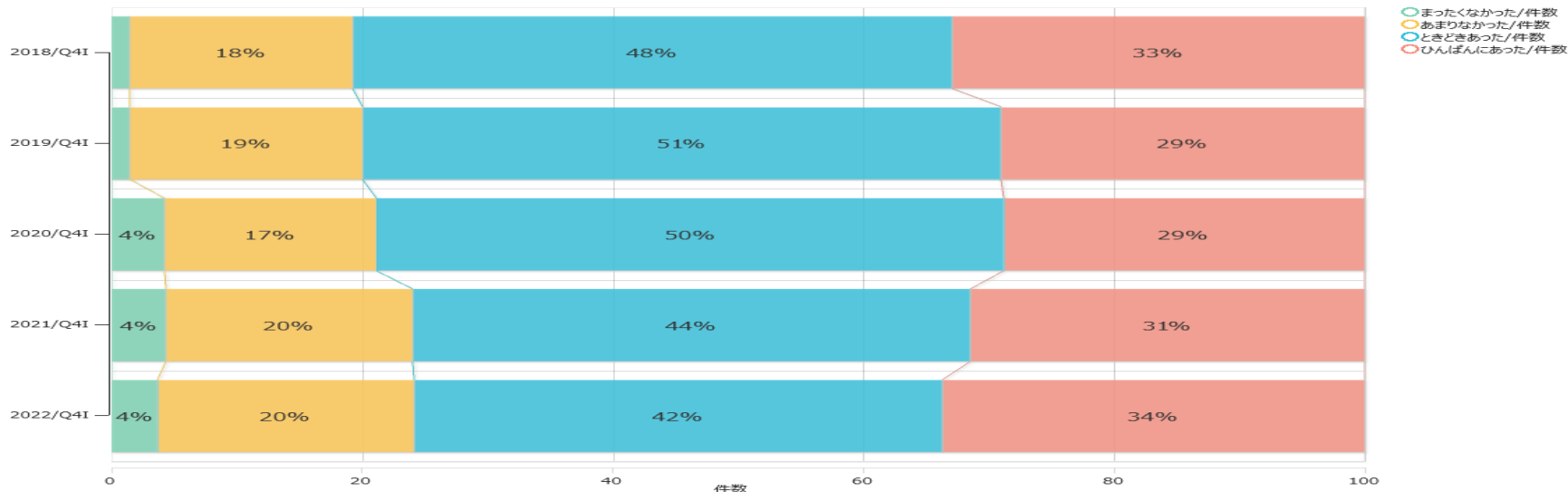


人間生活学部

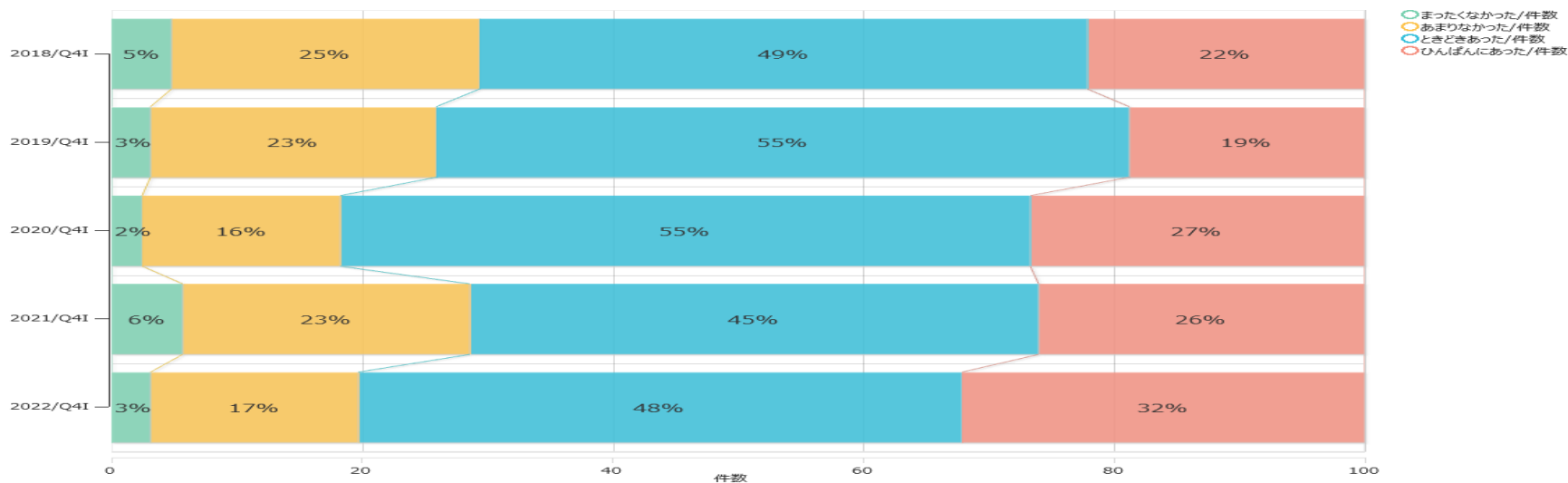


1-9. 授業中に学生同士が議論をする 【Q4-I】

文学部

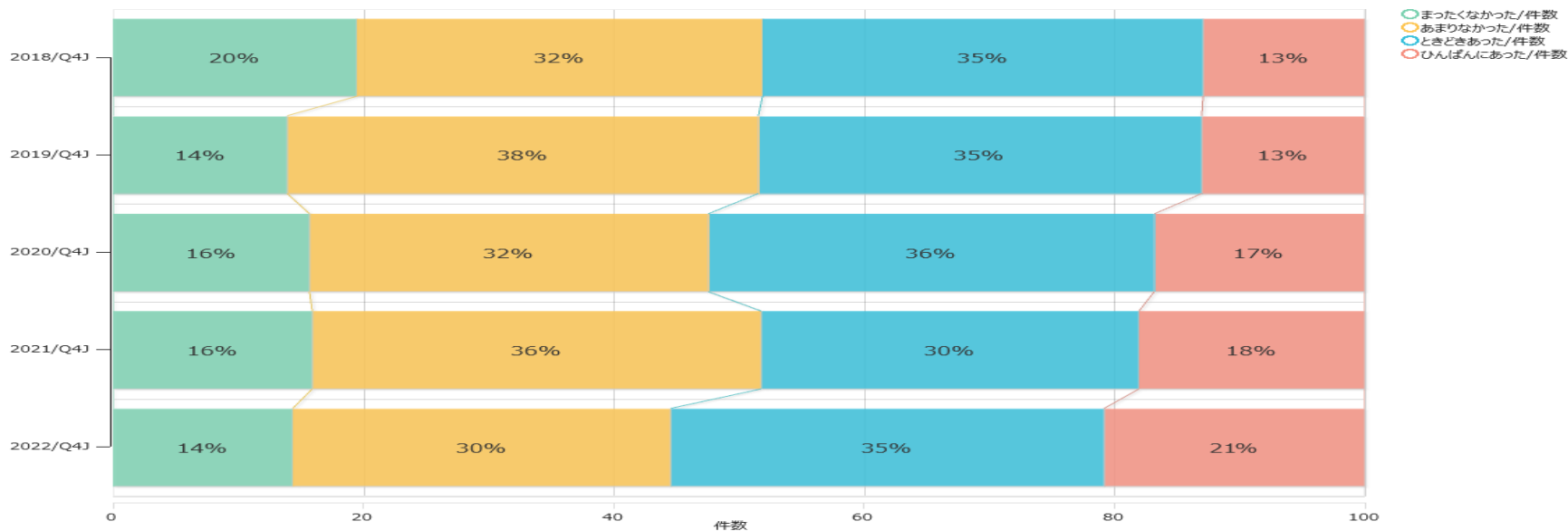


人間生活学部

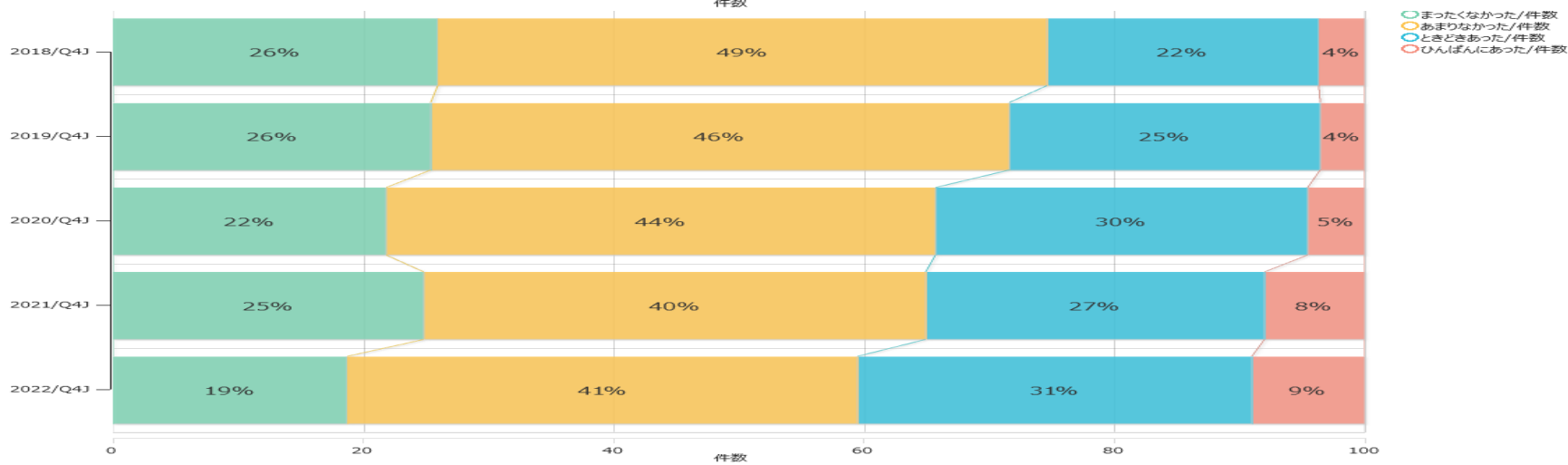


1-10. 授業で検討するテーマを学生が設定する 【Q4-J】

文学部



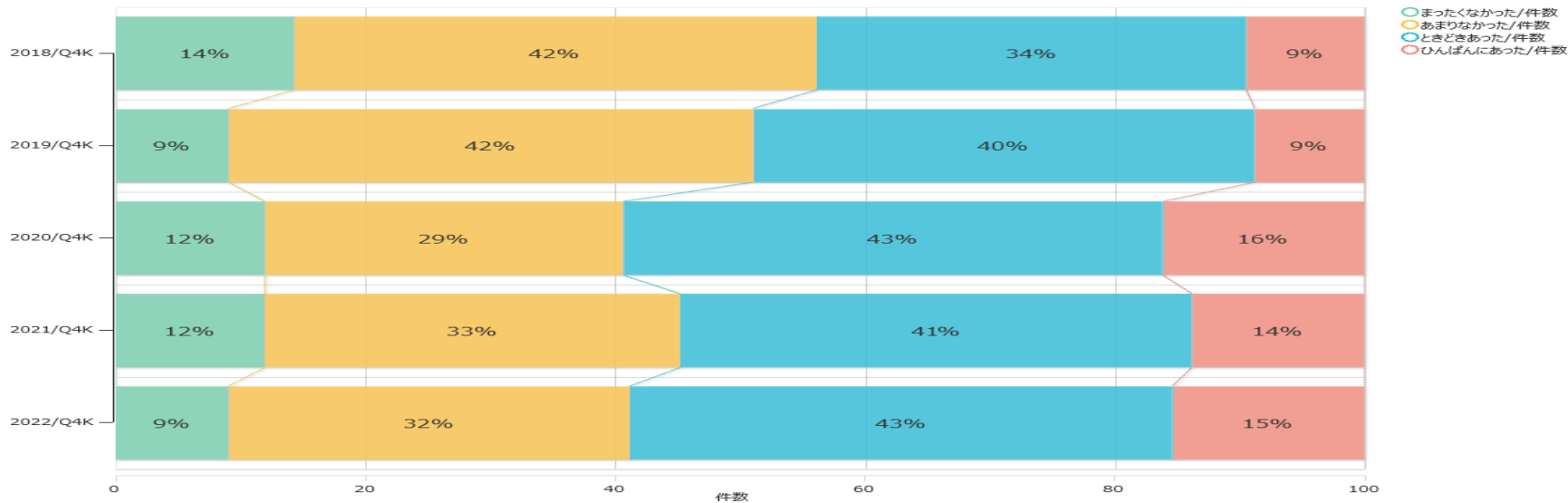
人間生活学部



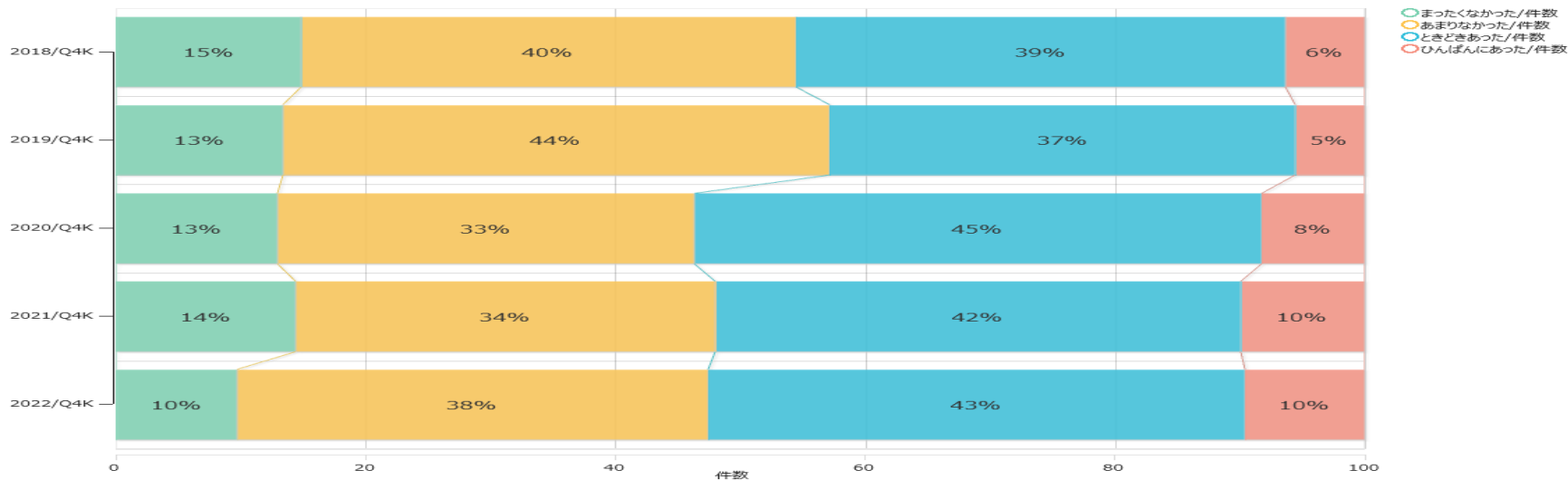
1-11. 授業の進め方に学生の意見が取り入れられる

【Q4-K】

文学部

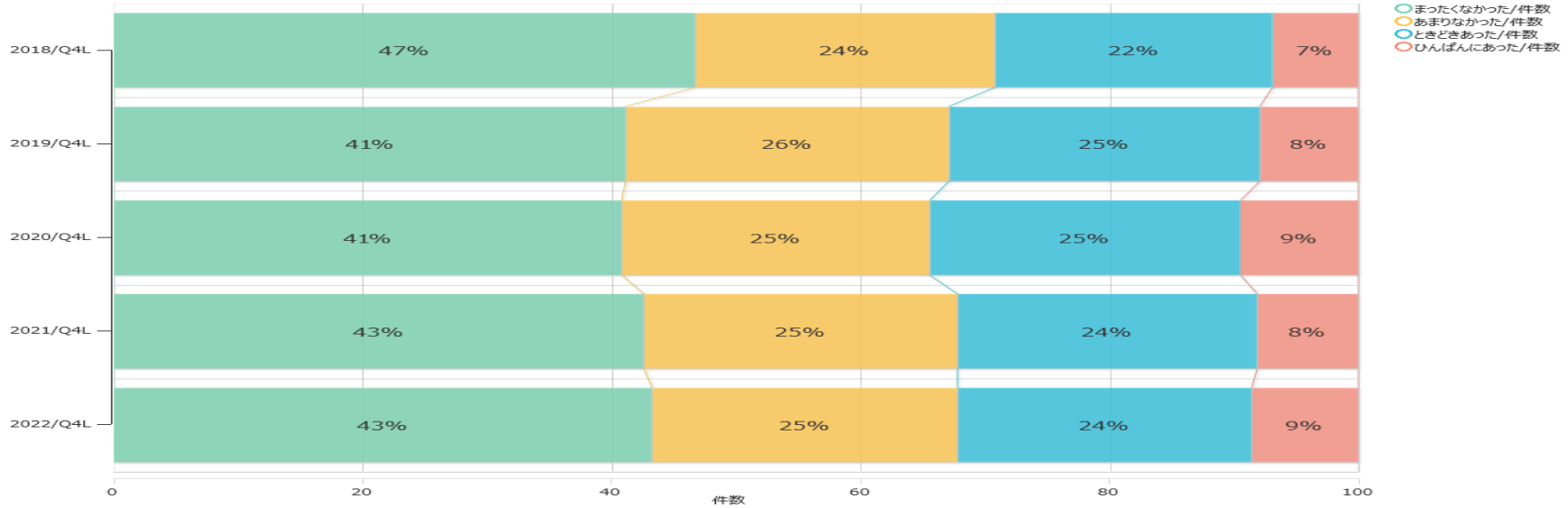


人間生活学部

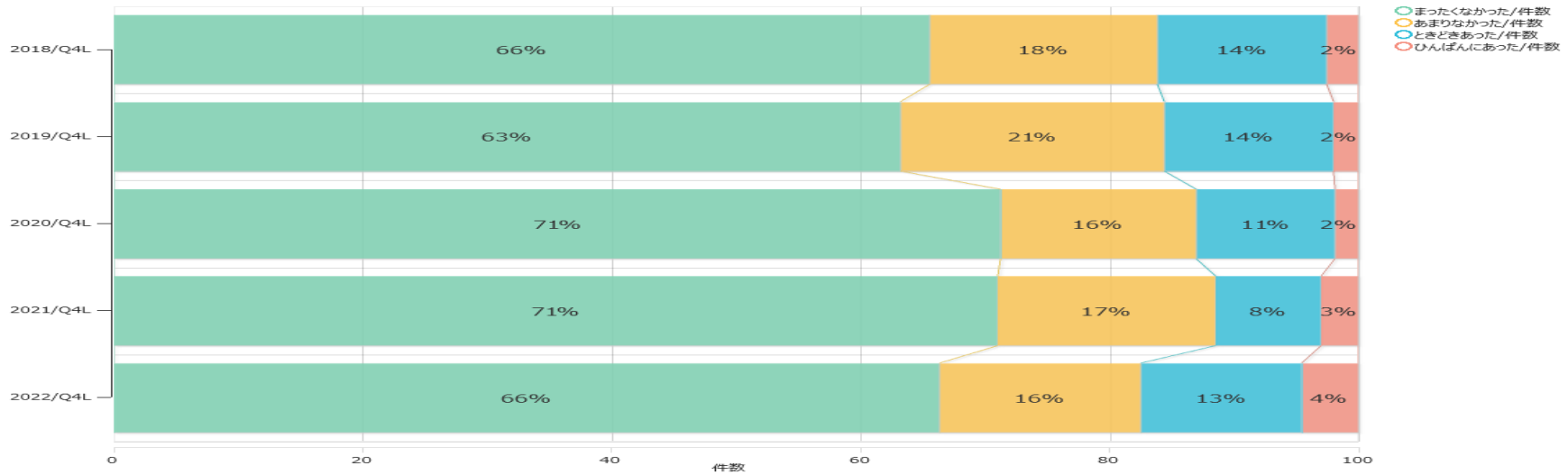


1-12. 取りたい授業を履修登録できなかった [Q4-L]

文学部

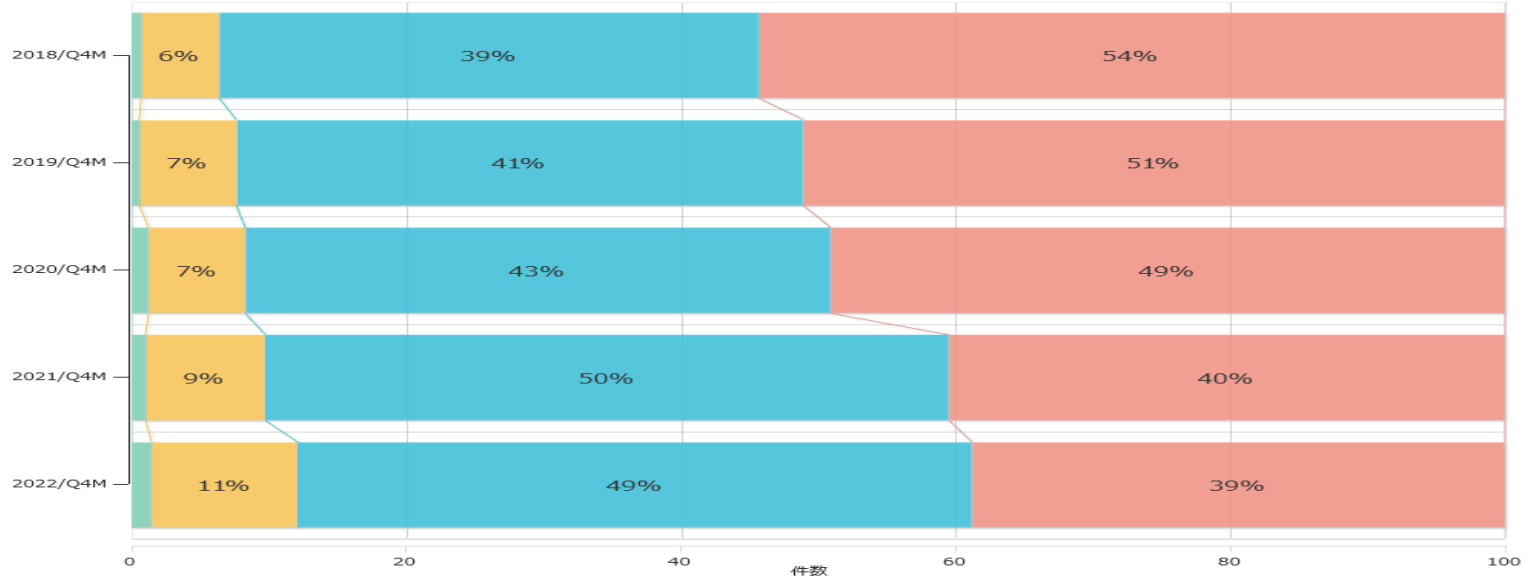


人間生活学部

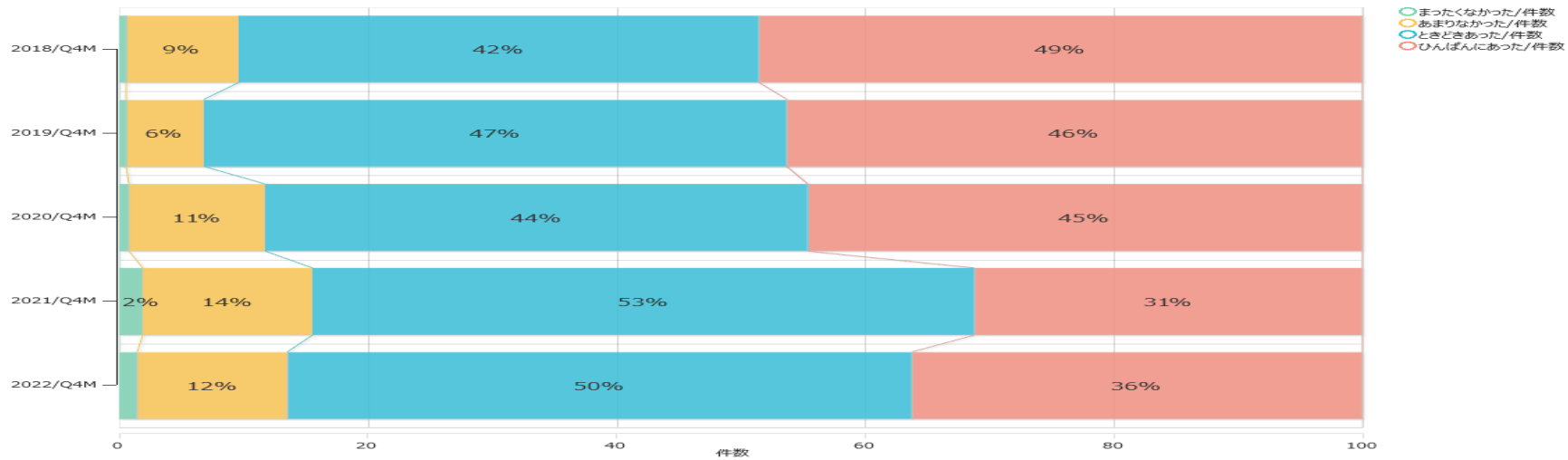


1-13. 出席することが重視される 【Q4-M】

文学部



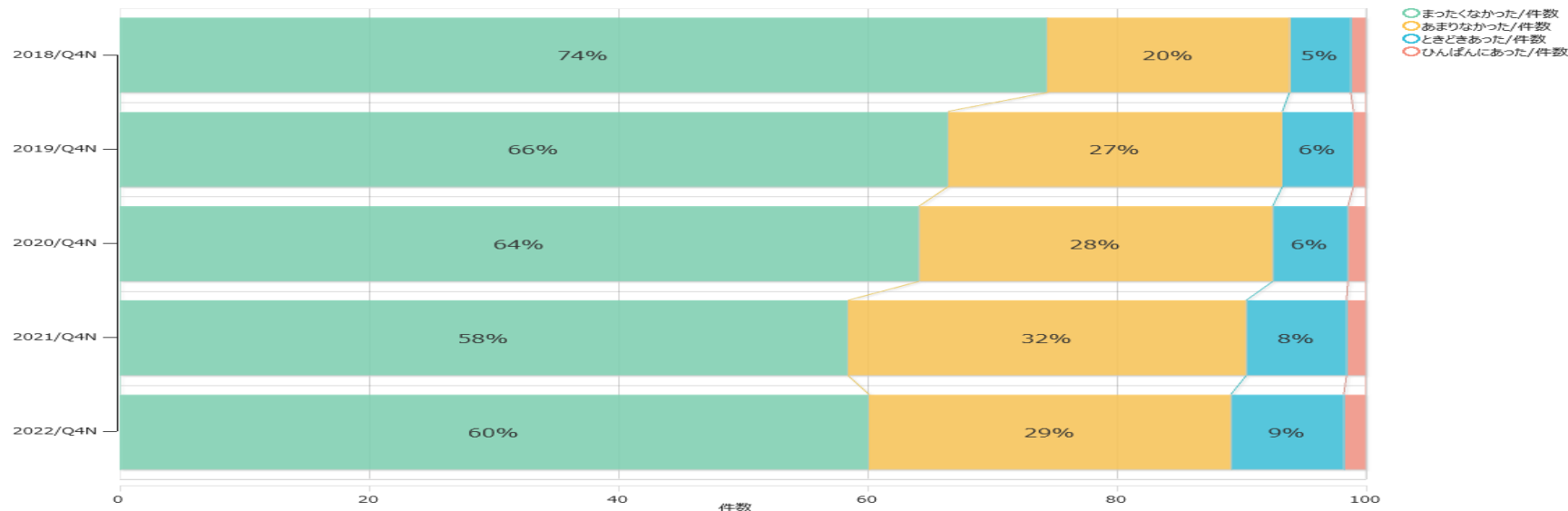
人間生活学部



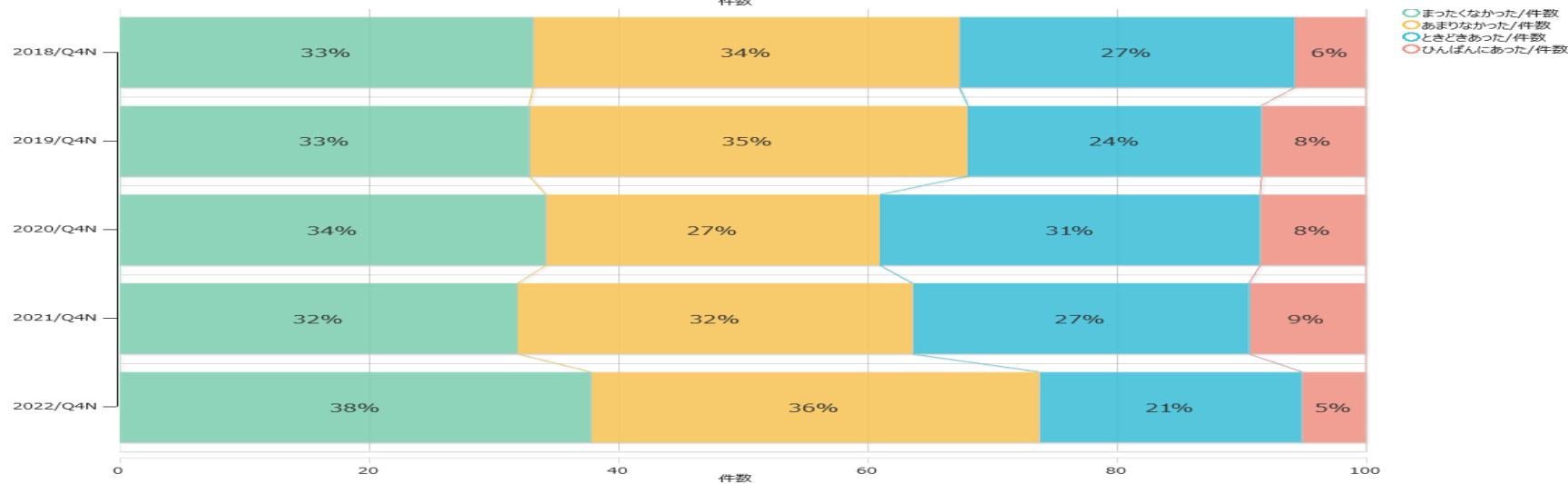
1-14. TAやSAなどの授業補助者から補助を受ける

【Q4-N】

文学部



人間生活学部



学部間の比較では前年度と同様、文学部学生は自らが関心のあるテーマを設定し（1-10）、自ら資料にあたる（1-5）などの自由度の高い学習や、発表の機会（1-8）を多く得ている一方で、人間生活学部では実習など（1-1）や日常場面に直結する授業（1-2・1-3）を多く経験し、仕事に役立つスキルや知識を身につける機会に恵まれている、といった違いが認められた。また、人間生活学部では授業補助者からの補助を受けていると感じる者の割合も多かった（1-14）。これらは、両学部間のカリキュラムや制度の違いを反映した結果だと考えられる。ただし、文学部においても教員が授業内容と社会や日常生活とのかかわりを説明（1-3）していると感じる学生が半数を超えていたり、人間生活学部でも特にコロナ禍以降は学生の発表の機会（1-8）が増えていたり、授業においてどちらの学部の学生も多様な経験をすることができていると推測できる。

年度による変遷を追っていくと、コロナ禍による非対面授業化（20年度）の影響から回復しつつあることがうかがえる。両学部とも、学生が体験的に学んだり（1-1）ボランティアをしたり（1-4）する機会が少しではあるが増加し、コロナ禍以前の水準に近付きつつある。また、日常場面とのつながりを感じられる機会（1-2・1-3）は、両学部とも、コロナ以前を含めて最多の割合であった。授業の進め方に学生の意見が取り入れられていると感じている（ときどき・ひんぱんにあったと回答した）学生も過去5年で最も多かった（1-11）。特に1-11に関しては、コロナ禍によって手探りの非対面授業を余儀なくされた20年度・21年度において、受講している学生からの意見や助言が非常に有用であったが、対面授業に戻った後もそうした学生-教員の関係性が維持され、22年度以降も更に学生の意向を尊重した授業運営になっているようである。

2. 学修に関する経験

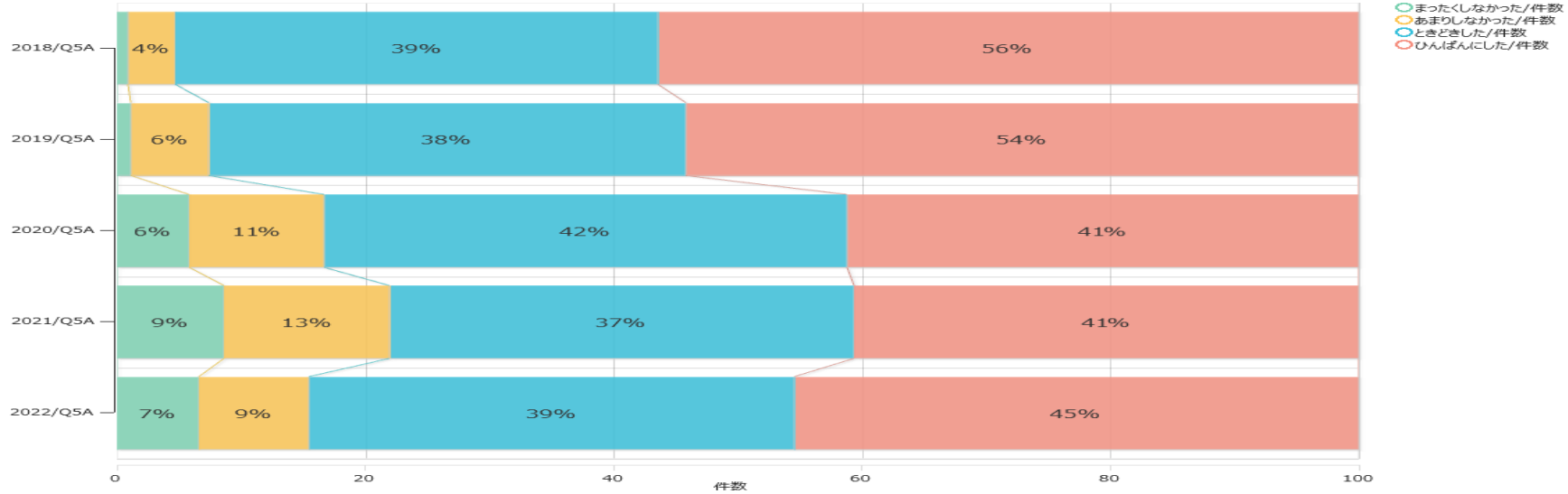
Q.大学の授業や授業以外の学習に関して、あなたは次のようなことをどのくらい経験しましたか。

- 2-1. 授業課題のために図書館の資料を利用した
- 2-2. 授業課題のためにWeb上の情報を利用した
- 2-3. インターネットを使って授業課題を受けたり、提出したりした
- 2-4. 提出期限までに授業課題を完成できなかった
- 2-5. 授業時間外に、他の学生と一緒に勉強したり、授業内容を話したりした
- 2-6. 授業中、教員の考え方や意見に異議を唱えた
- 2-7. 授業を欠席した
- 2-8. 授業に遅刻した
- 2-9. 授業をつまらなく感じた
- 2-10. 授業中に居眠りをした
- 2-11. 学内での学習支援を受けた(教職員に学習に関する相談をした、学内の学習支援室を利用した等)
- 2-12. 単位とは関係のない教員あるいは学生による自主的な勉強会に参加した
- 2-13. 大学の教職員に将来のキャリアの相談をした(卒業後の進路や職業選択など)
- 2-14. 教員に親近感を感じた

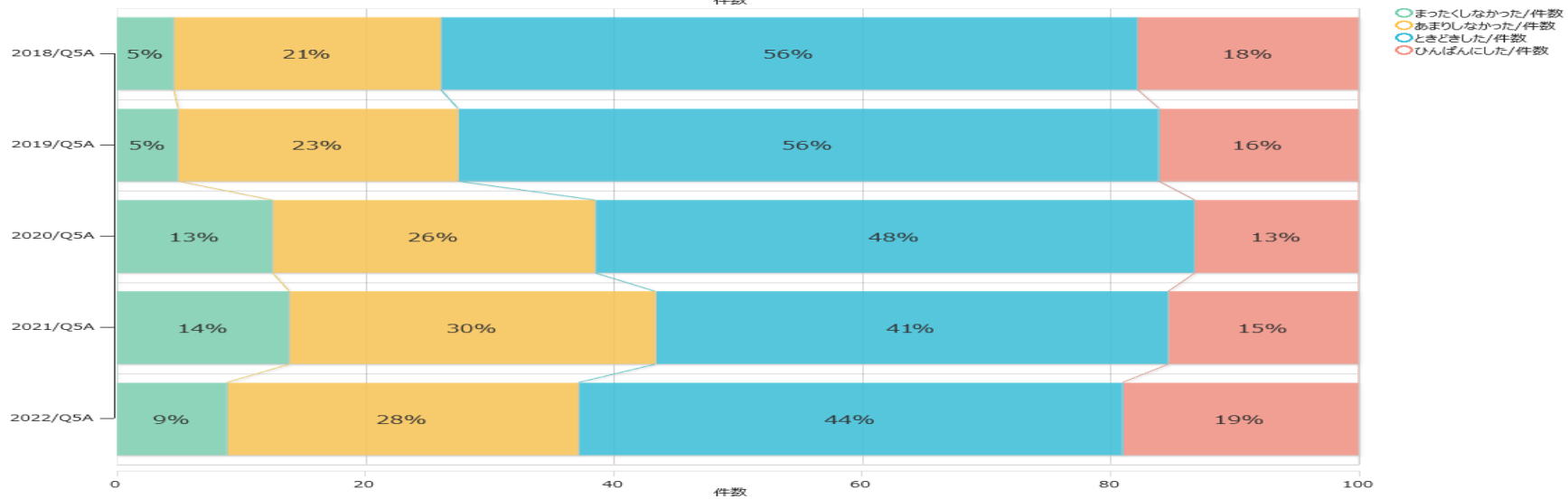
2-1. 授業課題のために図書館の資料を利用した

【Q5-A】

文学部

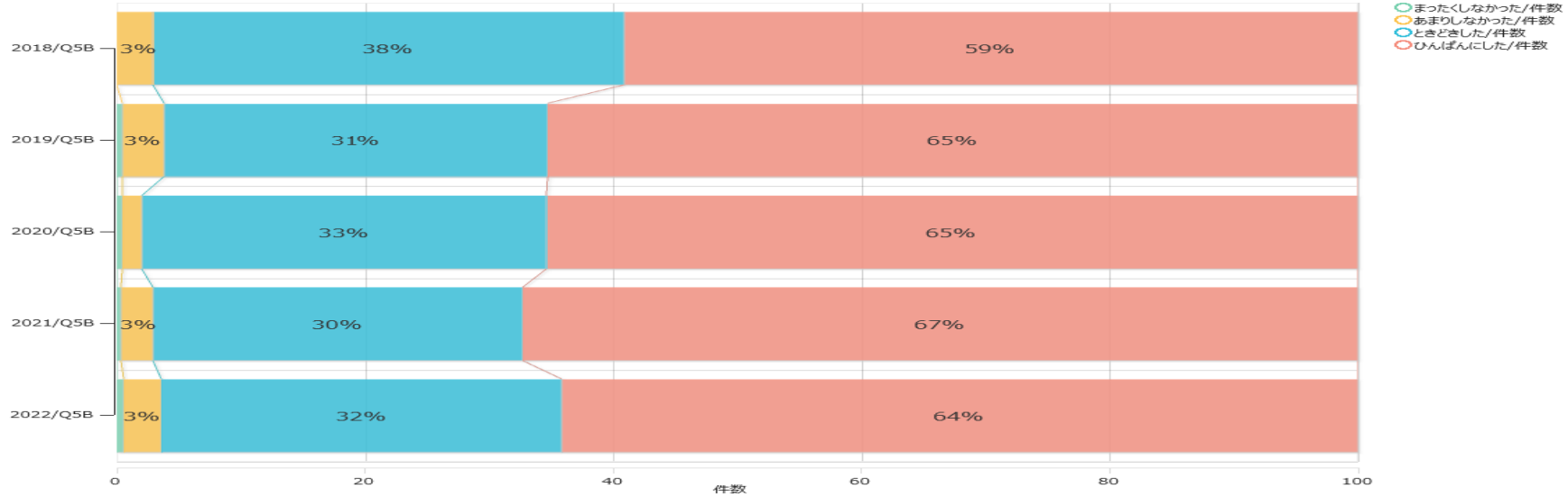


人間生活学部

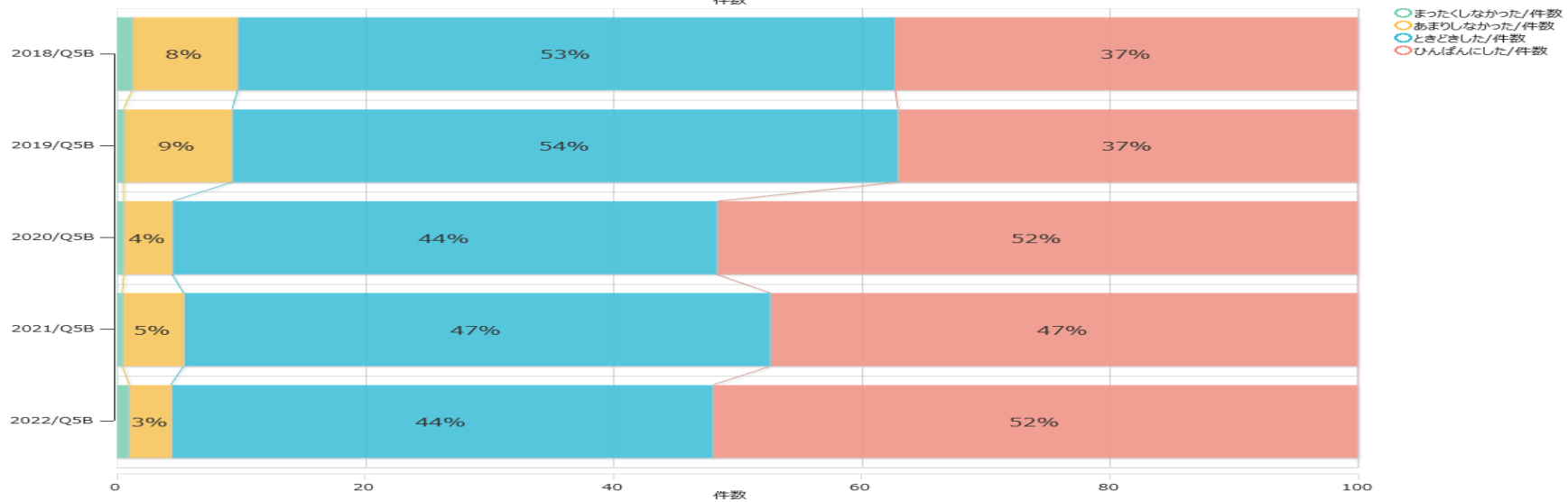


2-2. 授業課題のためにWeb上の情報を利用した 【Q5-B】

文学部

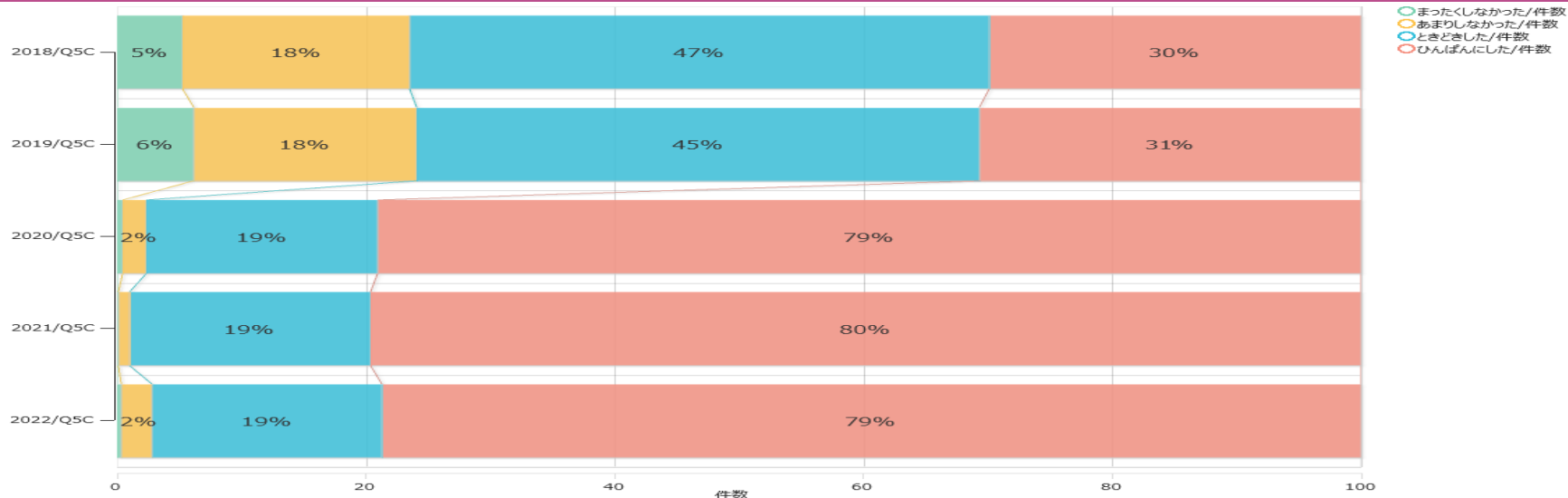


人間生活学部

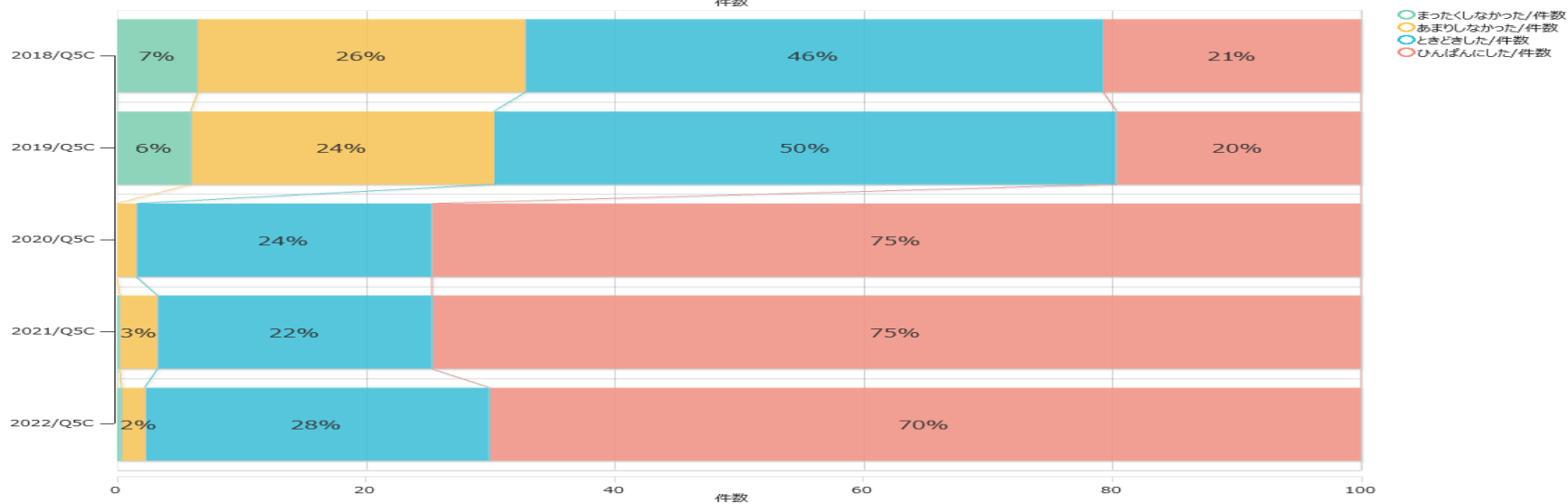


2-3. インターネットを使って授業課題を受けたり、提出したりした

文学部

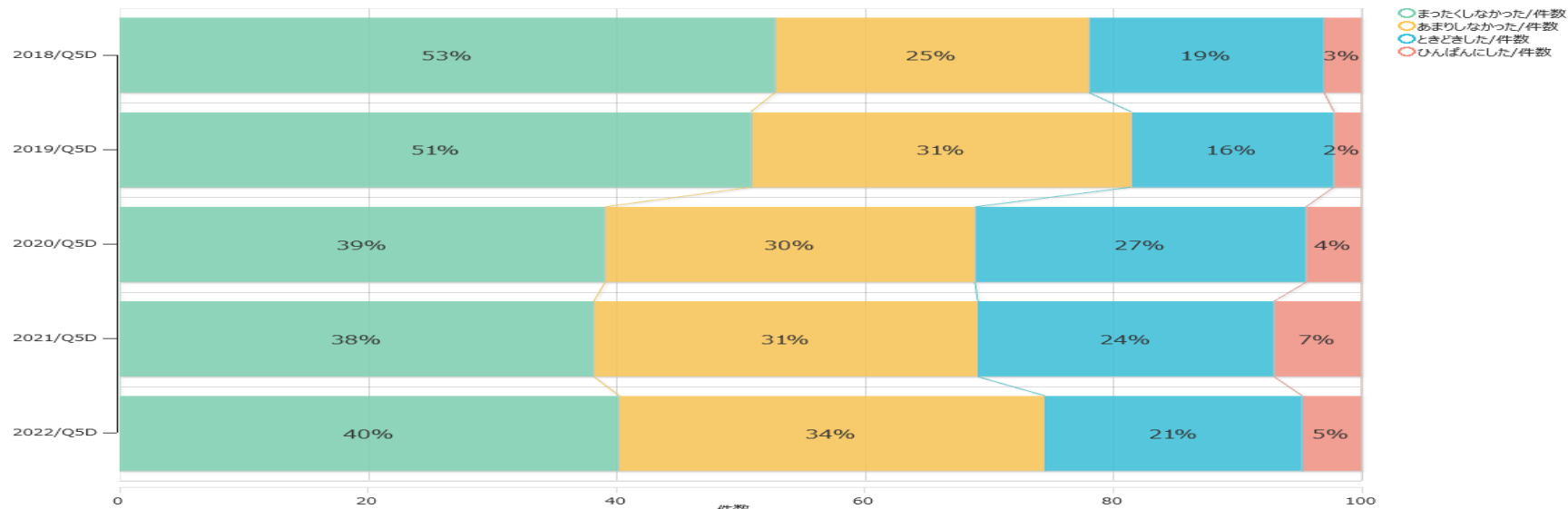


人間生活学部

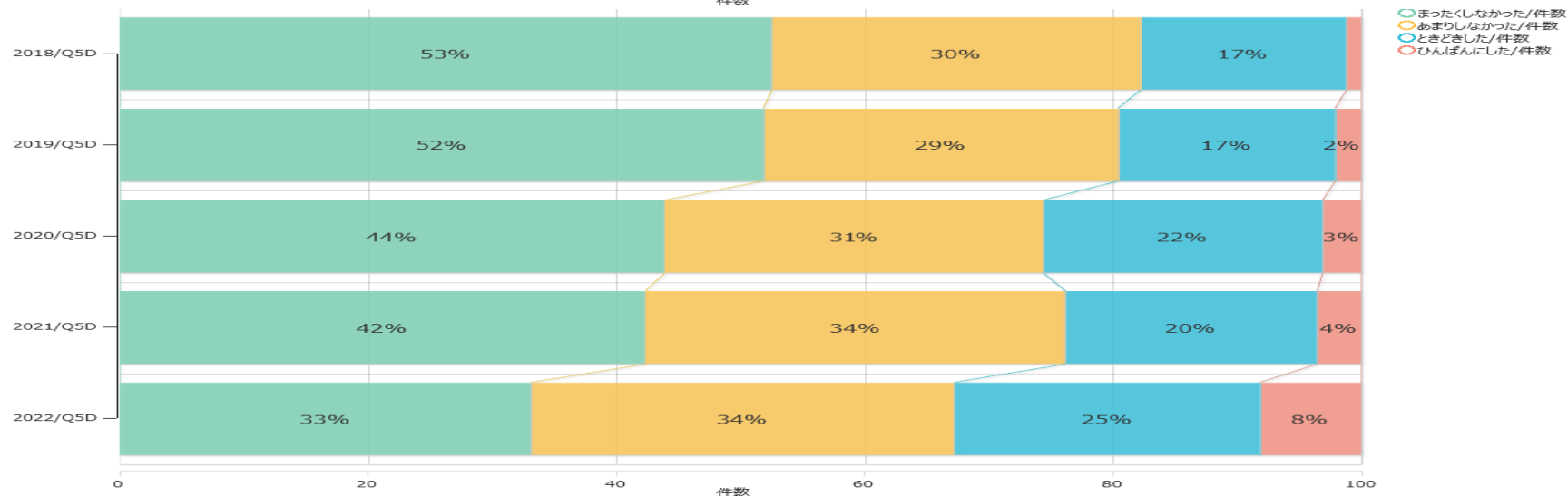


2-4. 提出期限までに授業課題を完成できなかった 【Q5-D】

文学部



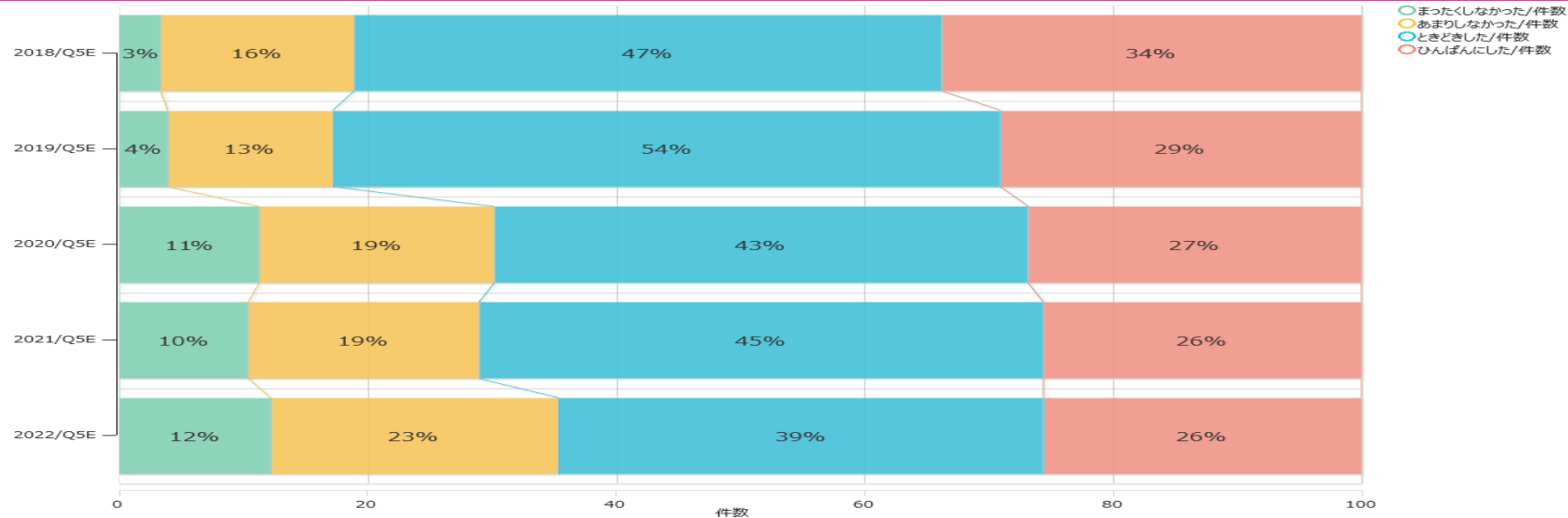
人間生活学部



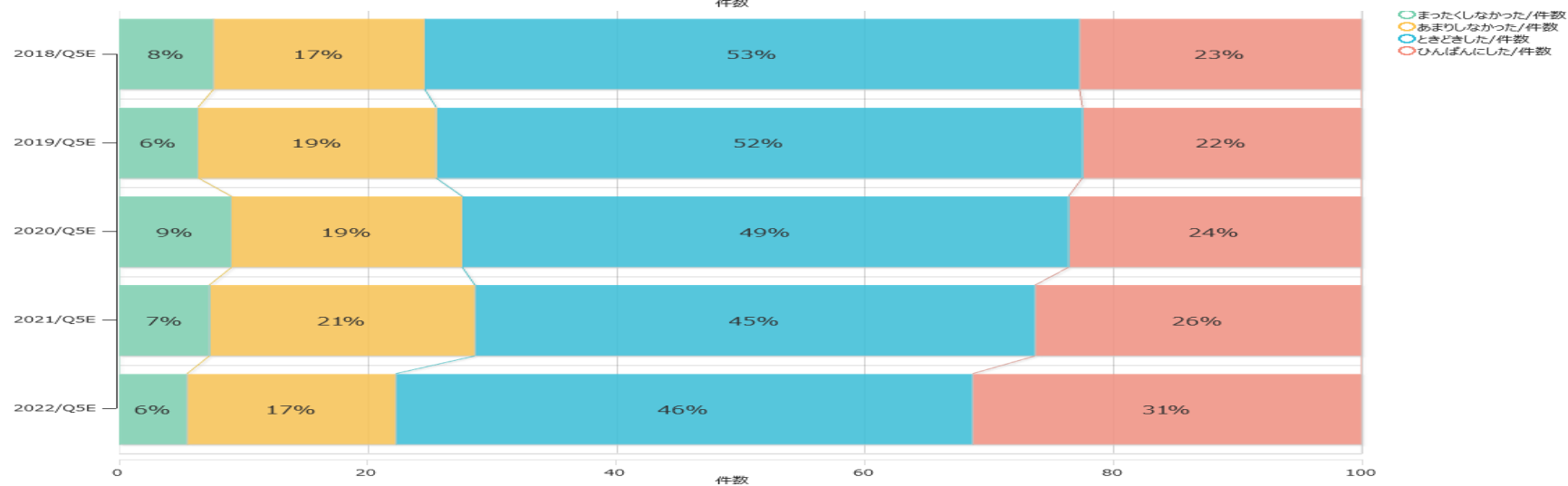
2-5. 授業時間外に、他の学生と一緒に勉強したり、授業内容を話したりした

【Q5-E】

文学部

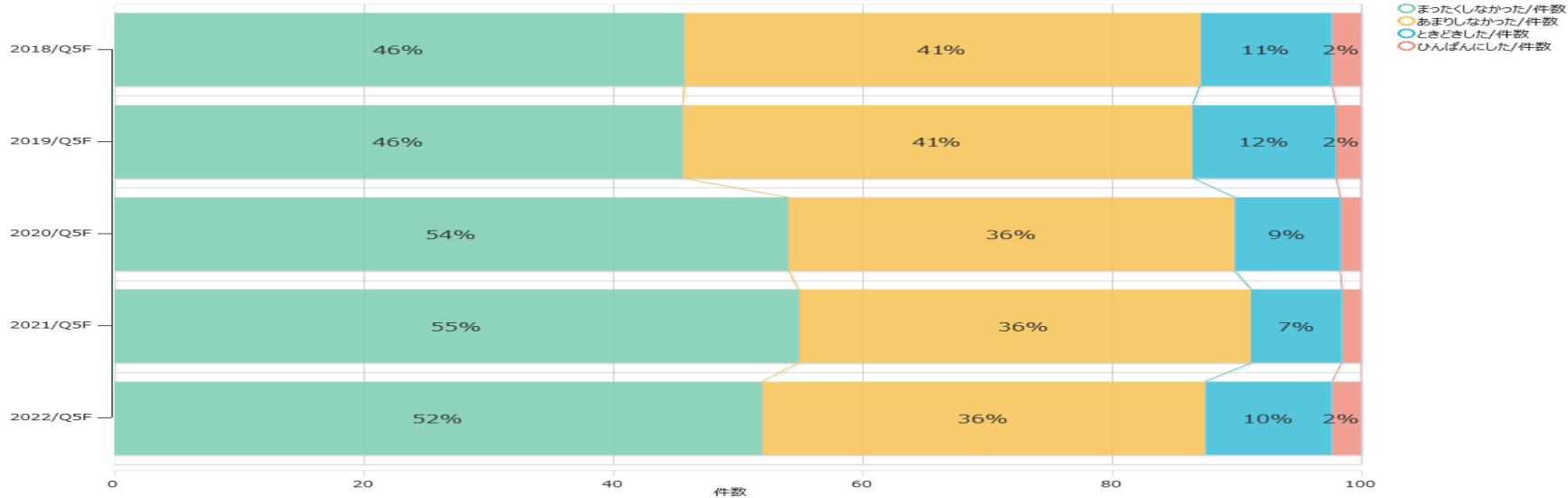


人間生活学部

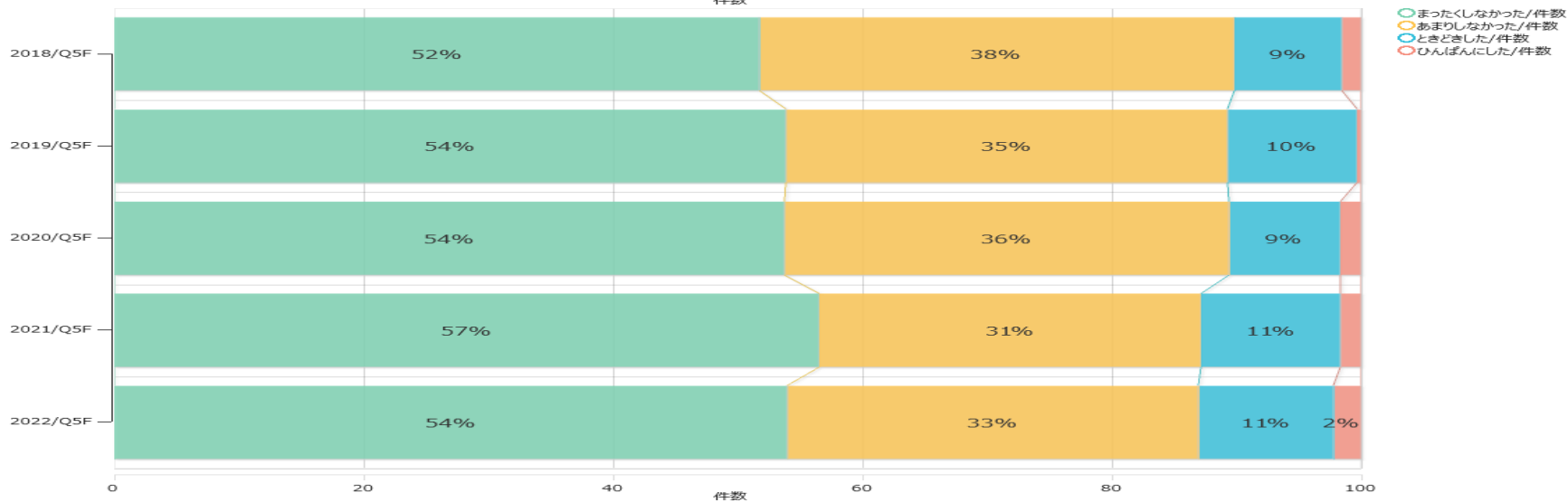


2-6. 授業中、教員の考え方や意見に異議を唱えた 【Q5-F】

文学部

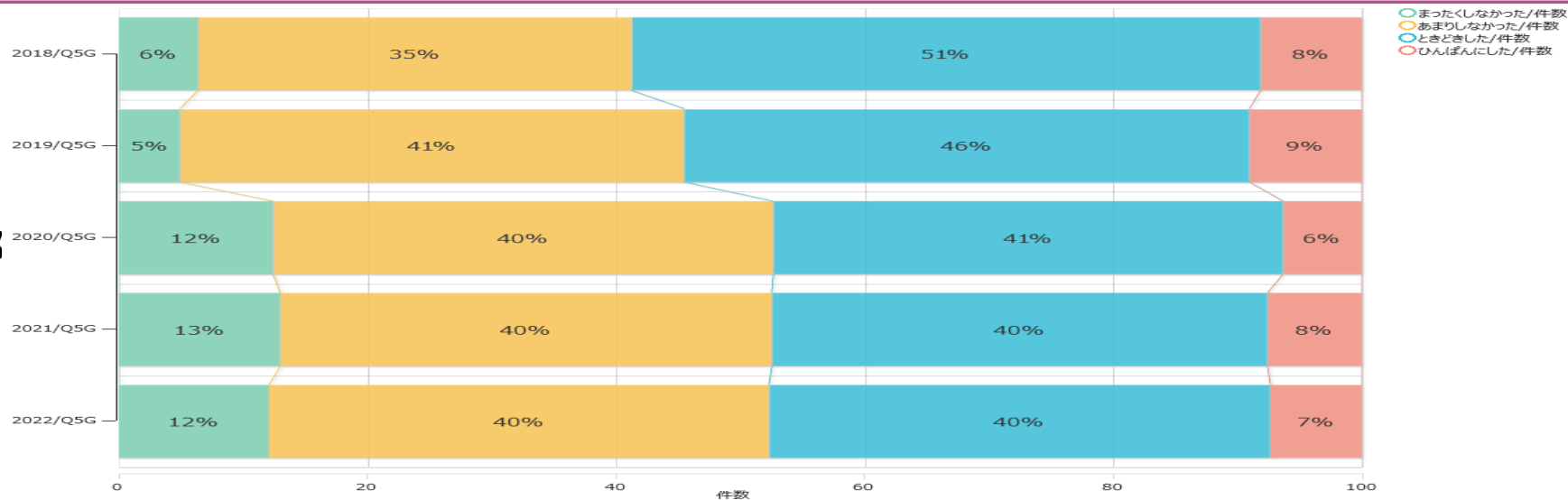


人間生活学部

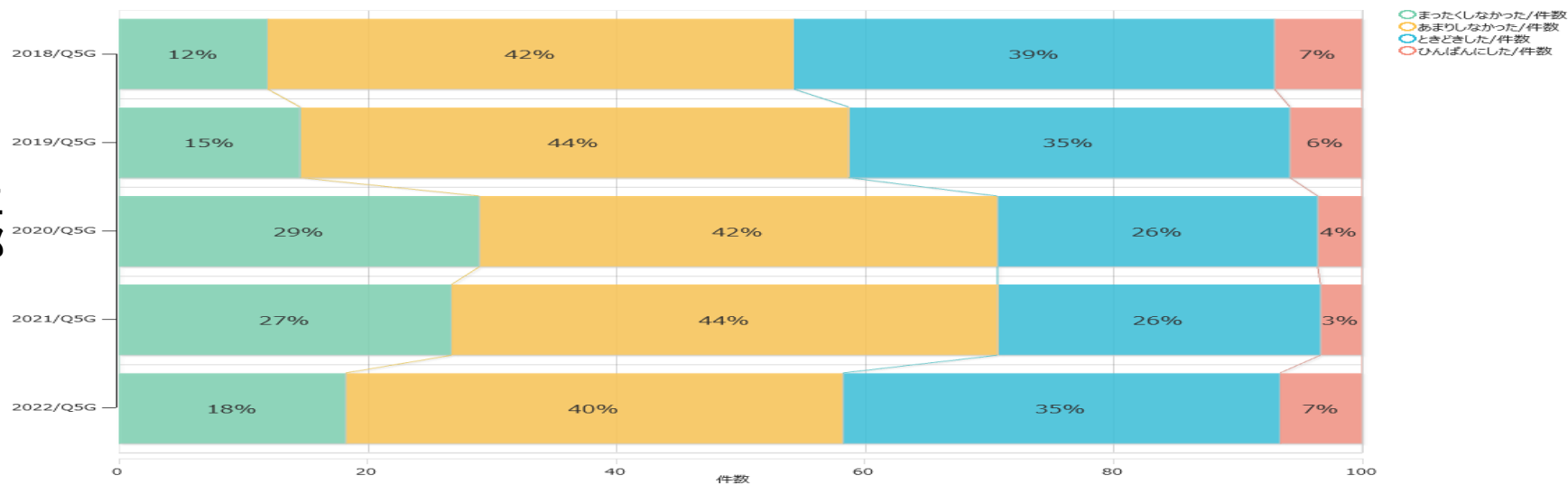


2-7. 授業を欠席した 【Q5-G】

文学部

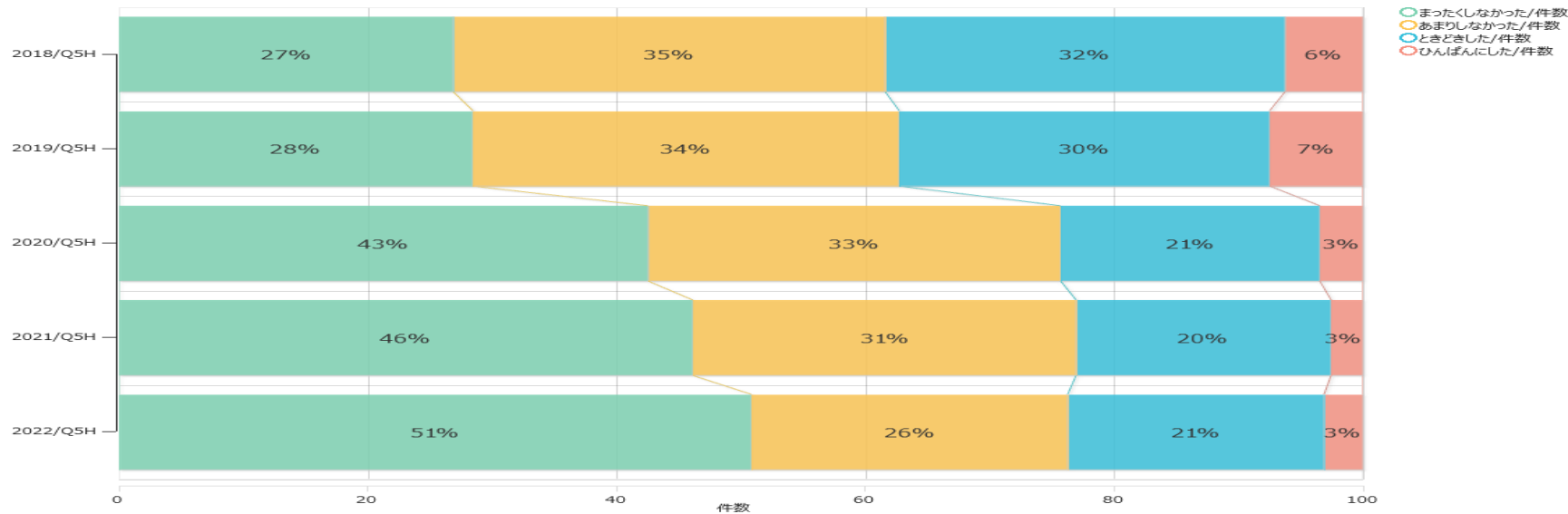


人間生活学部

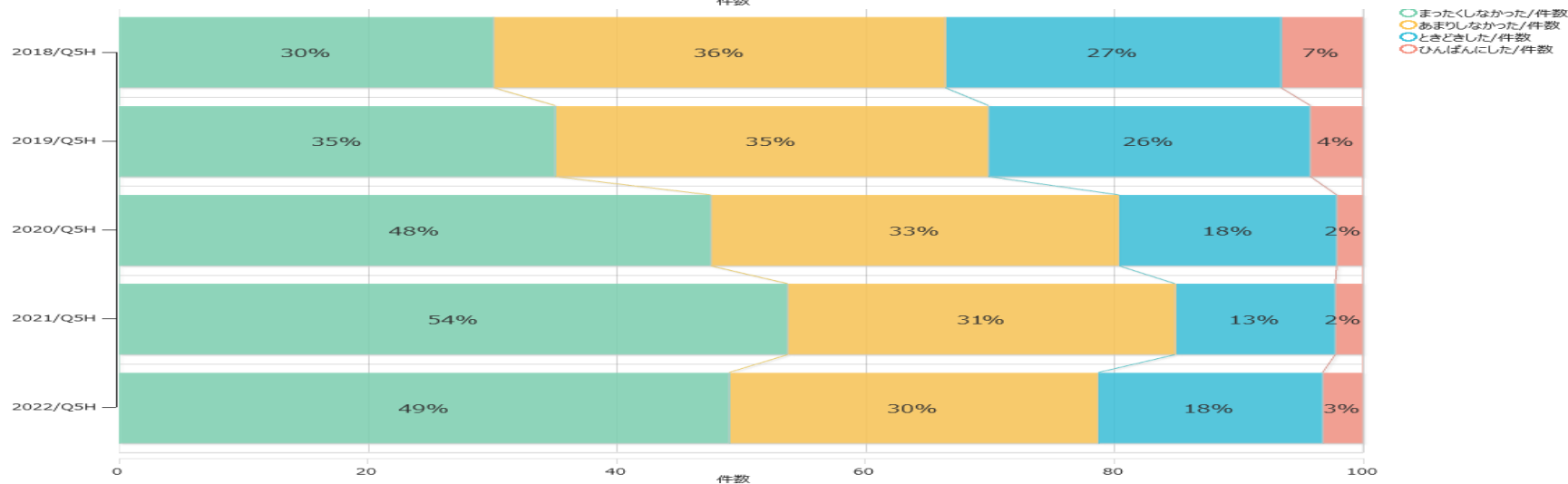


2-8. 授業に遅刻した 【Q5-H】

文学部

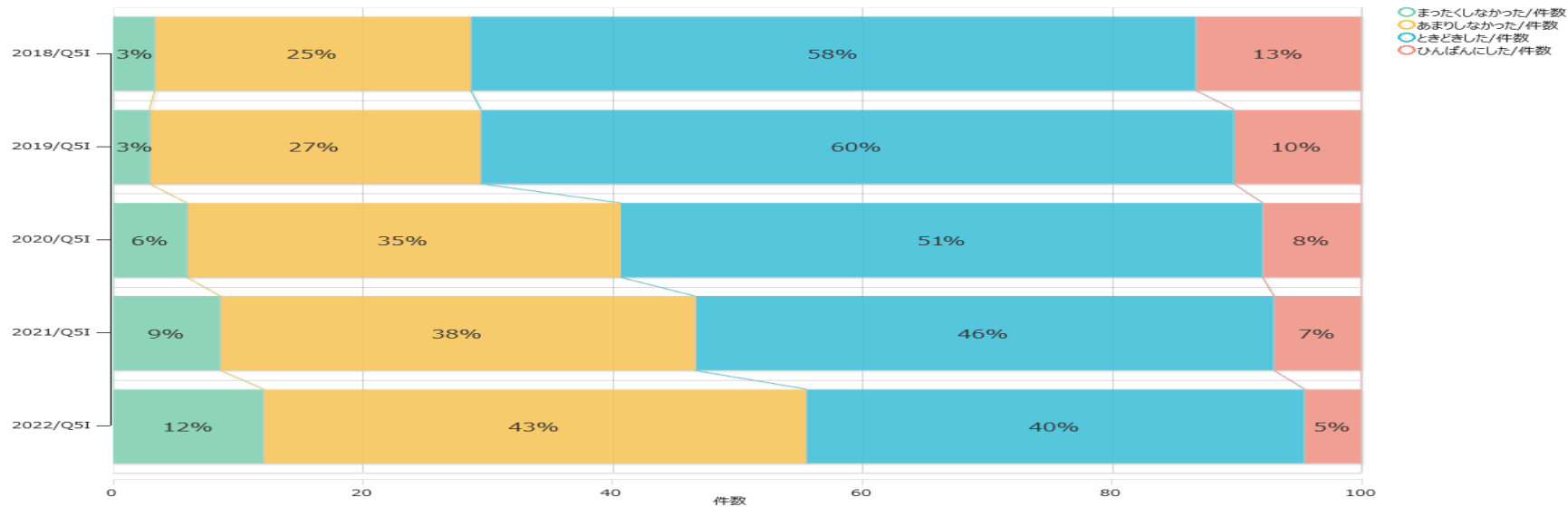


人間生活学部

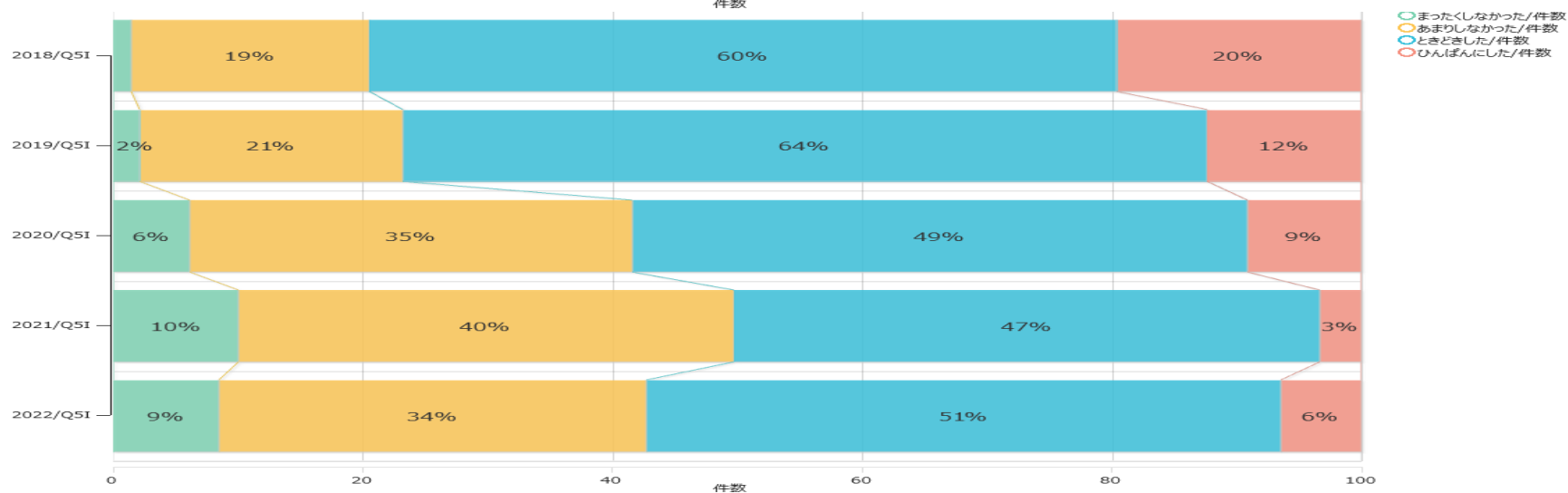


2-9. 授業をつまらなく感じた 【Q5-I】

文学部

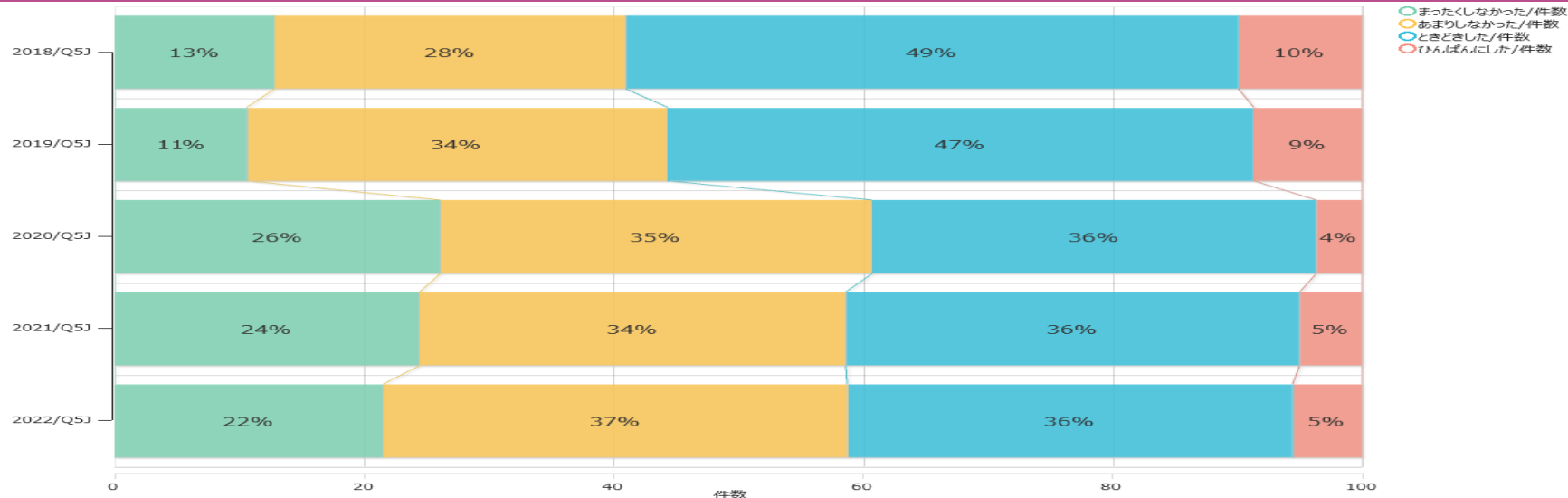


人間生活学部

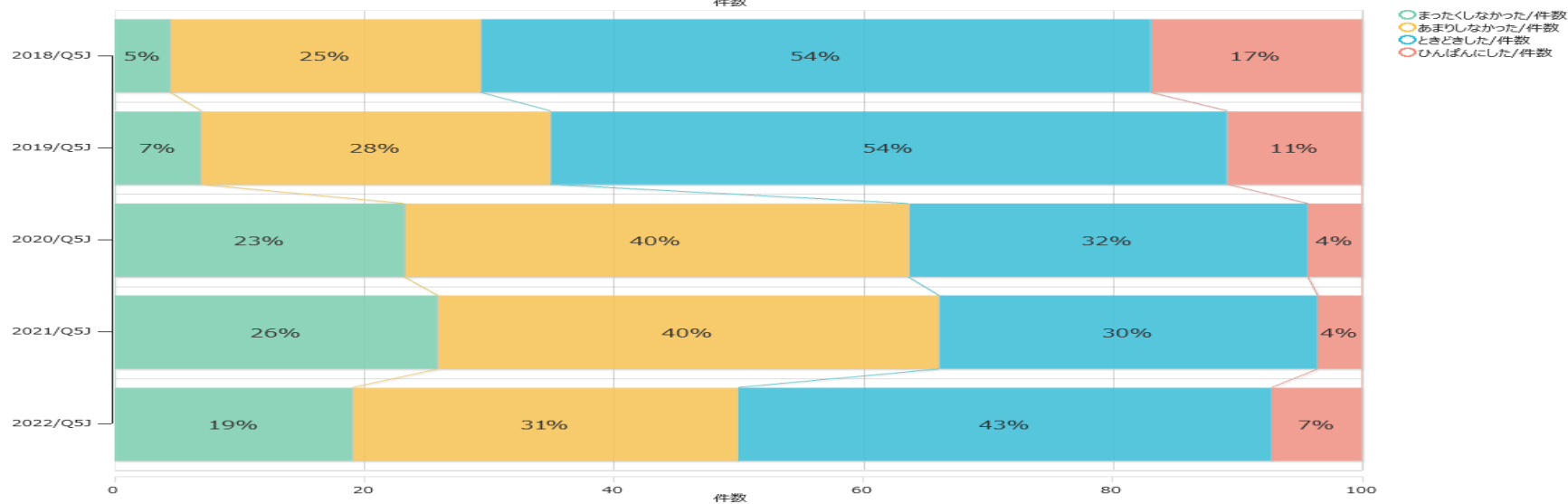


2-10. 授業中に居眠りをした 【Q5-J】

文学部



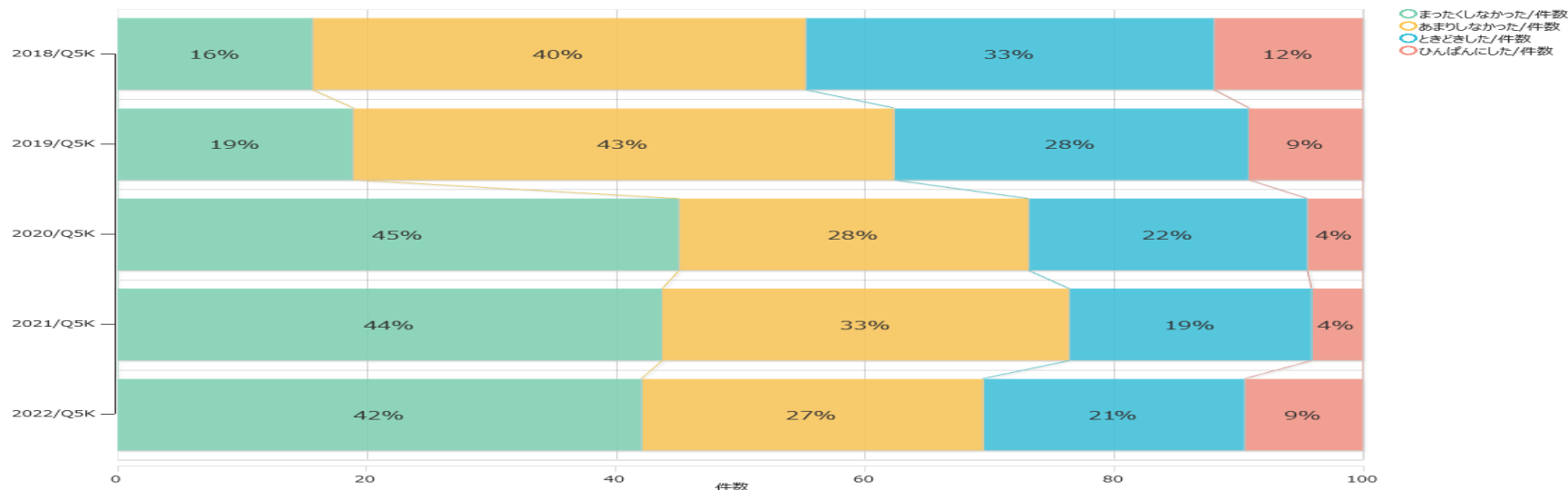
人間生活学部



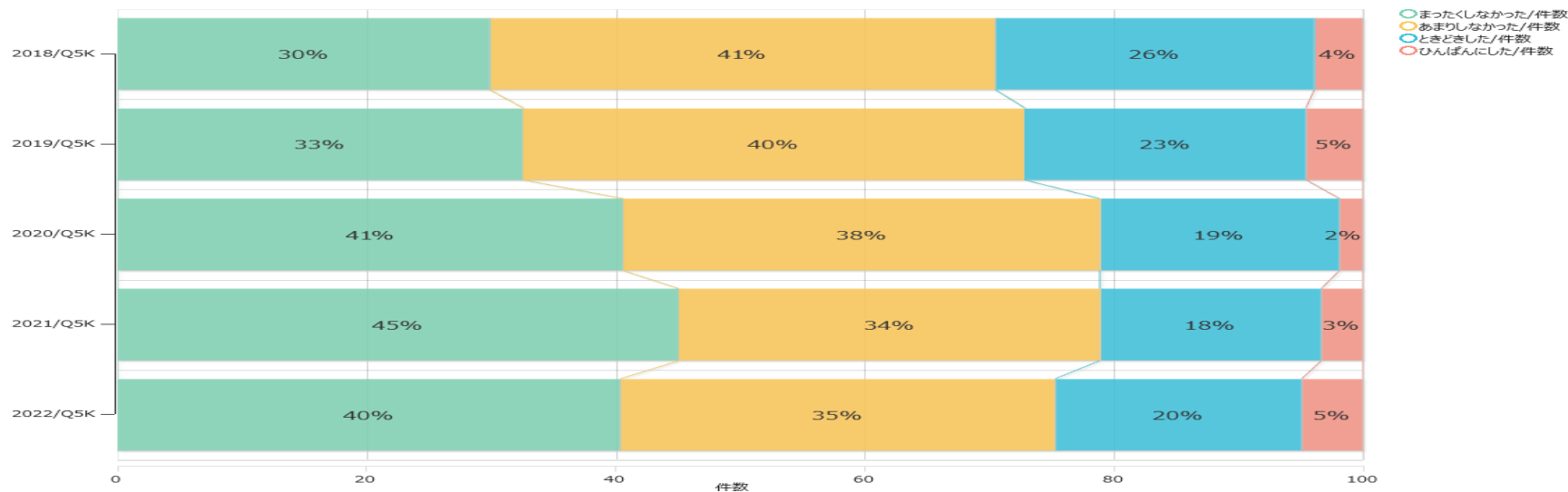
2-11. 学内での学習支援を受けた 【Q5-K】

(教職員に学習に関する相談をした、学内の学習支援室を利用した等)

文学部

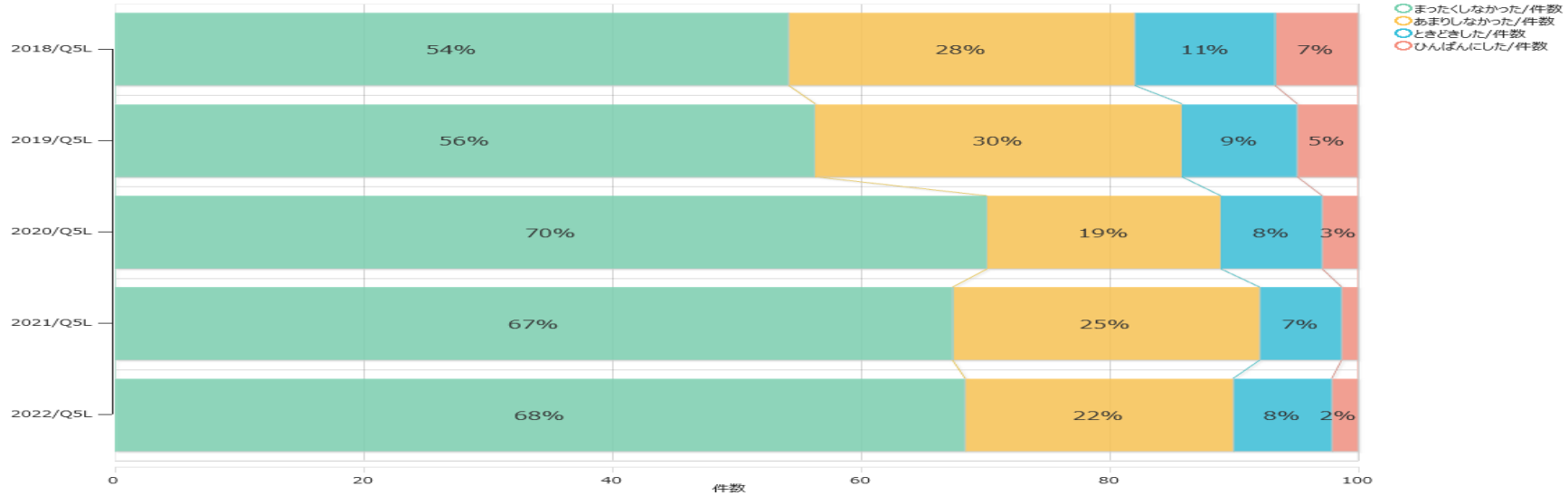


人間生活学部

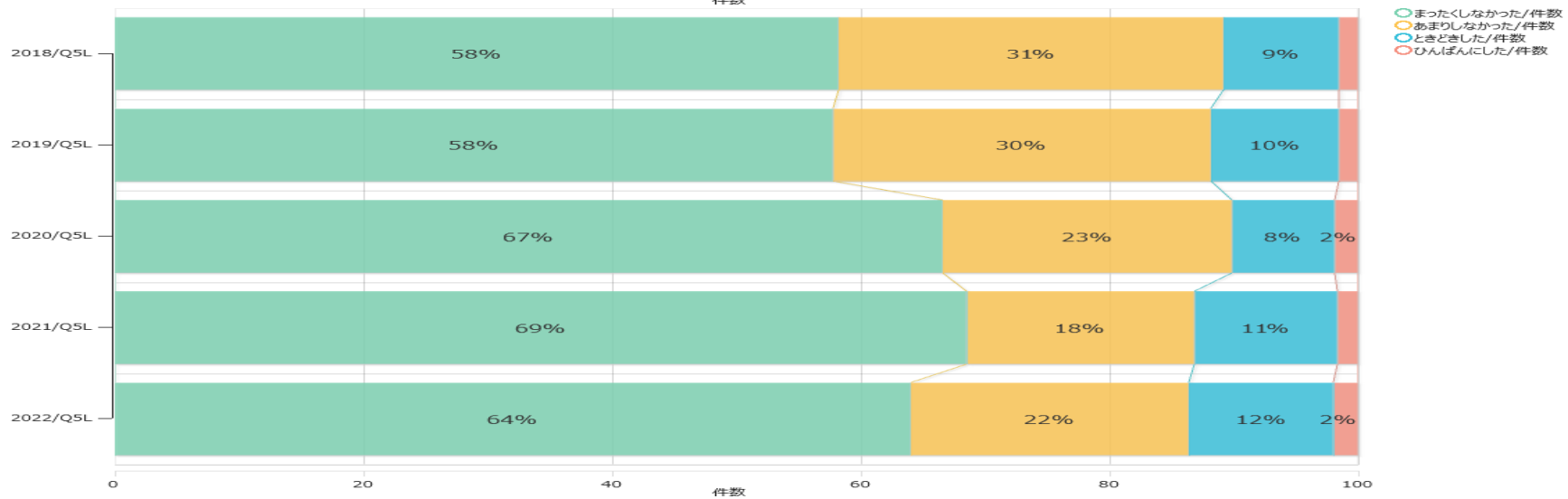


2-12. 単位とは関係のない教員あるいは学生による自主的な勉強会に参加した【Q5-L】

文学部



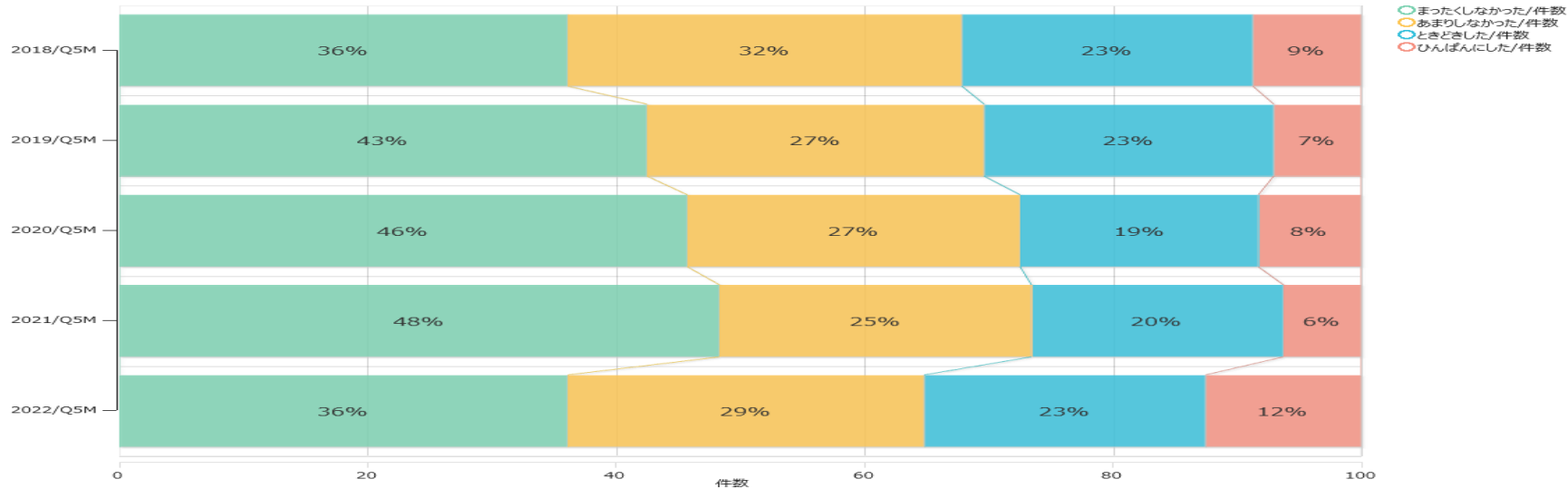
人間生活学部



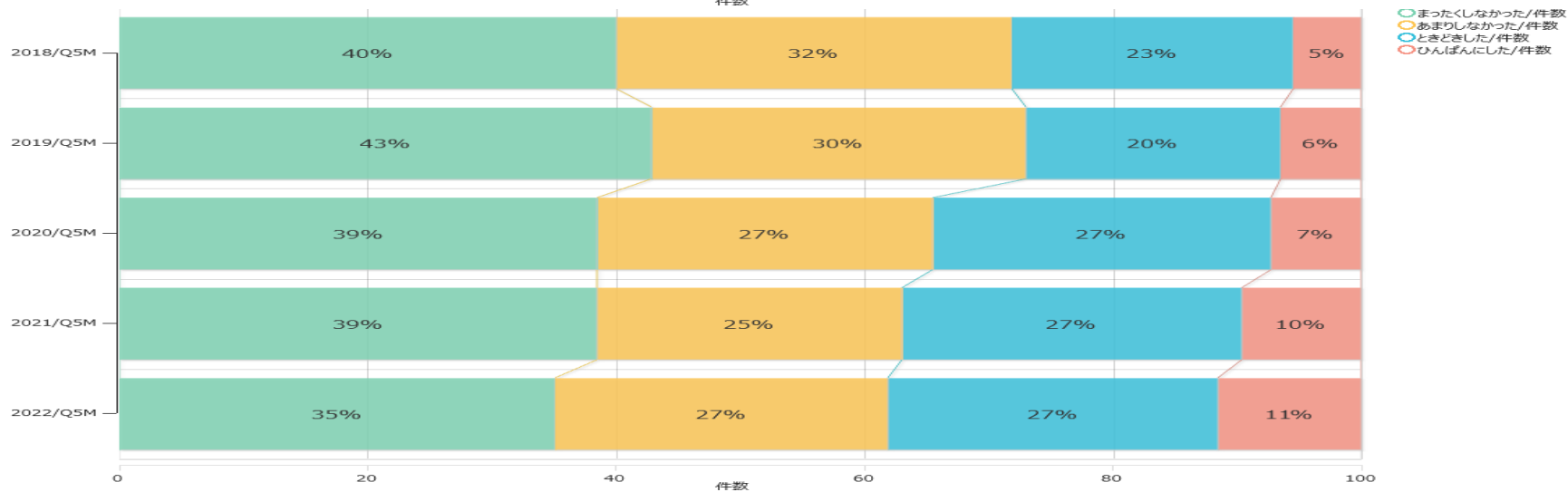
2-13. 大学の教職員に将来のキャリアの相談をした (卒業後の進路や職業選択など)

【Q5-M】

文学部

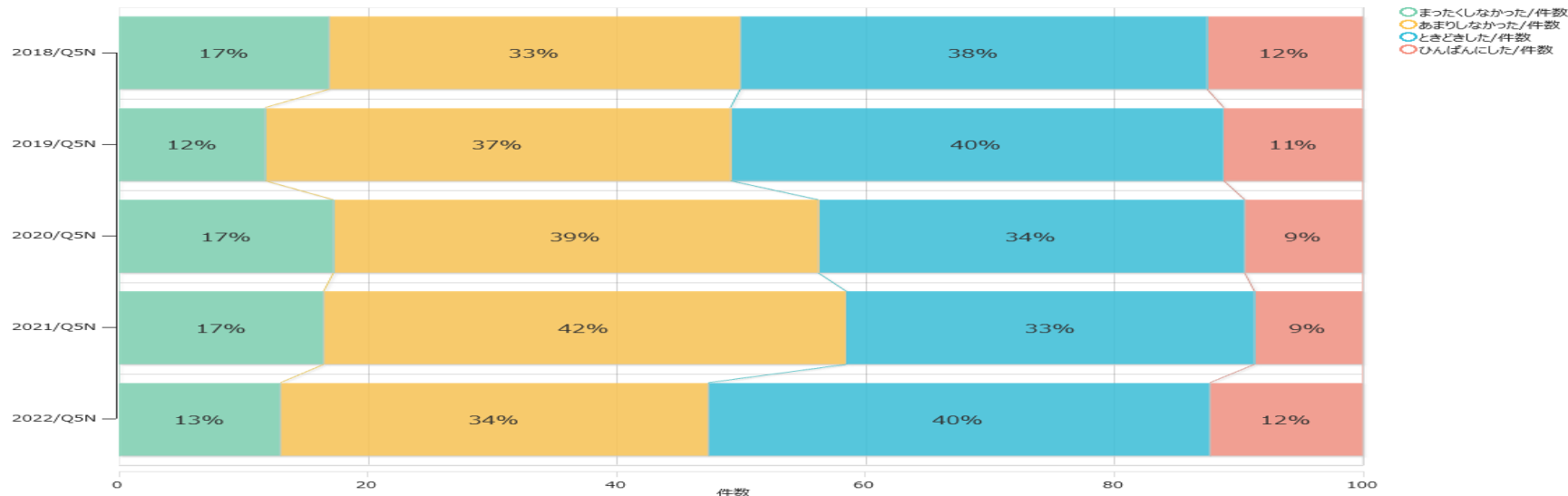


人間生活学部

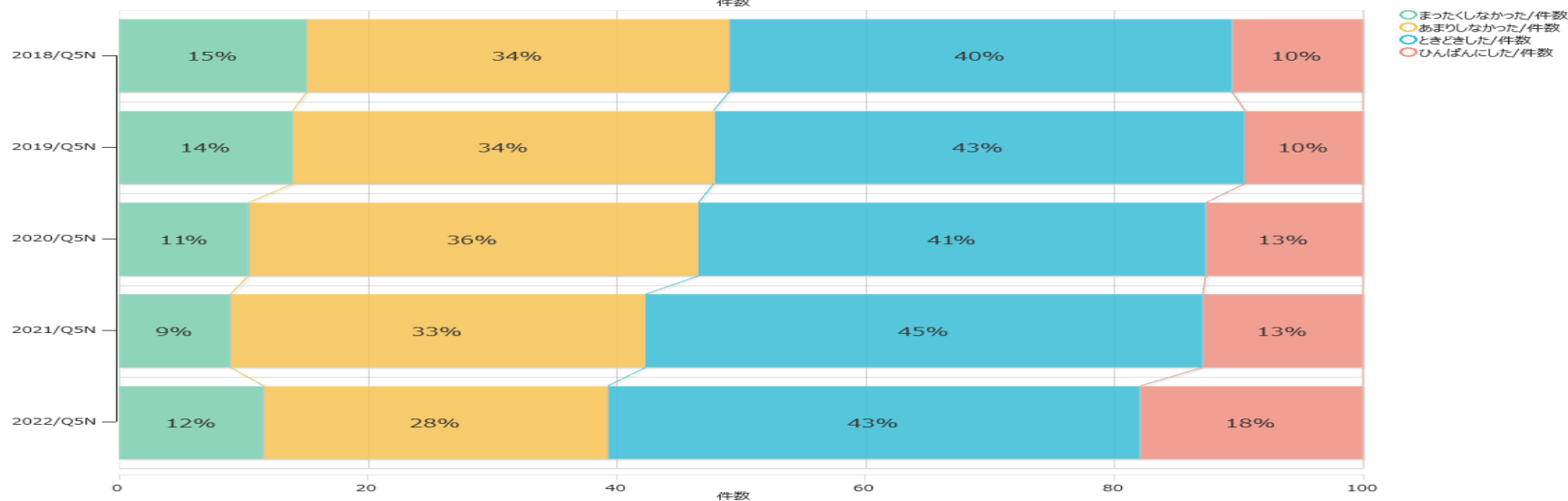


2-14. 教職員に親近感を感じた 【Q5-N】

文学部



人間生活学部



コロナ禍前後でアンケートの回答傾向に差があり、コロナ禍を経て、社会が大きく変化し、それによって大学の授業も、学生の質も大きく変化していることが見て取れる。

オンライン授業の一般化、生成系AIの普及など、授業構造の転換が求められているが、本学ではまだまだ対応しきれていない部分が多い。こういった変化は今後加速していくことから、変化を見定め、それにどのように向き合っていくかを、大学として素早く決定していく必要がある。

一方でポジティブな面もあり、2 - 7から2 - 10の設問では、授業に興味をもつ学生が増え、欠席や居眠りといった項目が減少傾向にある。これは非対面授業を通じて授業の見直しが図られたことが要因として考えられる。

このように常に授業をアップデートし続けることは、こんごの変化に対応するうえで必要なことであり、大学全体として授業の見直しを図る仕組みづくりを行い、継続して改善を進めていく姿勢を維持し続けなければならない。

3. 時間の使い方

Q. あなたは次の活動に1週間あたりどのくらいの時間を費やしましたか。

3-1. 授業や実験に出る

3-2. 授業時間外に、授業課題や準備学習、復習をする

3-3. 授業時間外に、授業に関連しない勉強をする

3-4. オフィスアワーなど、授業時間外に教員と面談する

3-5. 部活動や同好会に参加する

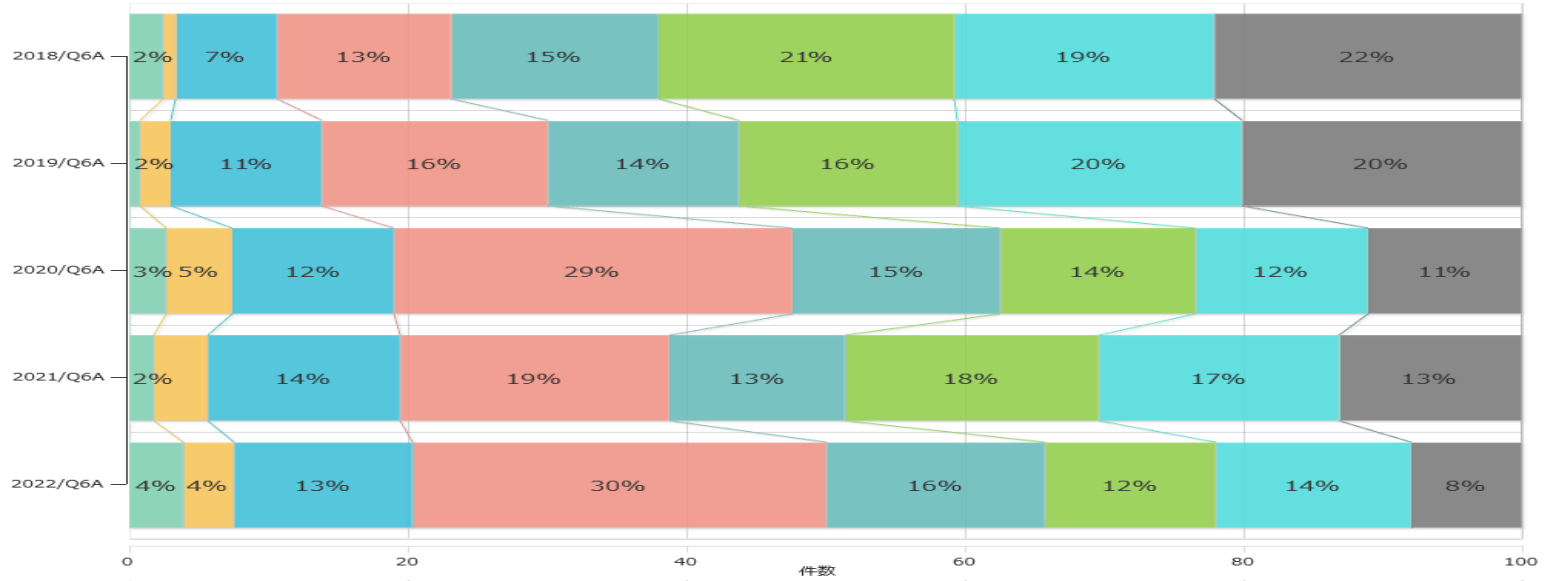
3-6. 大学外でアルバイトや仕事をする

3-7. 読書をする（マンガ・雑誌を除く）

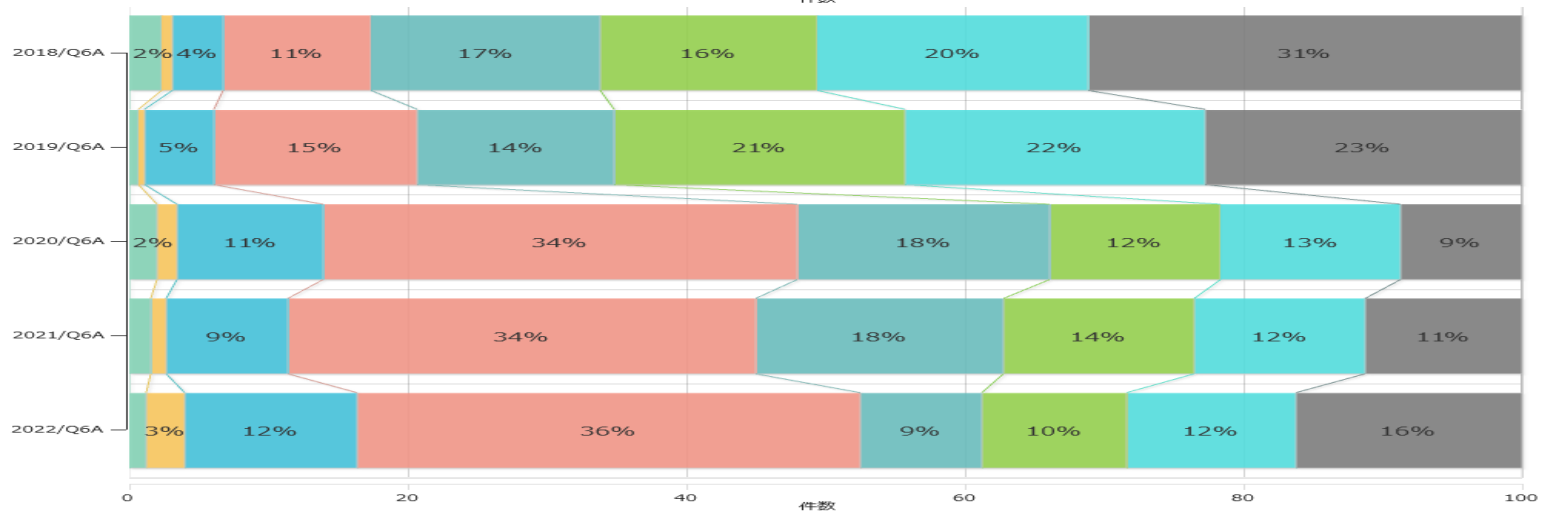
3-8. 個人的な趣味活動をする（テレビやゲーム、映画鑑賞など）

3-1. 授業や実験に出る [Q6-A]

文学部

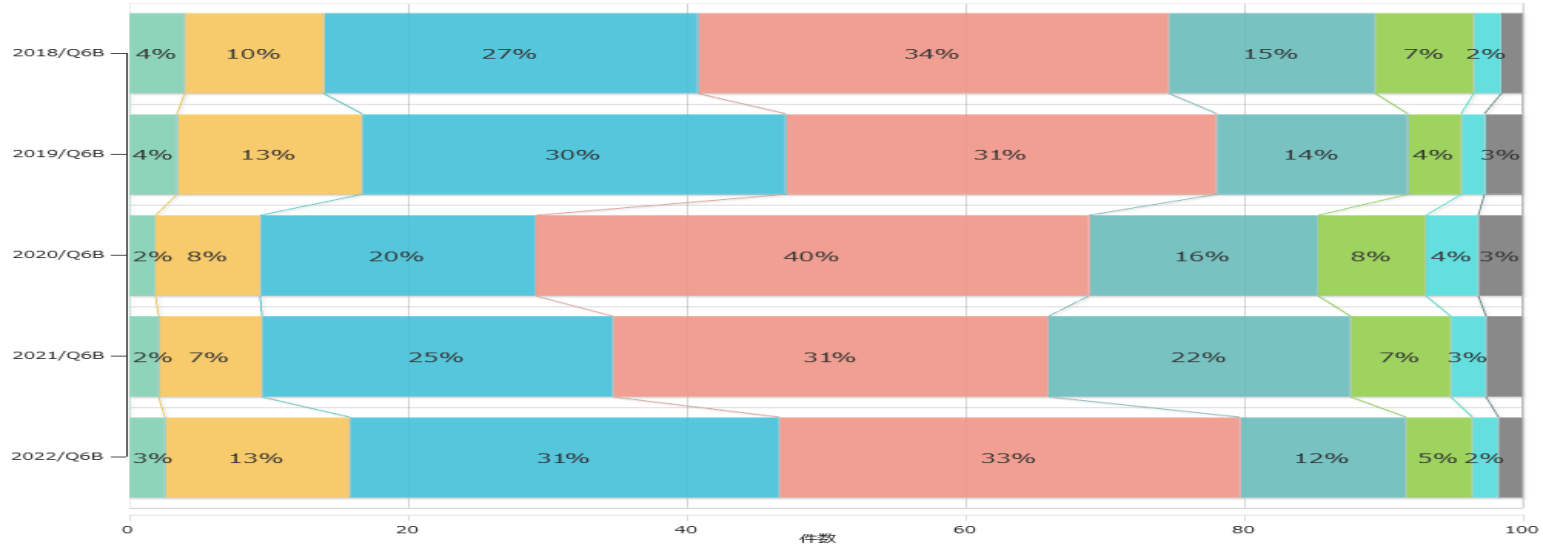


人間生活学部

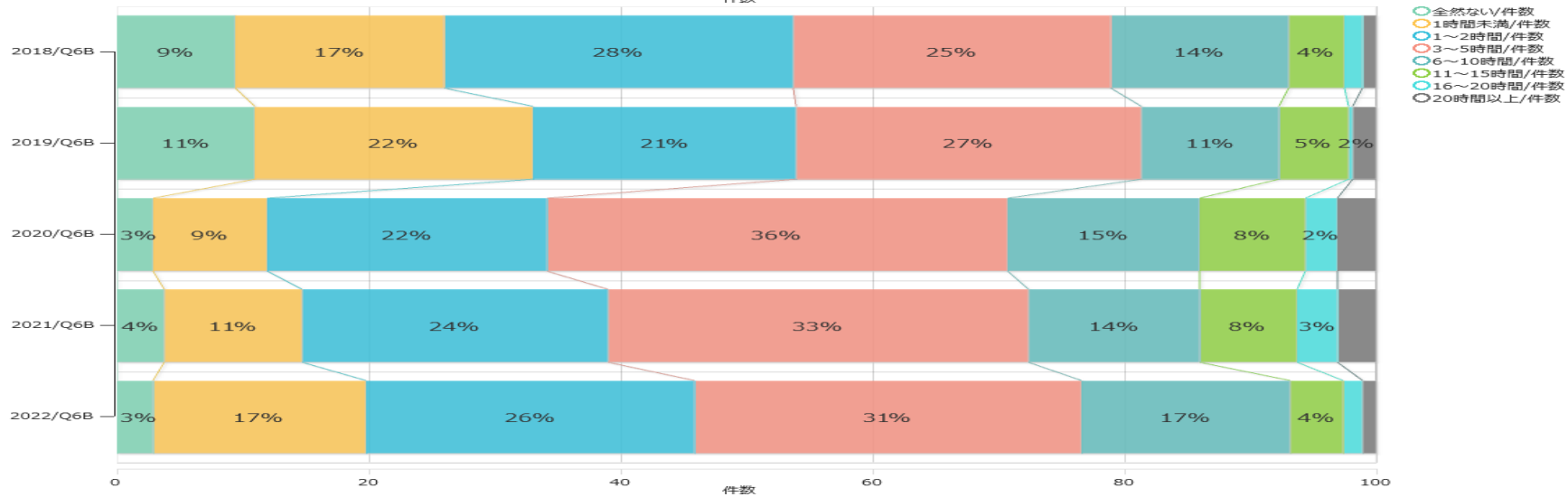


3-2. 授業時間外に、授業課題や準備学習、復習をする 【Q6-B】

文学部



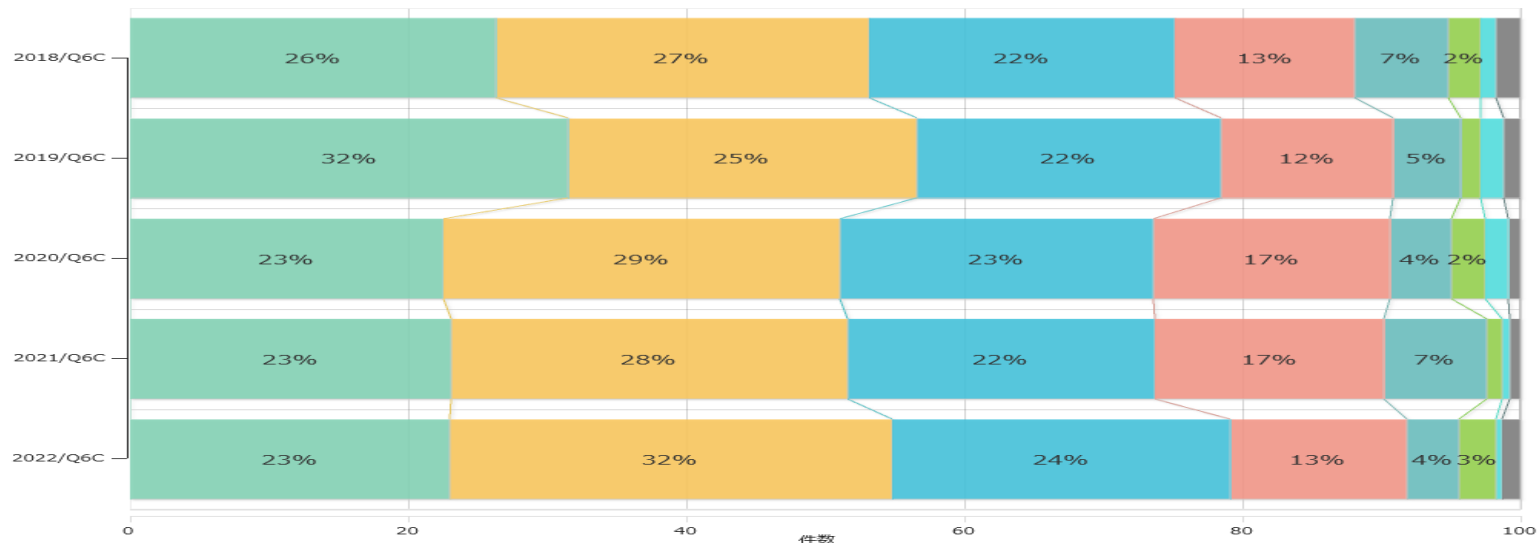
人間生活学部



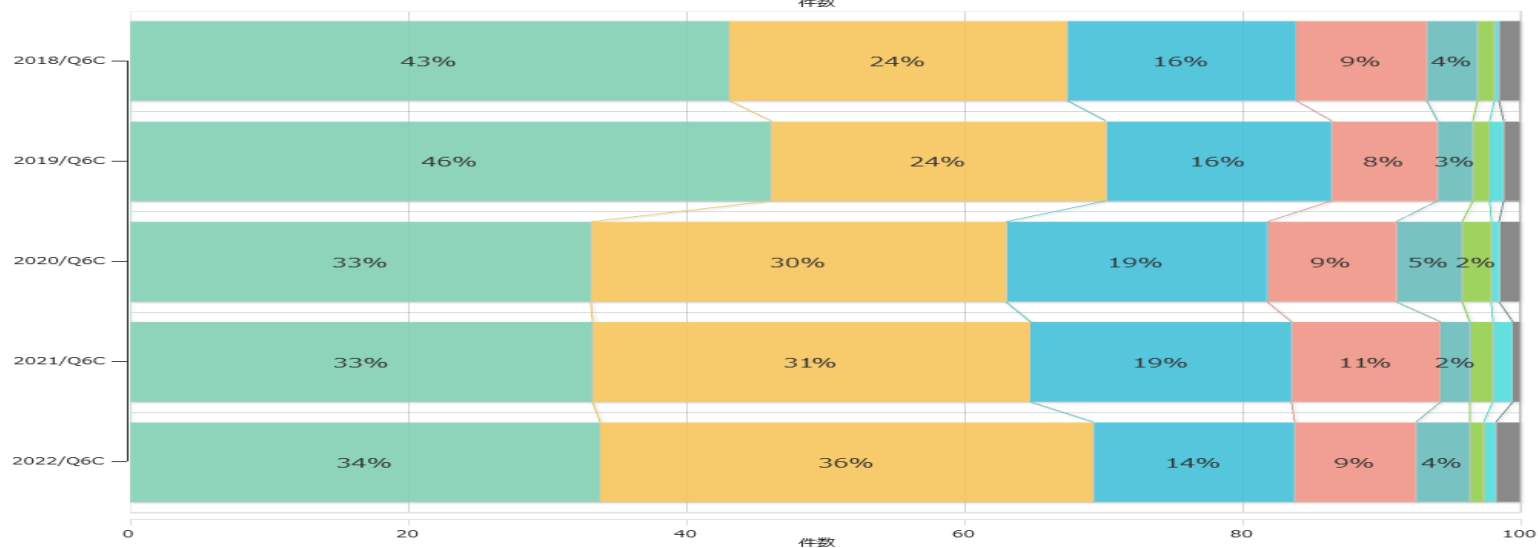
3-3. 授業時間外に、授業に関連しない勉強をする

[Q6-C]

文学部



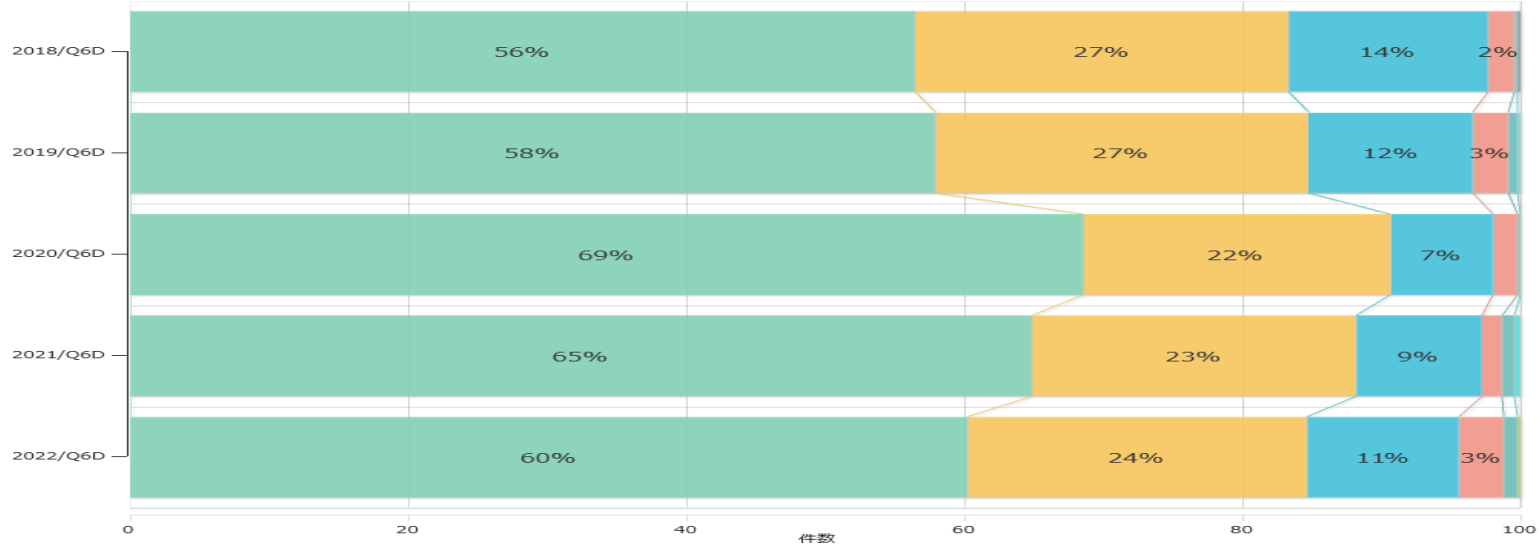
人間生活学部



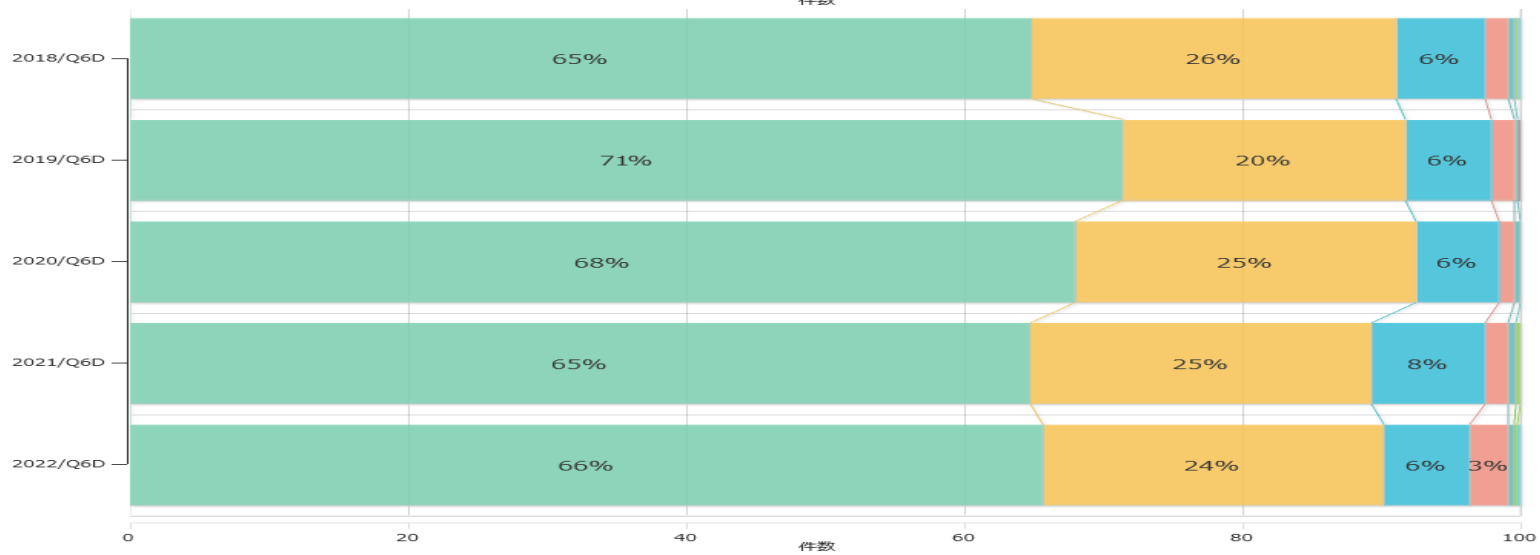
3-4. オフィスアワーなど、授業時間外に教員と面談する

[Q6-D]

文学部

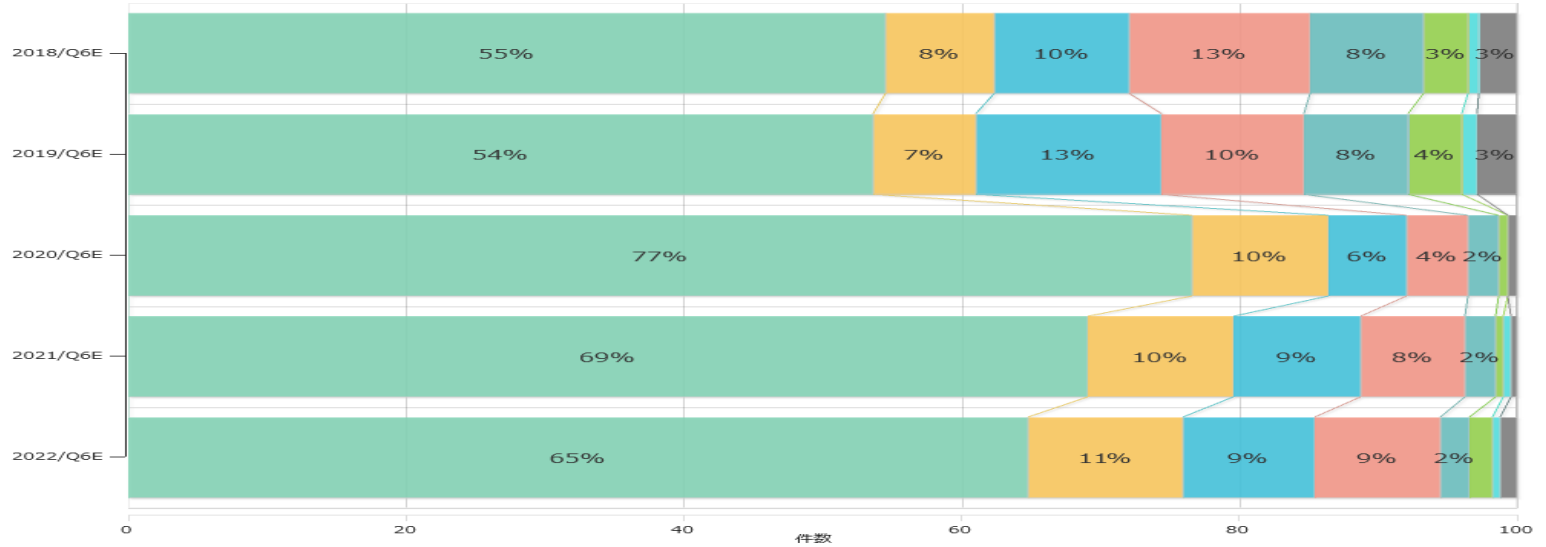


人間生活学部

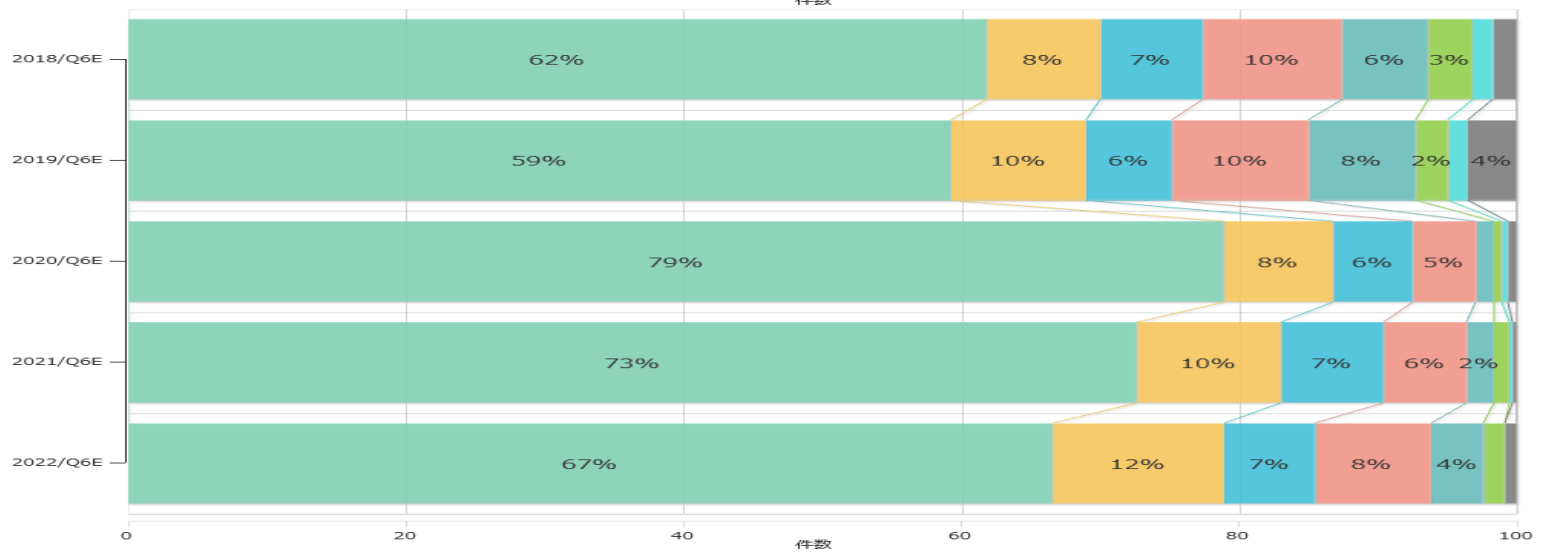


3-5. 部活動や同好会に参加する 【Q6-E】

文学部

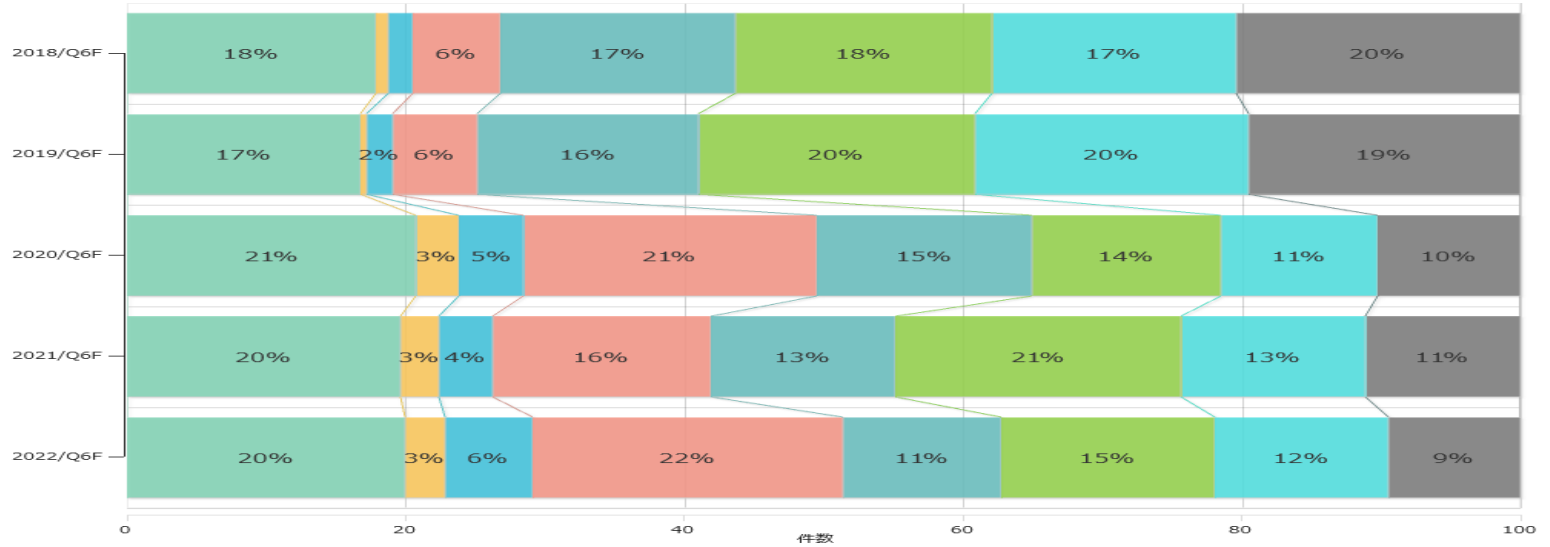


人間生活学部

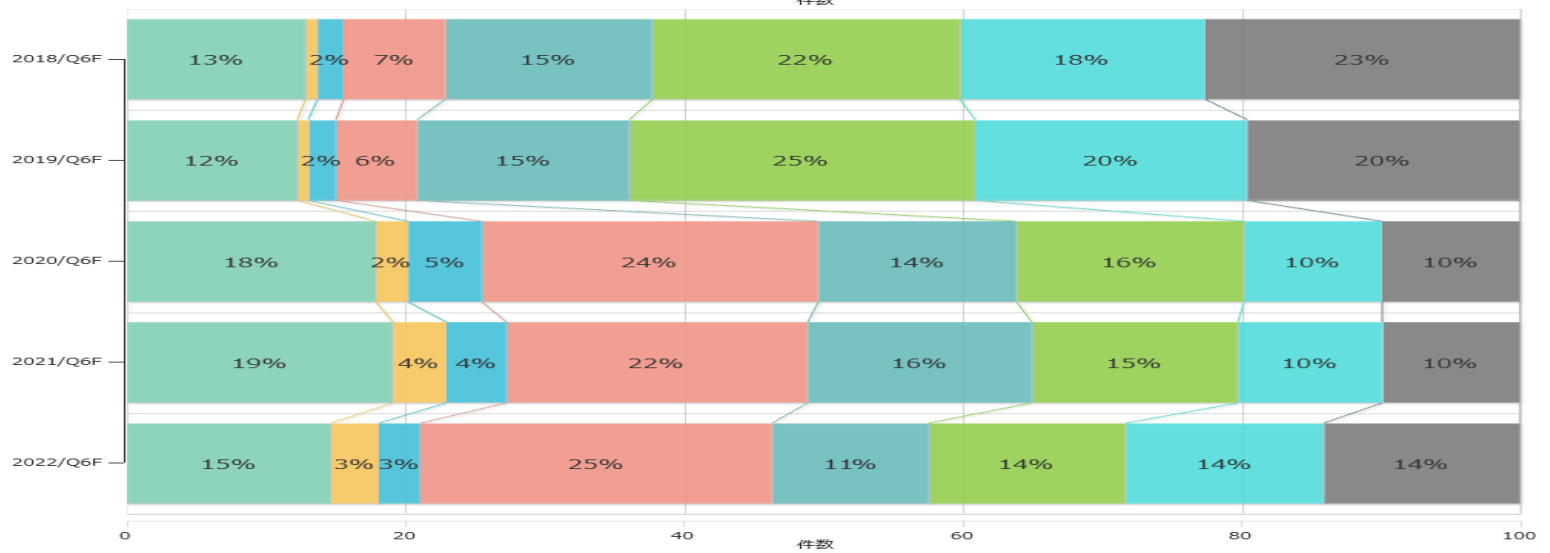


3-6. 大学外でアルバイトや仕事をする 【Q6-F】

文学部



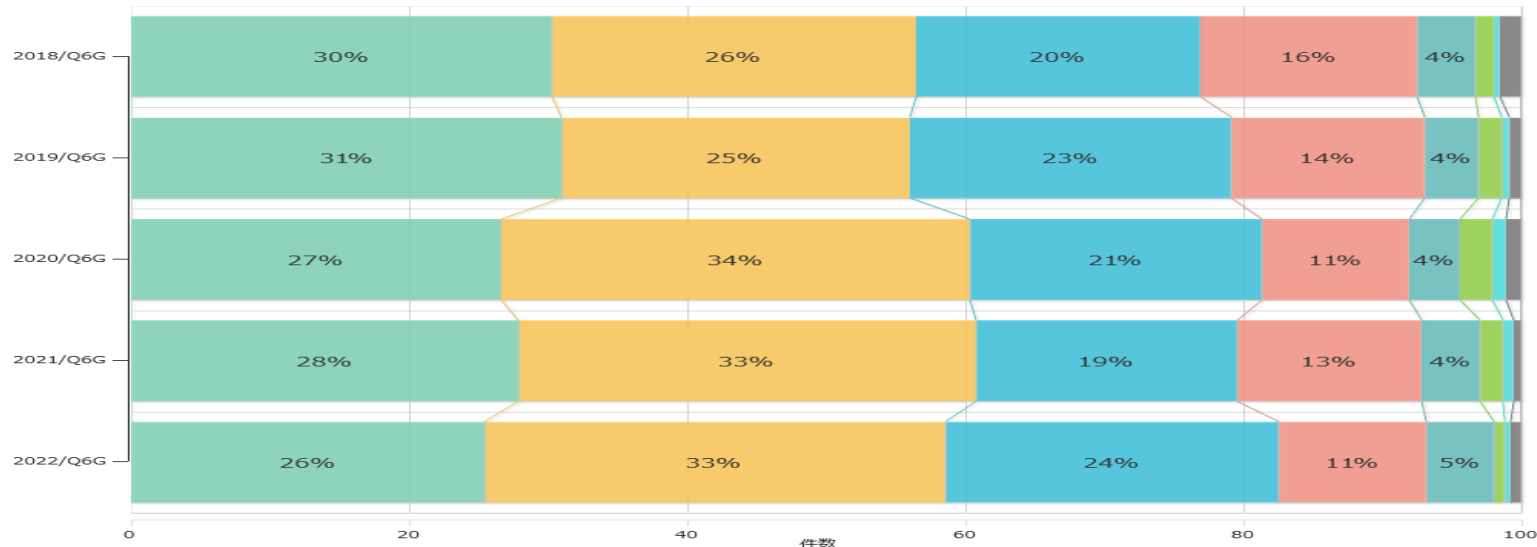
人間生活学部



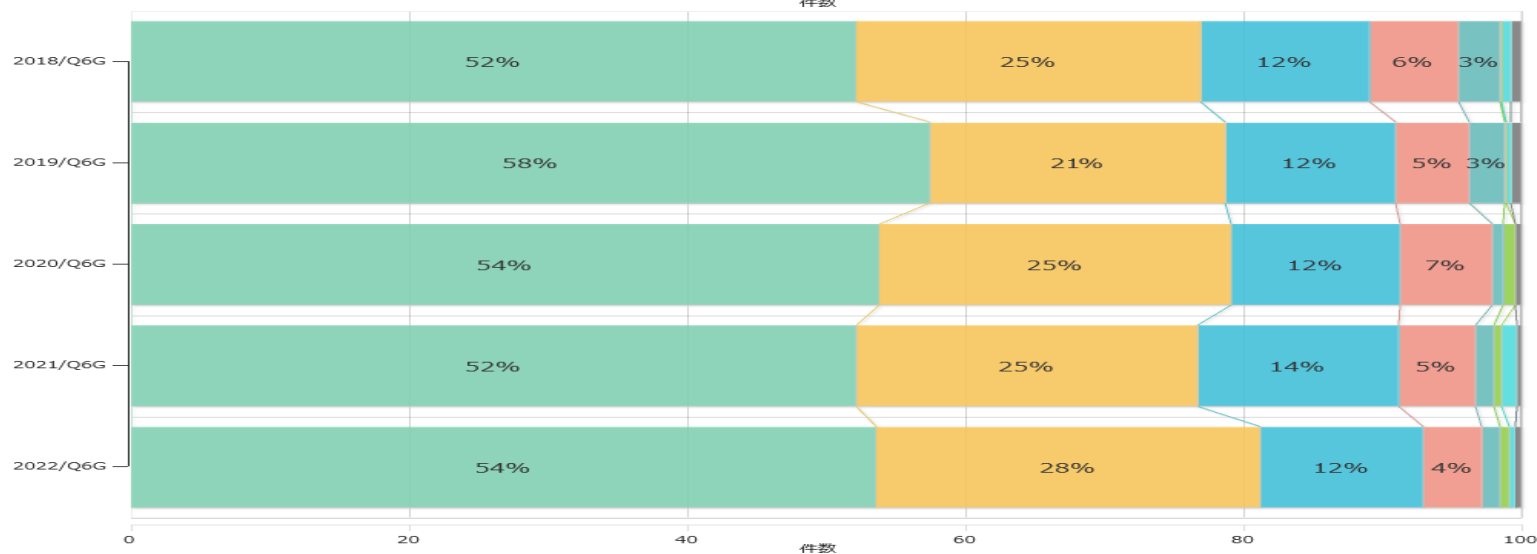
3-7. 読書をする（マンガ・雑誌を除く）

[Q6-G]

文学部



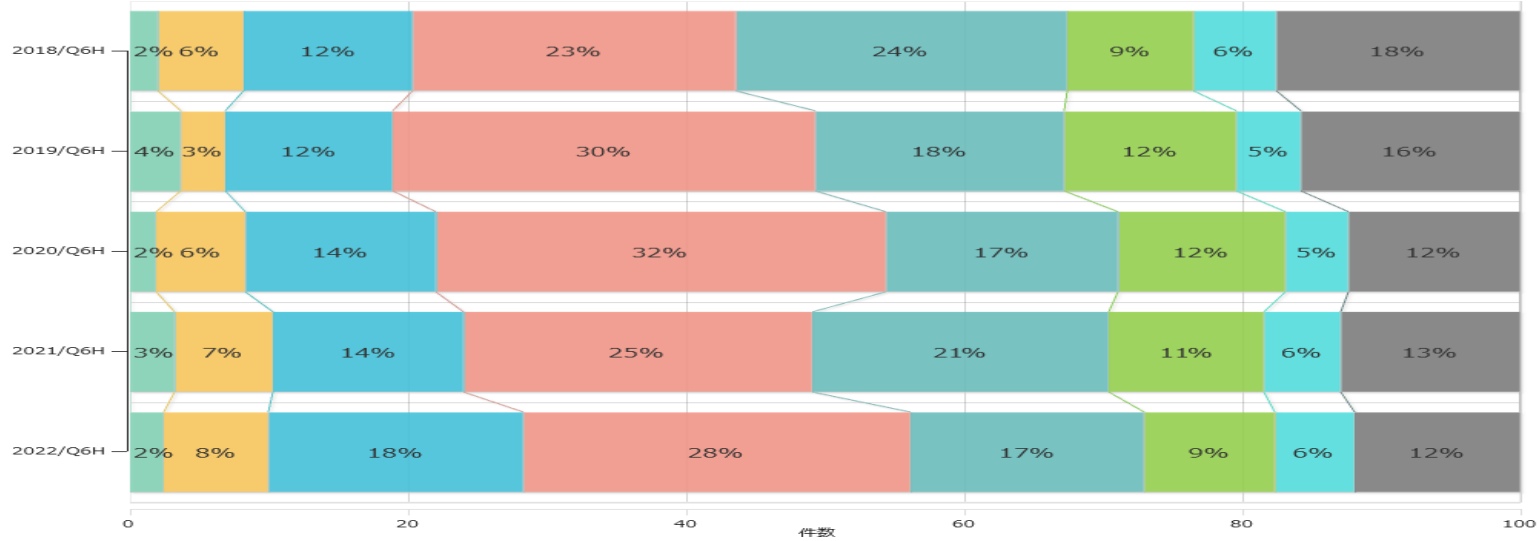
人間生活学部



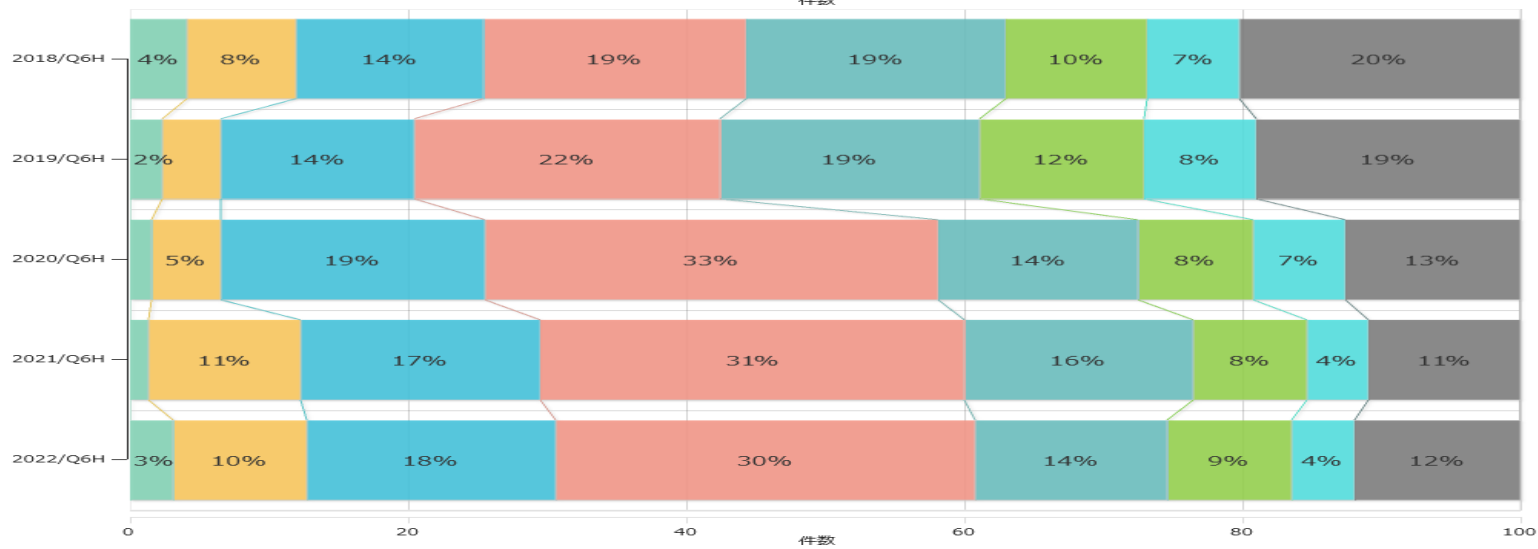
3-8. 個人的な趣味活動をする（テレビやゲーム、映画鑑賞など）

[Q6-H]

文学部



人間生活学部



「時間の使い方」については、2020年度からのコロナ禍による影響が依然として残っていることが明らかとなった。原則対面授業が実施され、オンライン授業自体は減っているはずであるが、「授業や実験に出る」では、2020年度に参加時間が減少した傾向が、2021・2022年度とも大きく変わっていない。しかしながら、「授業時間外に、授業課題や準備学習、復習をする」では、2020年度に増加した傾向が、2021・2022年度と減少し、コロナ禍前の割合に近づいていることから、授業自体や授業時間外に勉強する機会が減っている可能性が危惧される。また、2020年度と比べて、2021年度・2022年度と改善している項目もあるが、ほぼすべての項目でコロナ禍前の状況には戻っておらず、ここ数年に渡るコロナ禍の新しい生活習慣が根付いており、課外活動等にも影響している可能性が考えられる。2022年度においても、部活動や同好会、アルバイトなどへの参加の割合は未だに高くない。正課だけではなく、課外活動での経験や人間関係も大学生にとってはたいへん重要であることは言うまでもなく、今後は顕在化していない孤立や精神的不安などにも配慮が必要になるであろう。

コロナ禍による「時間の使い方」の変化により、学生の学習に対する取り組みや様々な経験は、より二極化や多様化が進んでいることが考えられ、今後も新たな学習支援・生活支援ニーズへの対応が求められる可能性が高い。学生の声に耳を傾け、協働して学生を支援できる体制を整えることがますます重要になってくるのではないだろうか。

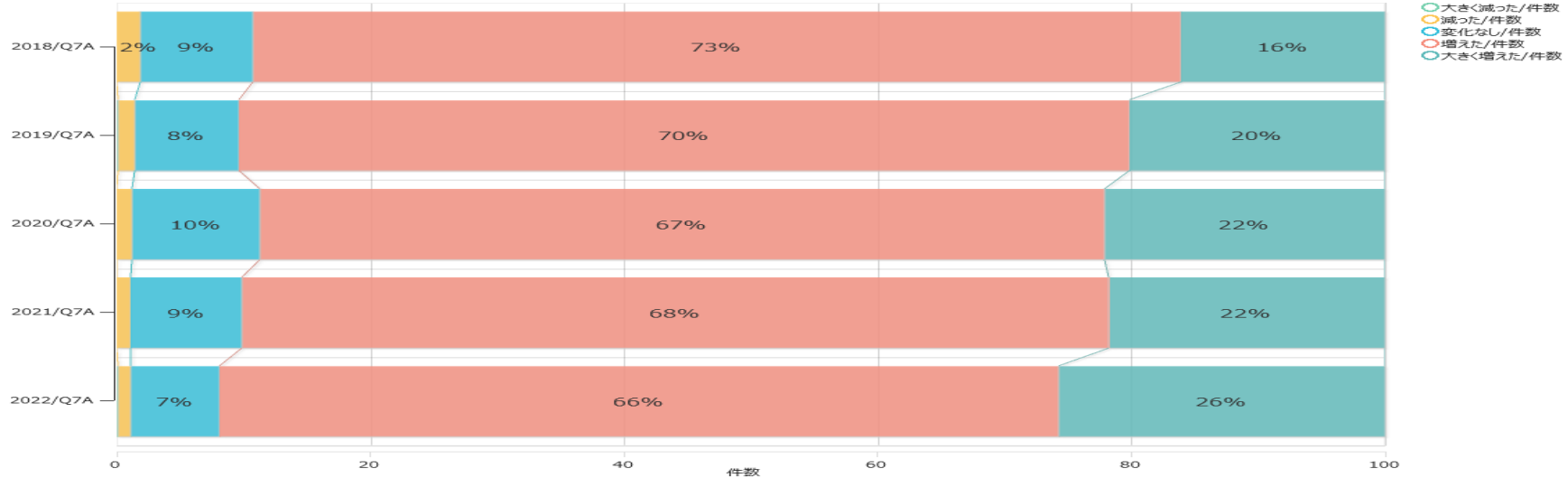
4. 能力の変化

Q. 入学した時点と比べて、あなたの能力や知識はどのように変化しましたか。

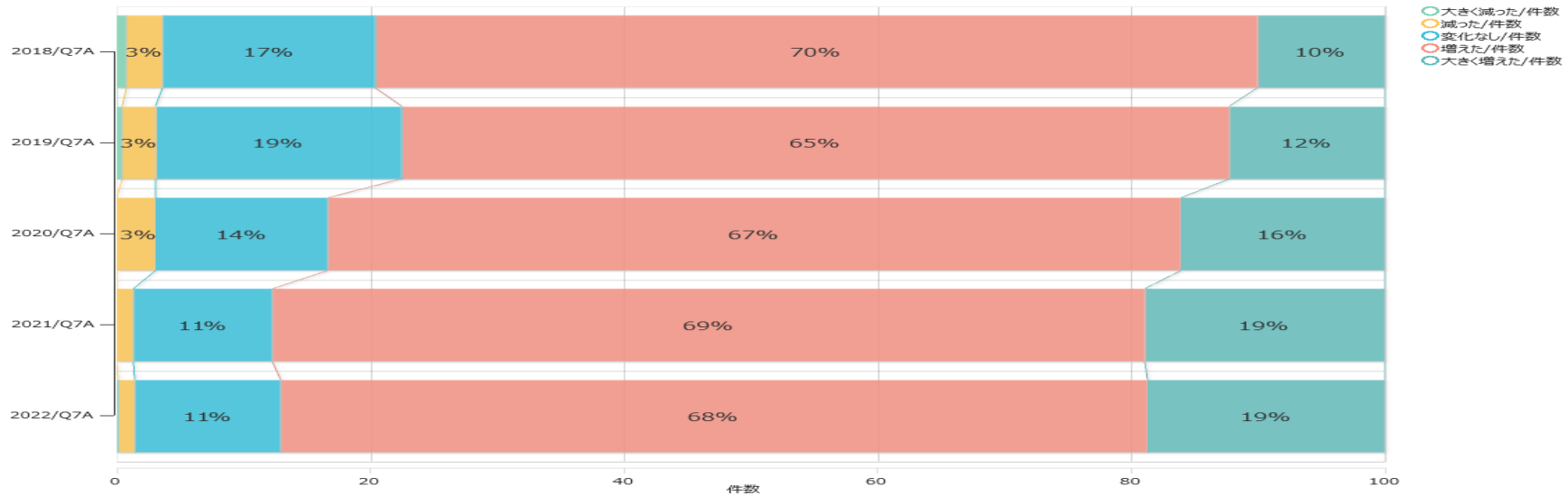
- 4-1. 一般的な教養
- 4-2. 分析力や問題解決能力
- 4-3. 専門分野や学科の知識
- 4-4. 批判的に考える能力
- 4-5. 異文化の人々に関する知識
- 4-6. リーダーシップの能力
- 4-7. 人間関係を構築する能力
- 4-8. 他の人と協力して物事を遂行する能力
- 4-9. 異文化の人々と協力する能力
- 4-10. 地域社会が直面する問題を理解する能力
- 4-11. 国民が直面する問題を理解する能力
- 4-12. 文章表現の能力
- 4-13. 外国語の運用能力
- 4-14. コミュニケーションの能力
- 4-15. プレゼンテーションの能力
- 4-16. 数理的な能力
- 4-17. コンピュータの操作能力
- 4-18. 時間を効果的に利用する能力
- 4-19. グローバルな問題の理解
- 4-20. 卒業後に就職するための準備の度合い

4-1. 一般的な教養 [Q7-A]

文学部

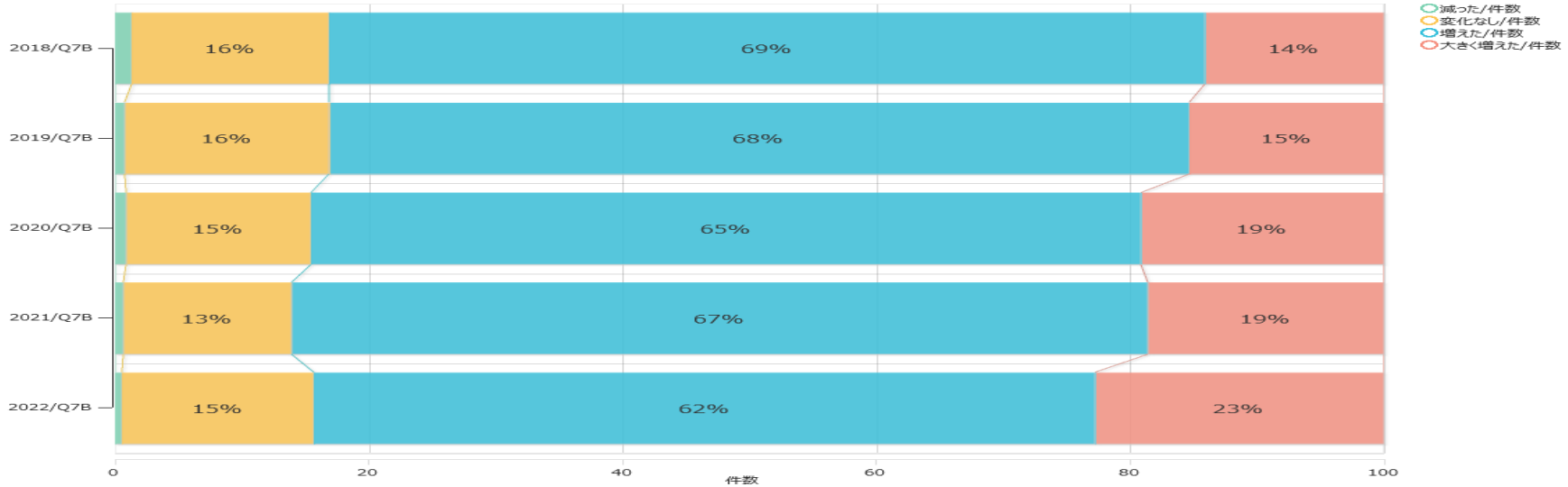


人間生活学部

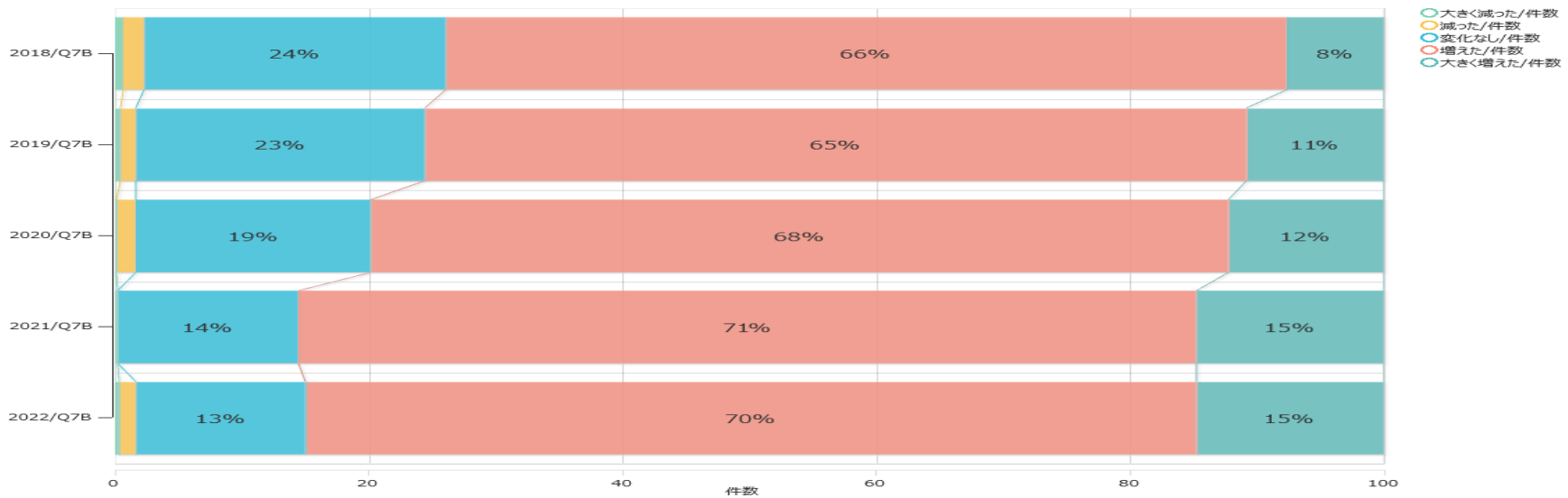


4-2. 分析力や問題解決能力 【Q7-B】

文学部

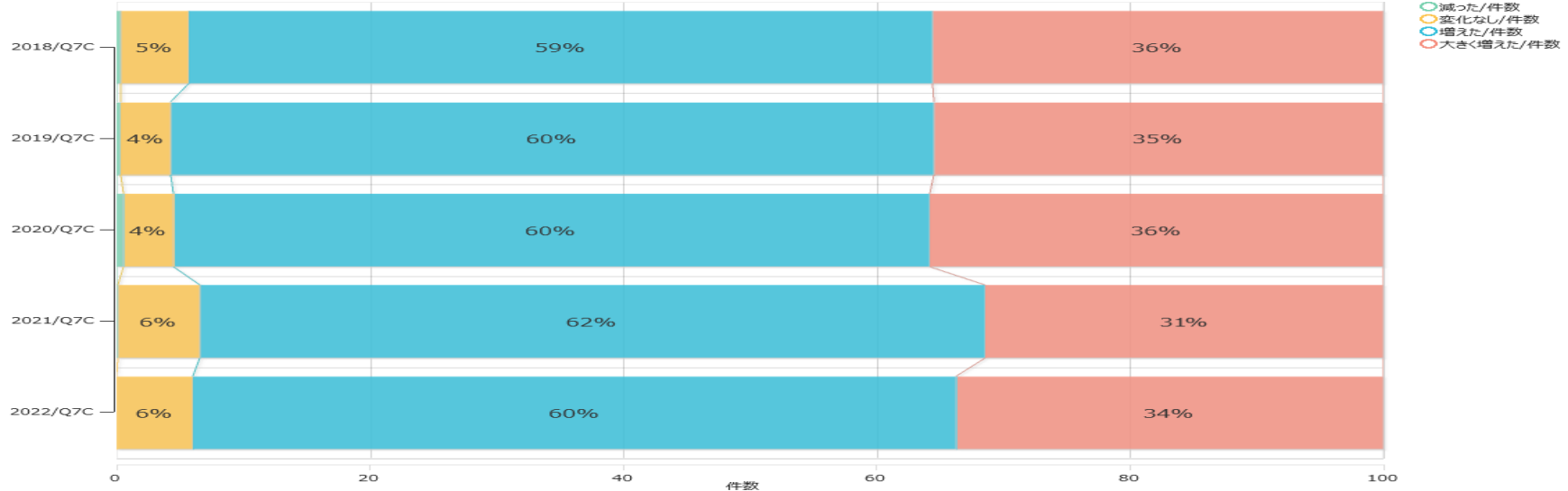


人間生活学部

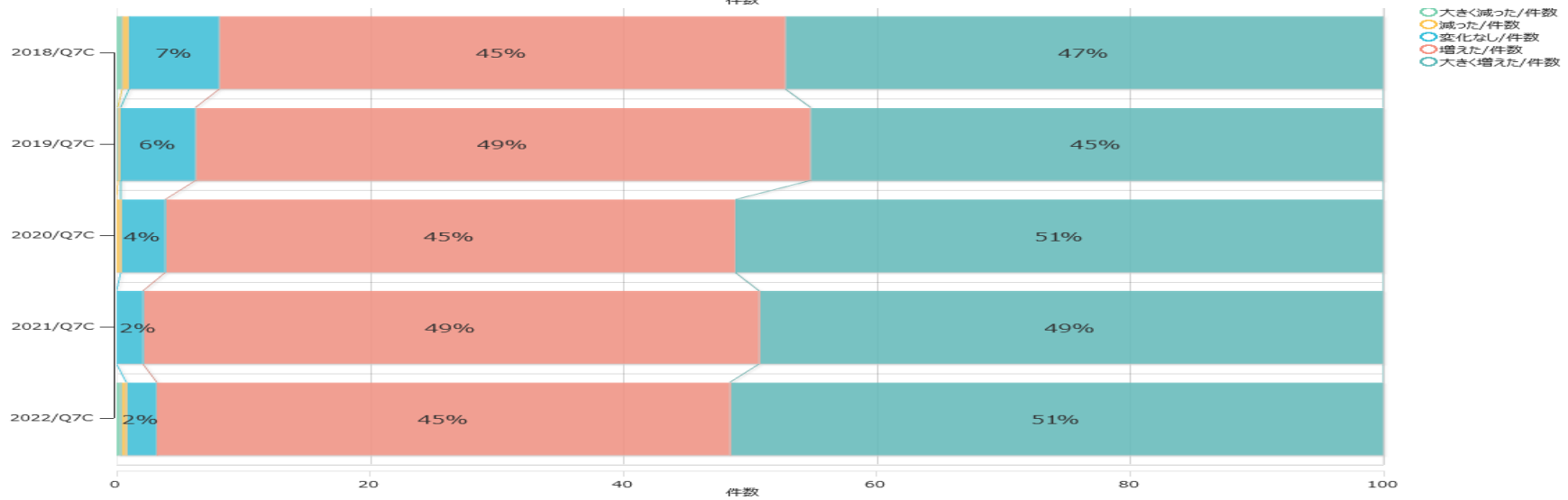


4-3. 専門分野や学科の知識 【Q7-C】

文学部

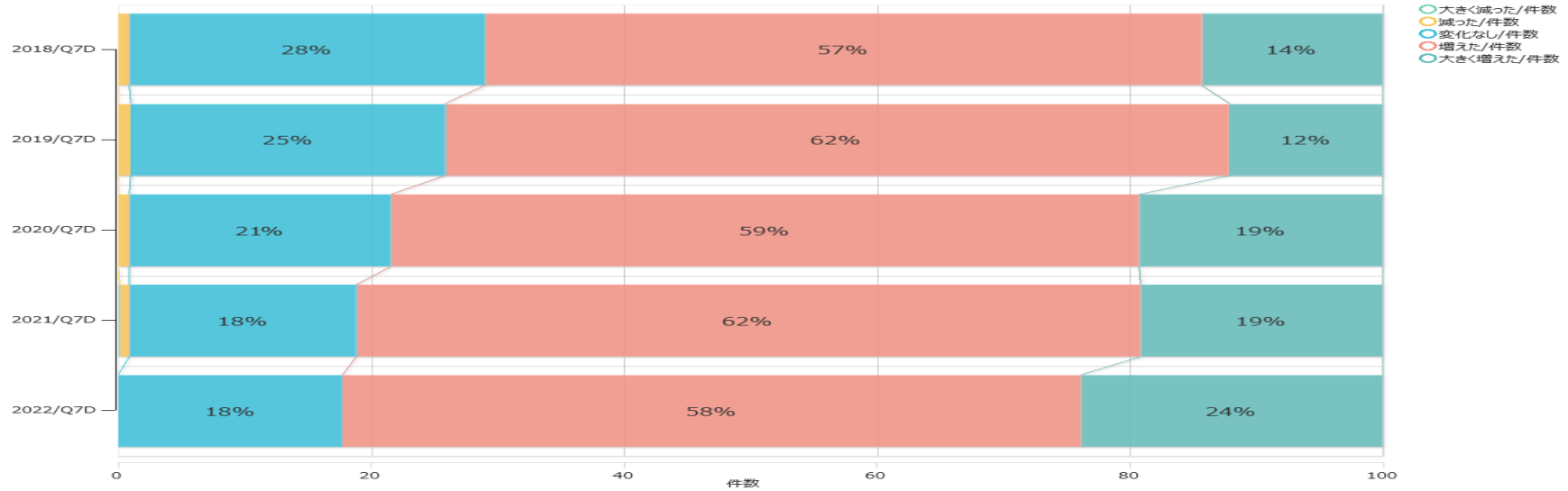


人間生活学部

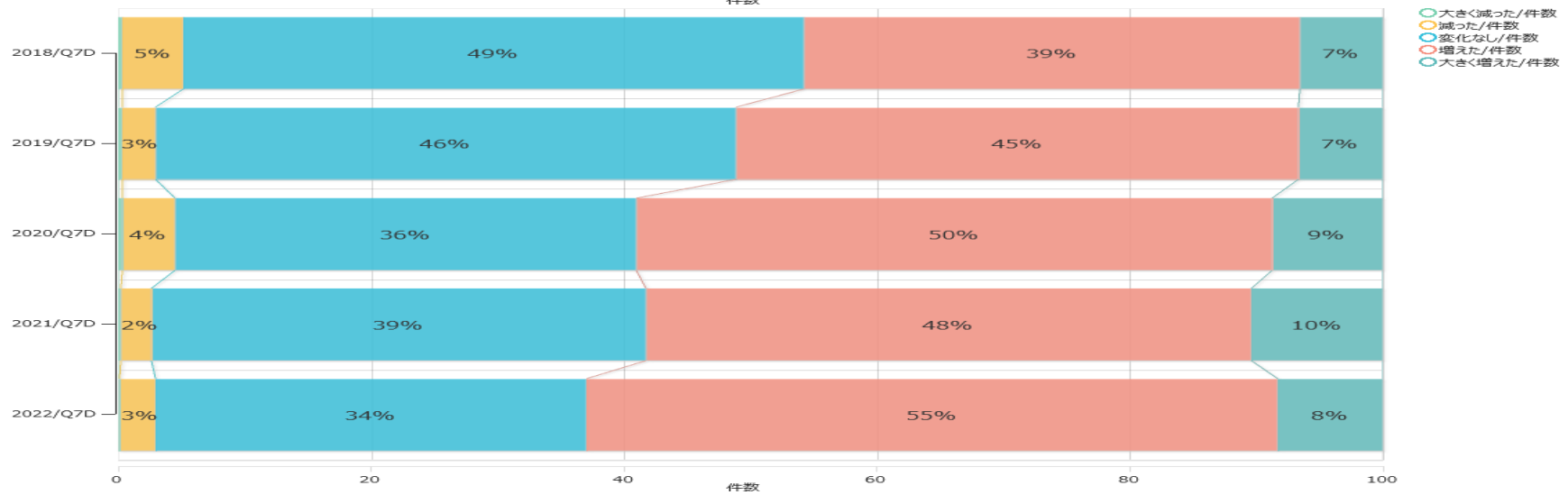


4-4. 批判的に考える能力 [Q7-D]

文学部

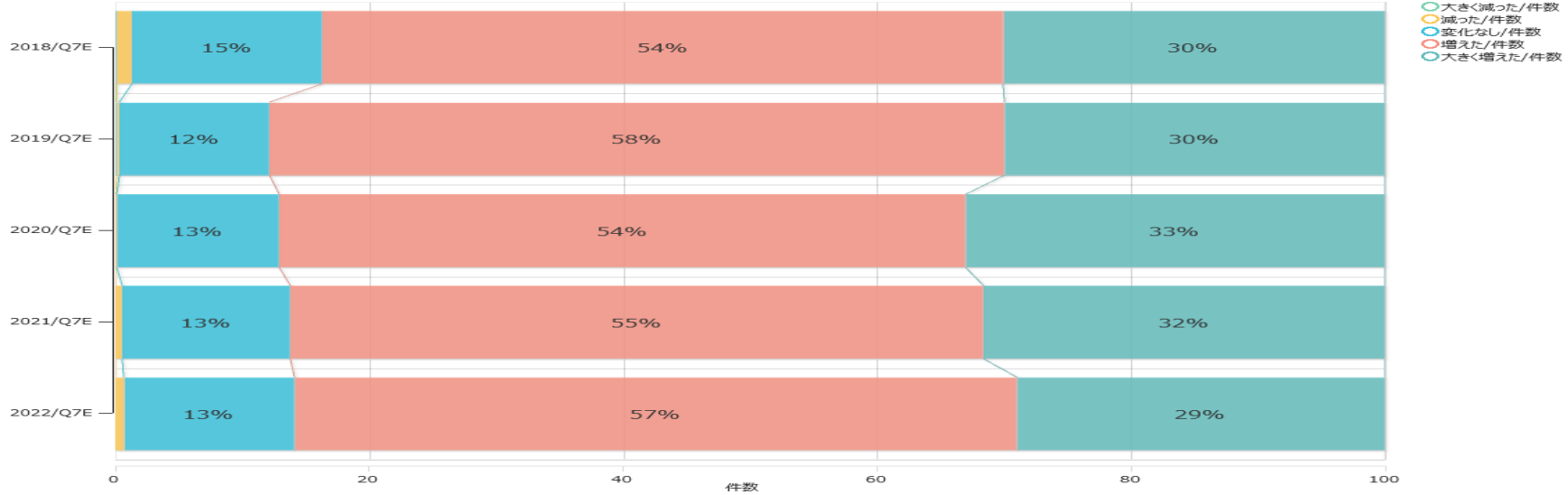


人間生活学部

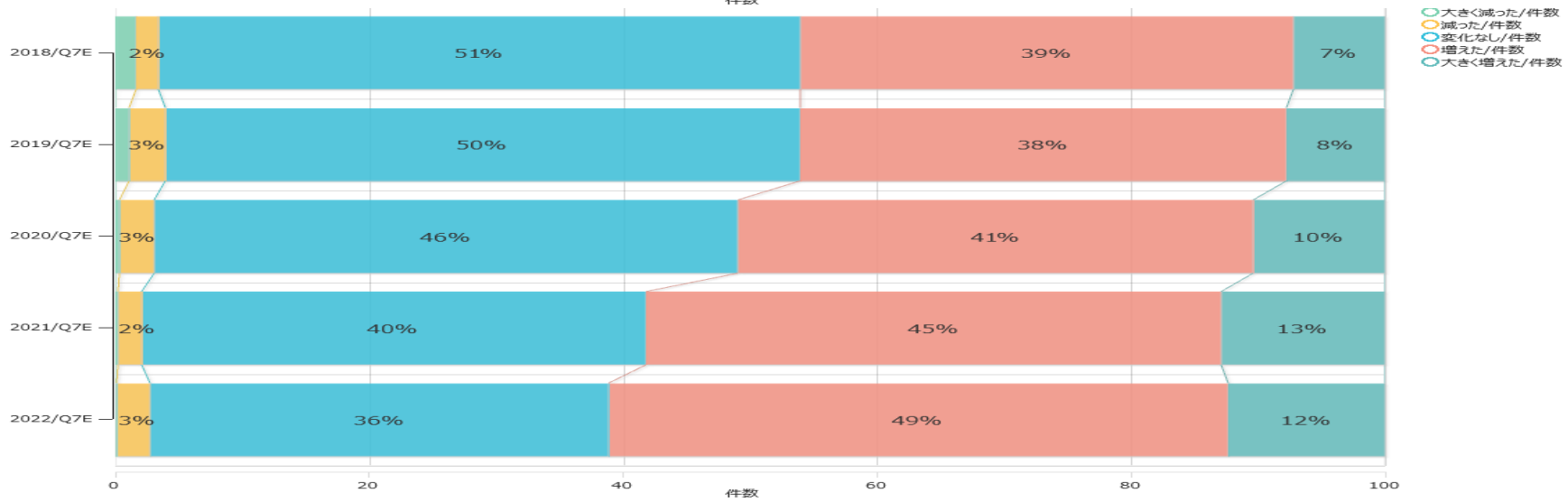


4-5. 異文化の人々に関する知識 【Q7-E】

文学部

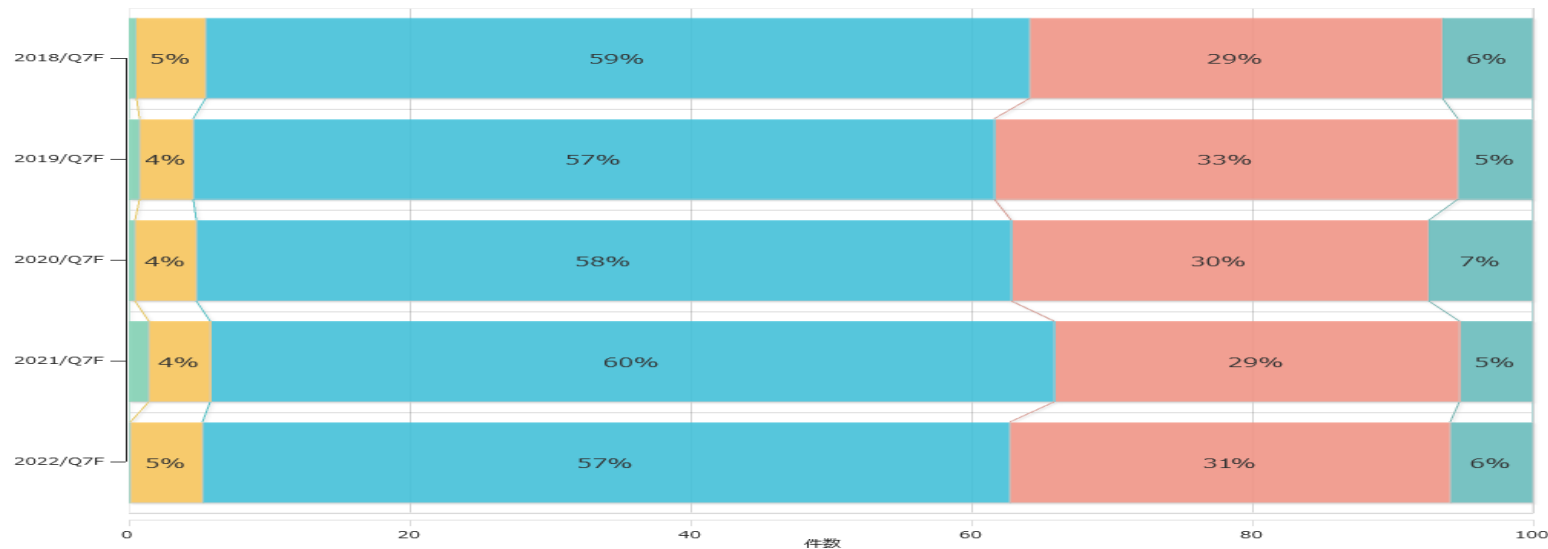


人間生活学部

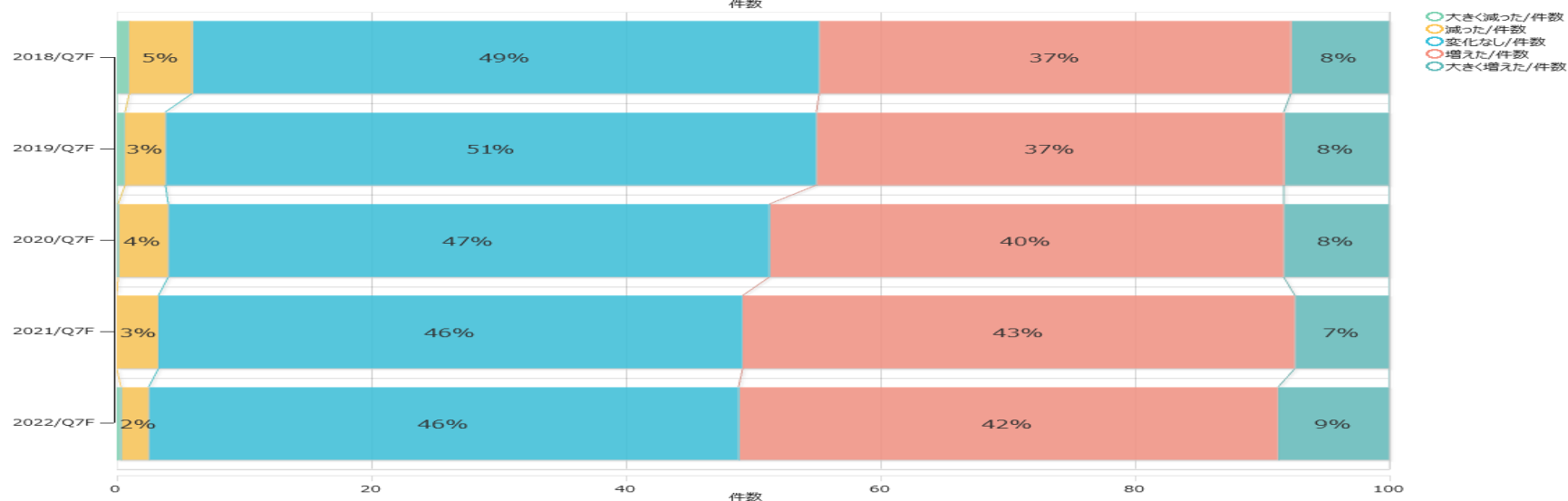


4-6. リーダーシップの能力 【Q7-F】

文学部

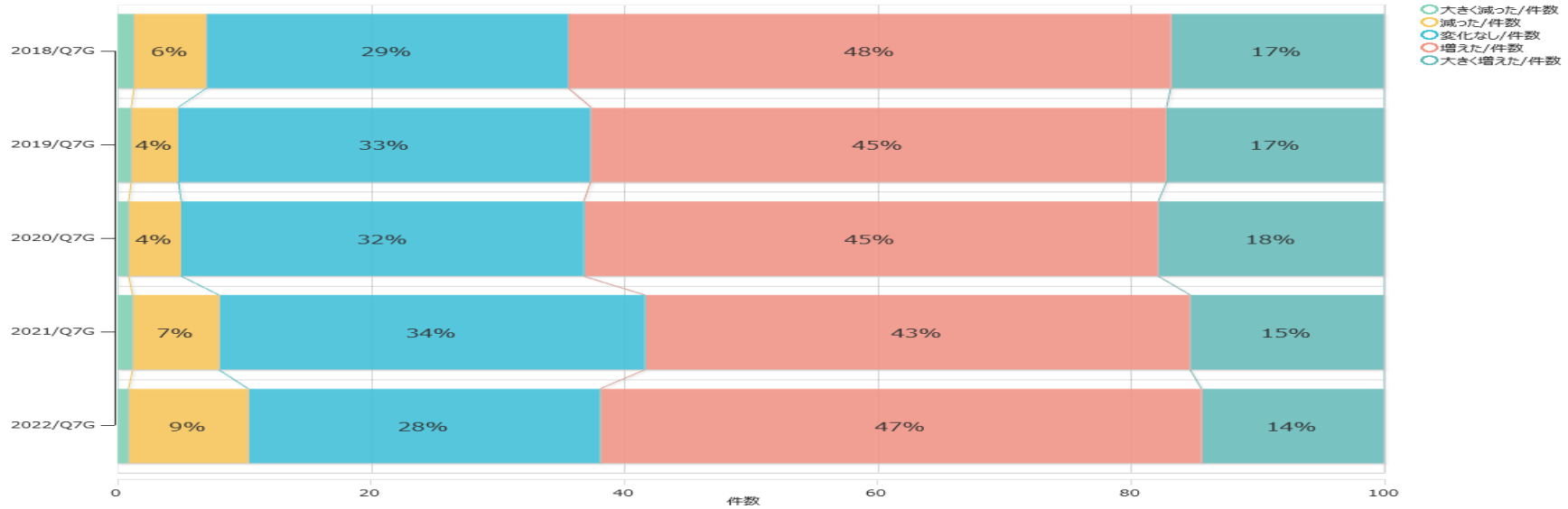


人間生活学部

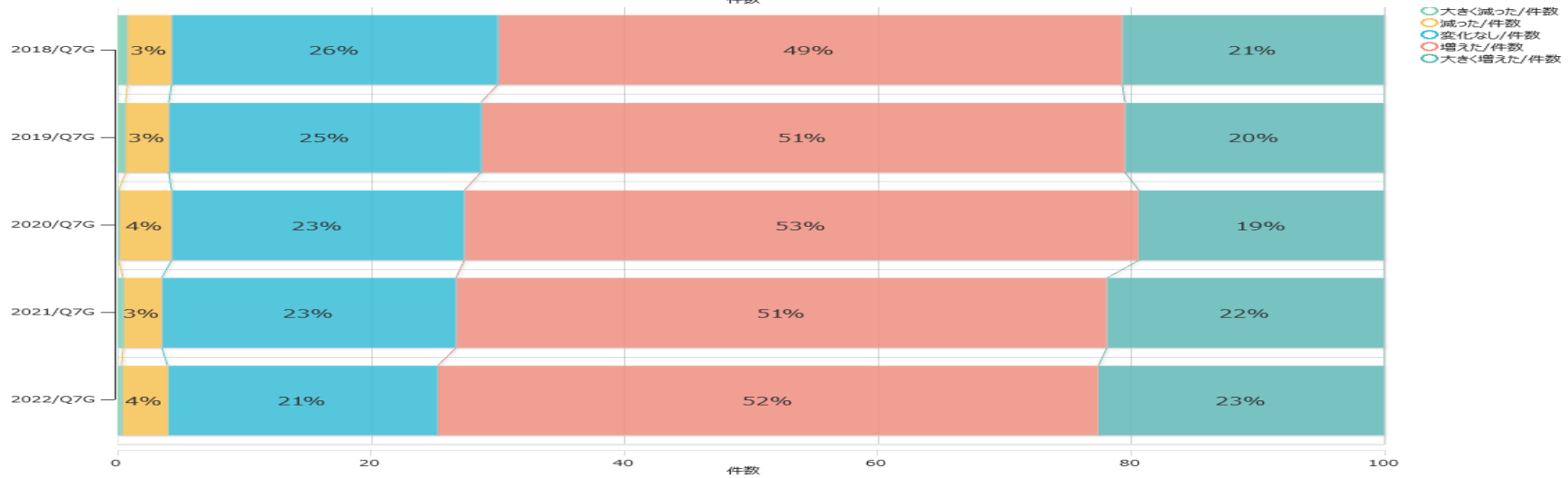


4-7. 人間関係を構築する能力 [Q7-G]

文学部

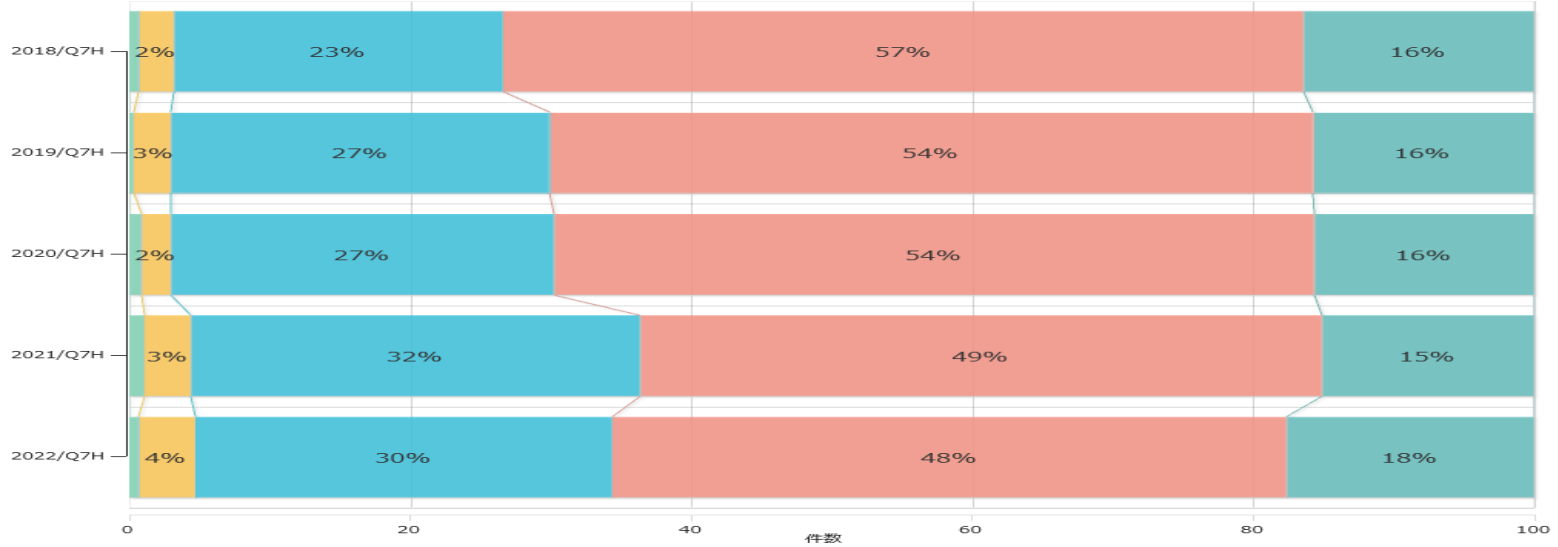


人間生活学部

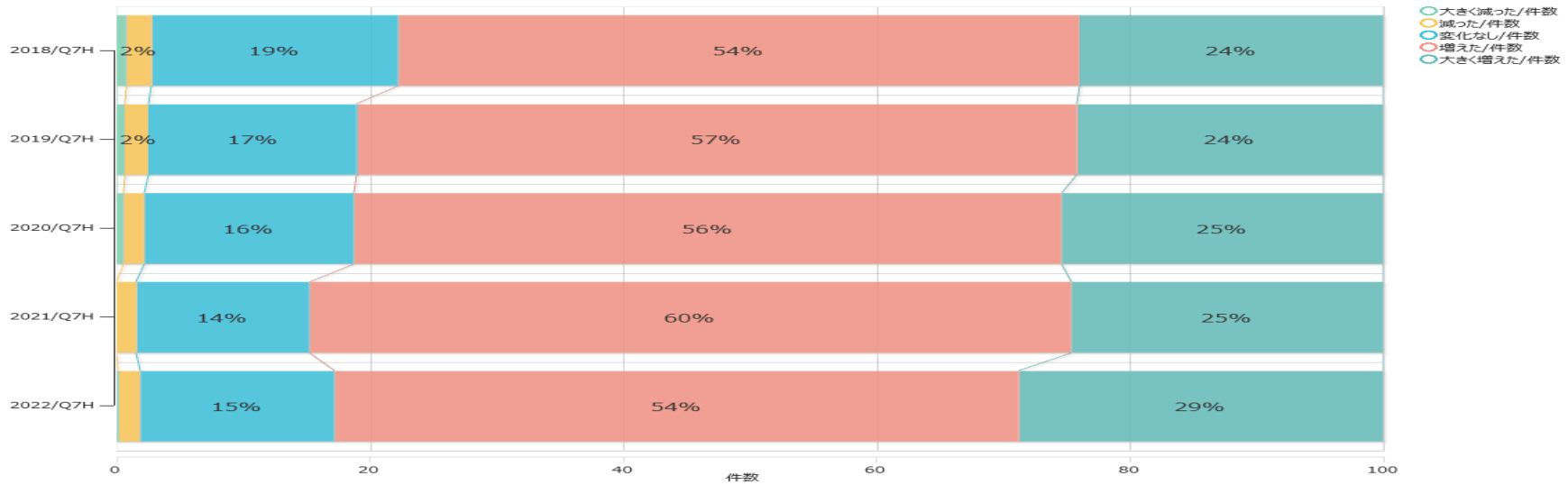


4-8. 他の人と協力して物事を遂行する能力 [Q7-H]

文学部

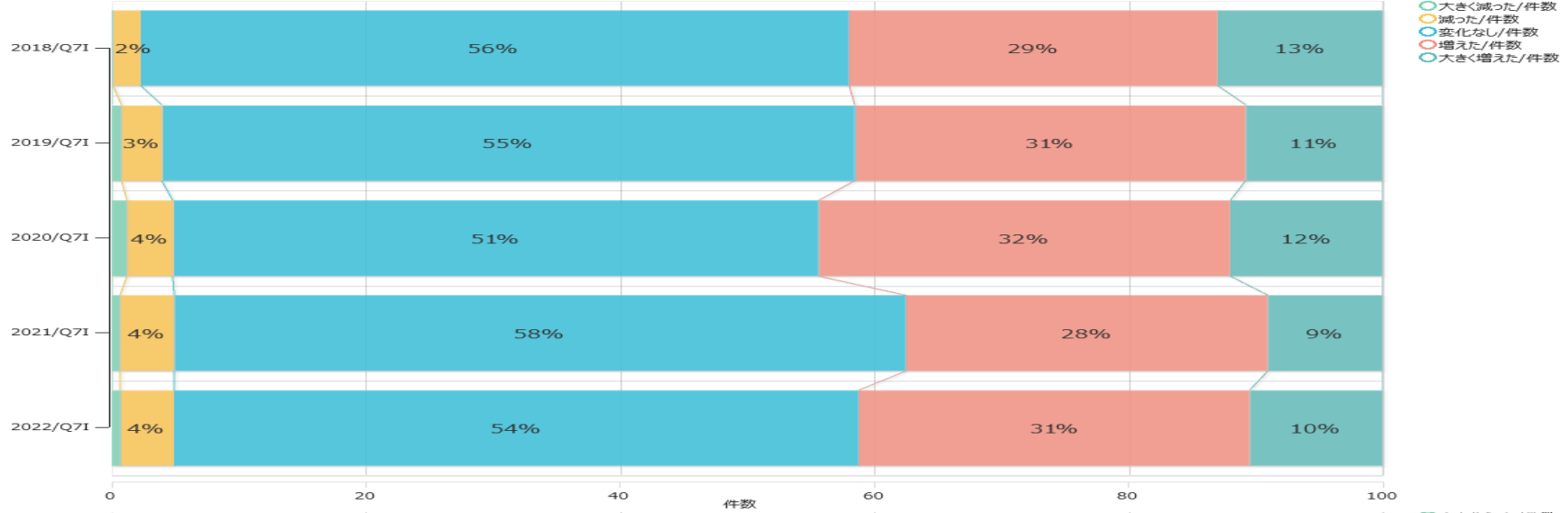


人間生活学部

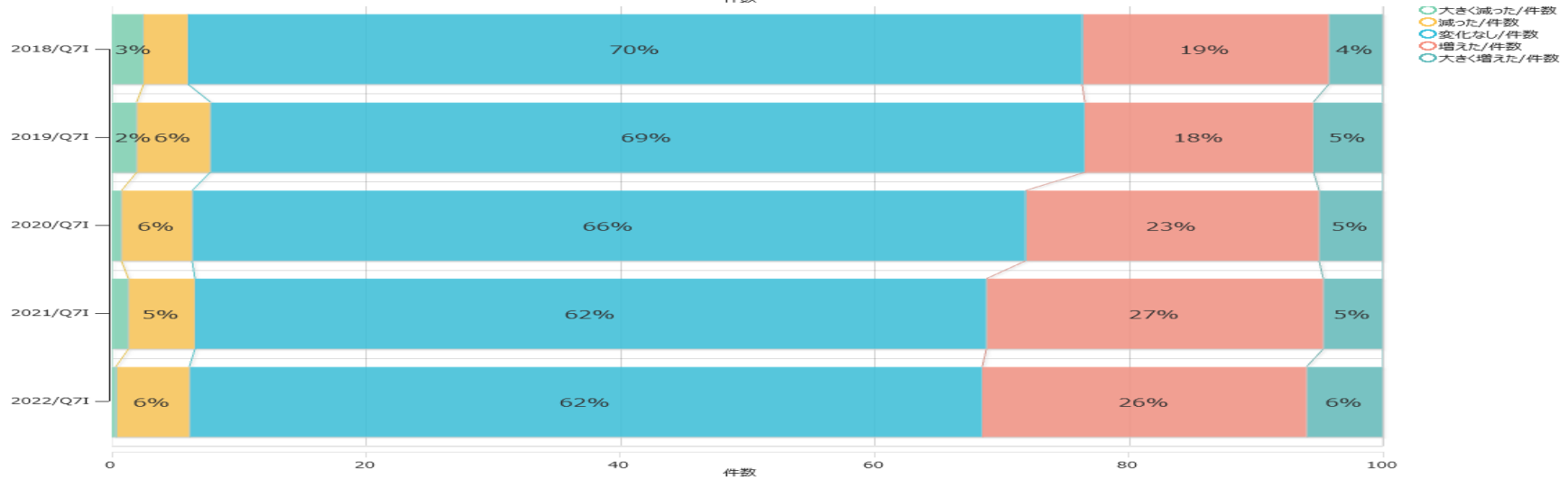


4-9. 異文化の人々と協力する能力 【Q7-I】

文学部

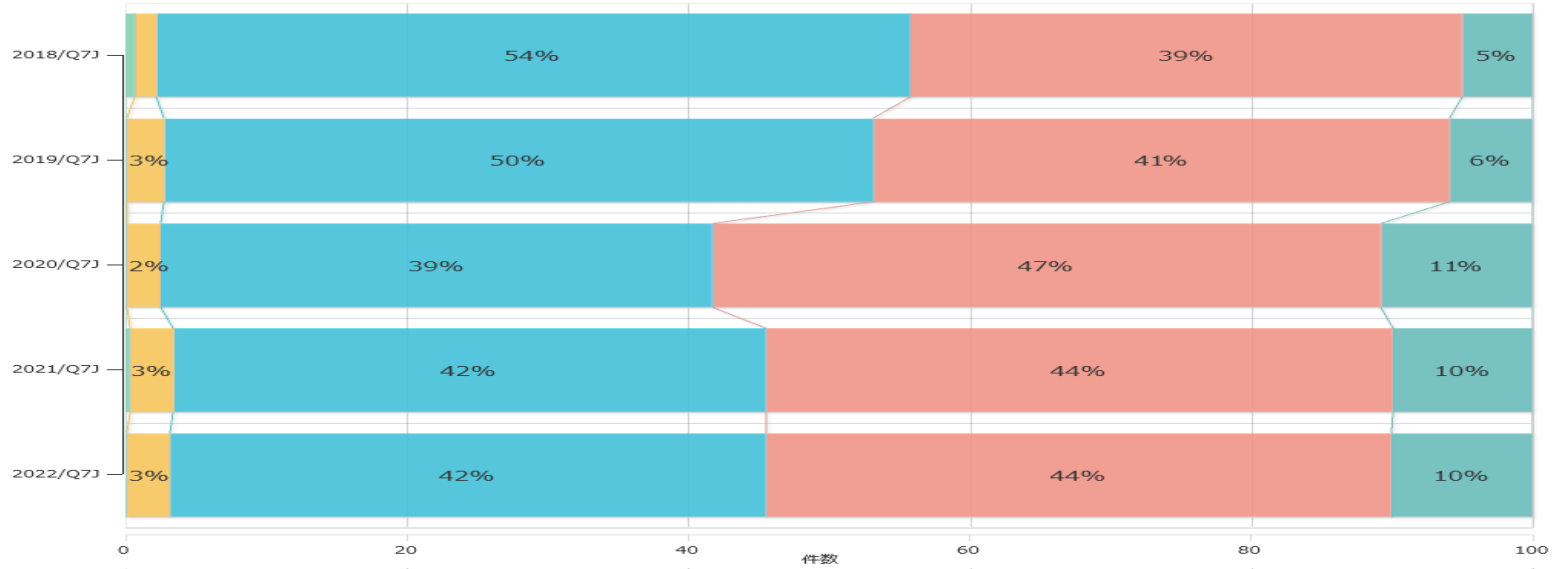


人間生活学部

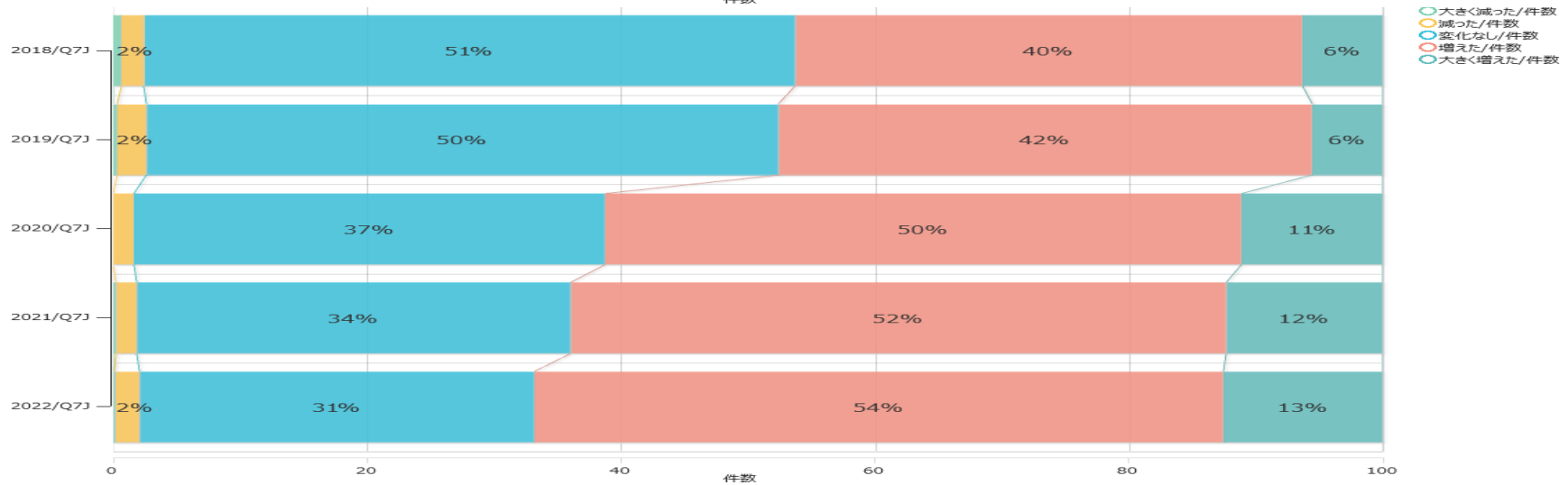


4-10. 地域社会が直面する問題を理解する能力 [Q7-J]

文学部

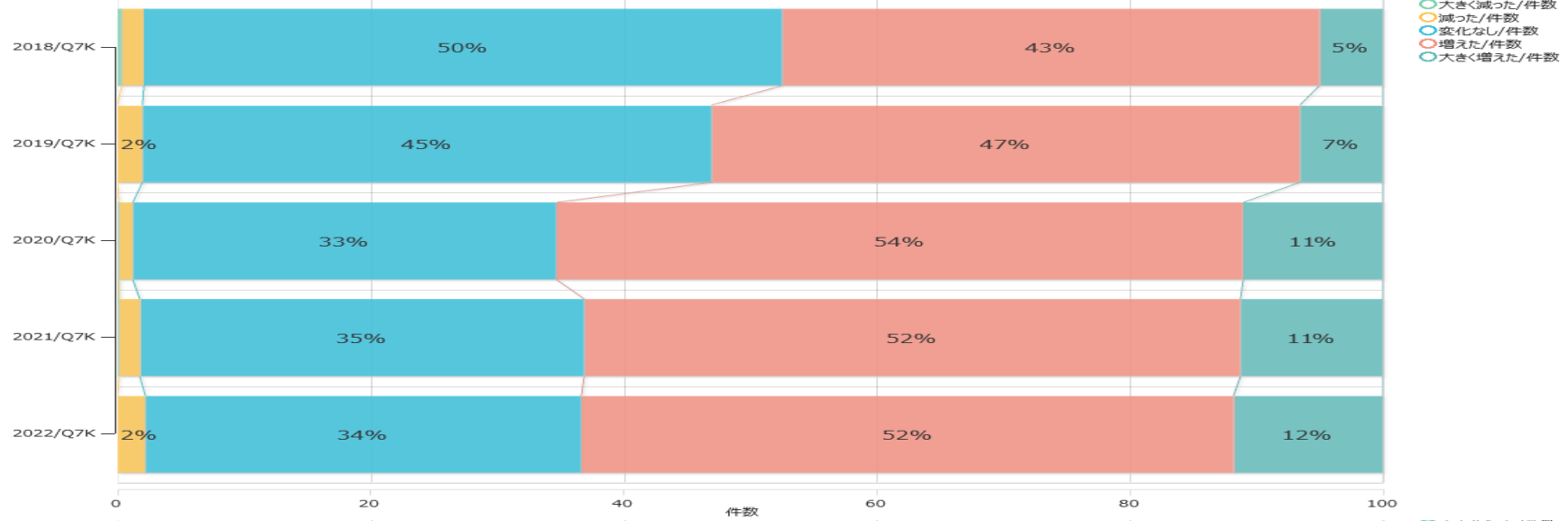


人間生活学部

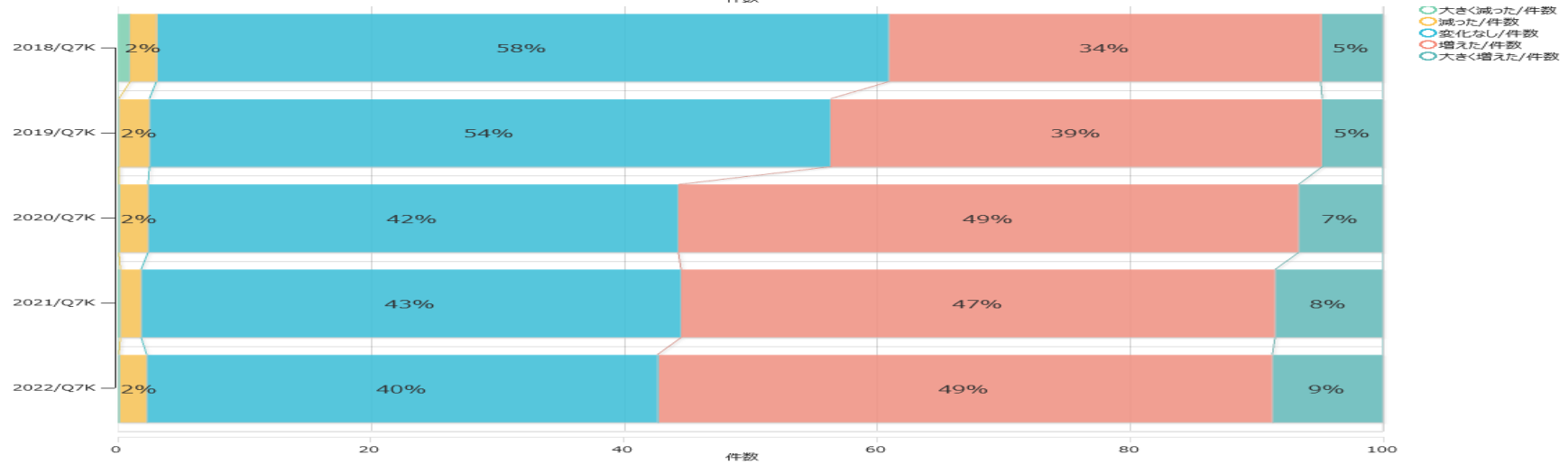


4-11. 国民が直面する問題を理解する能力 [Q7-K]

文学部

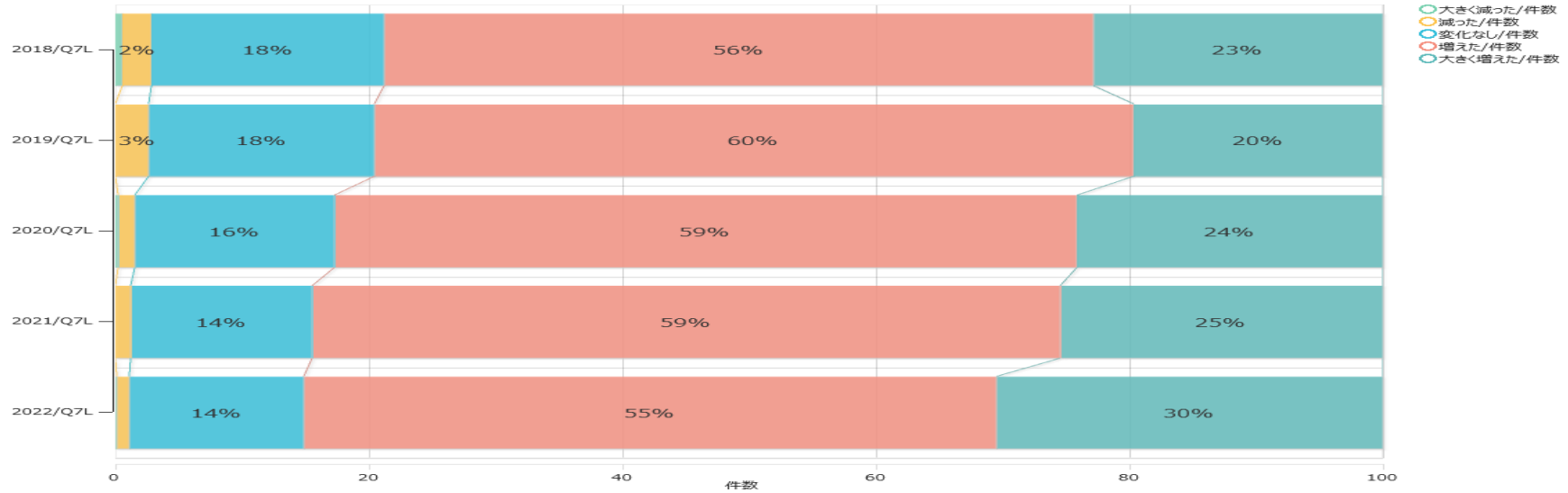


人間生活学部

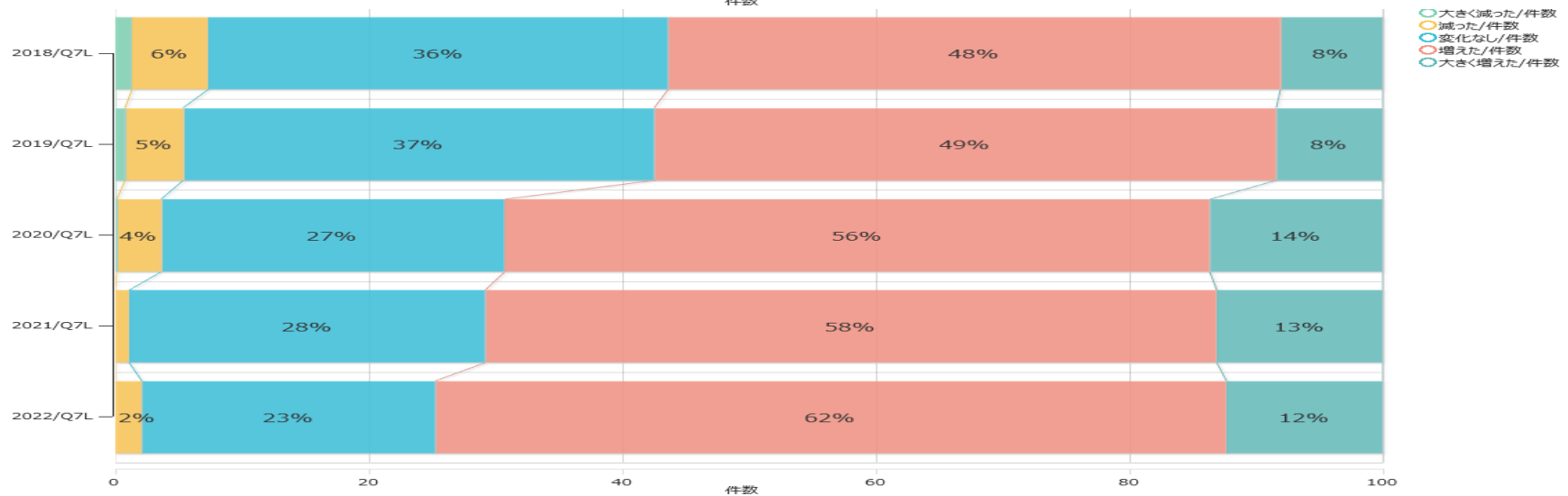


4-12. 文章表現の能力 [Q7-L]

文学部

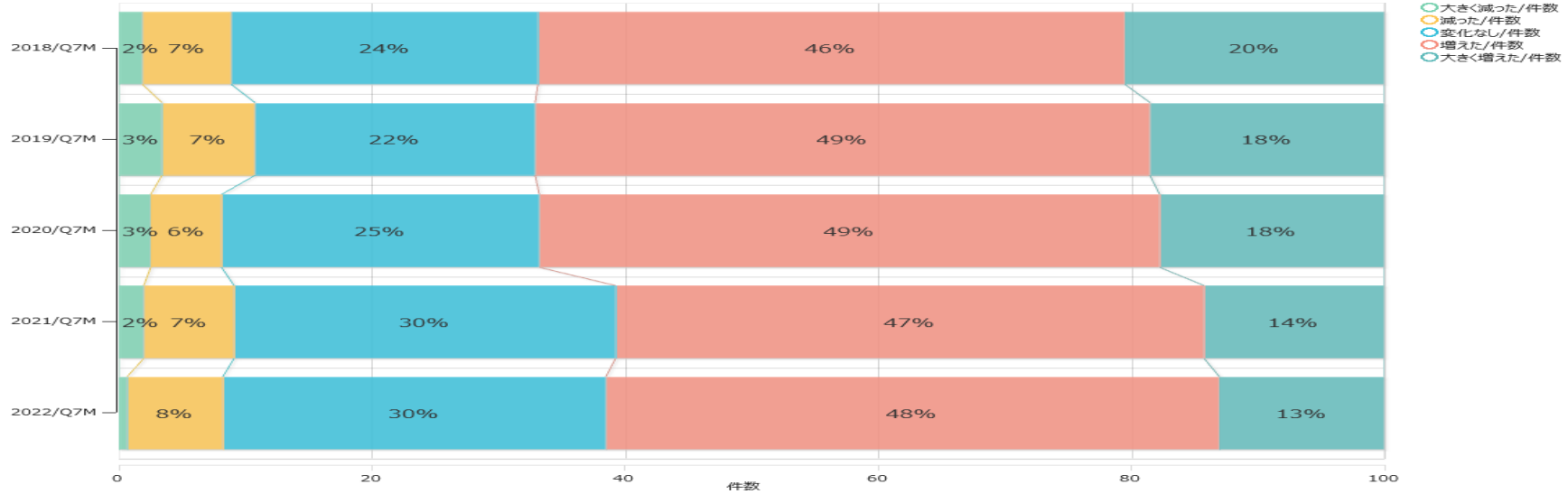


人間生活学部

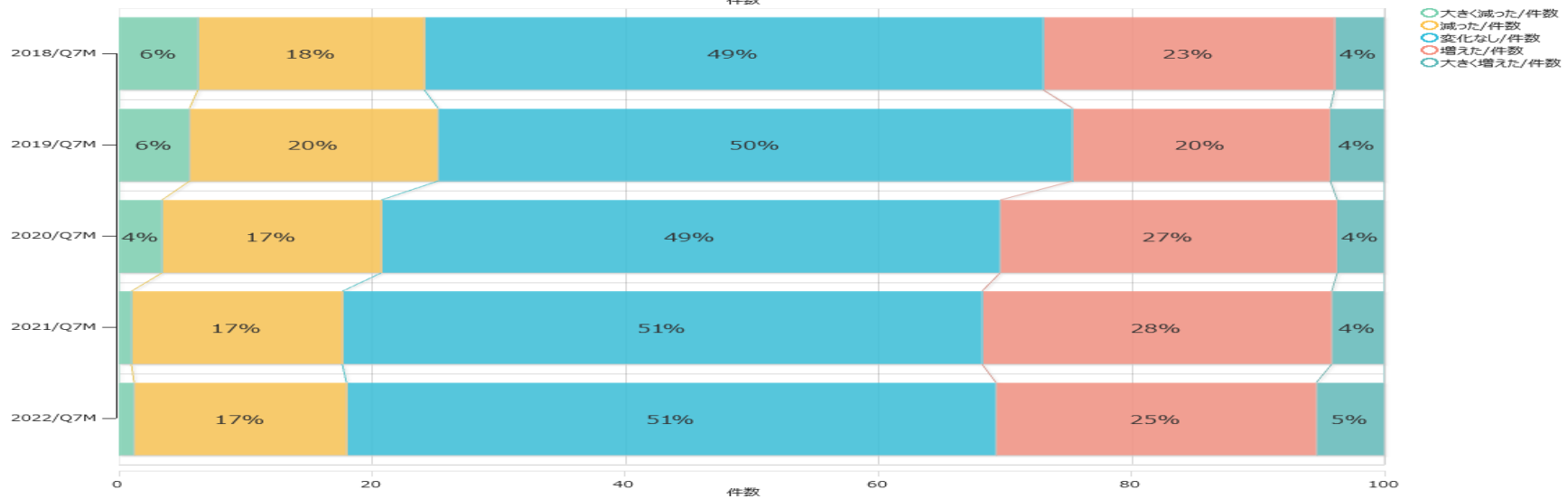


4-13. 外国語の運用能力 [Q7-M]

文学部

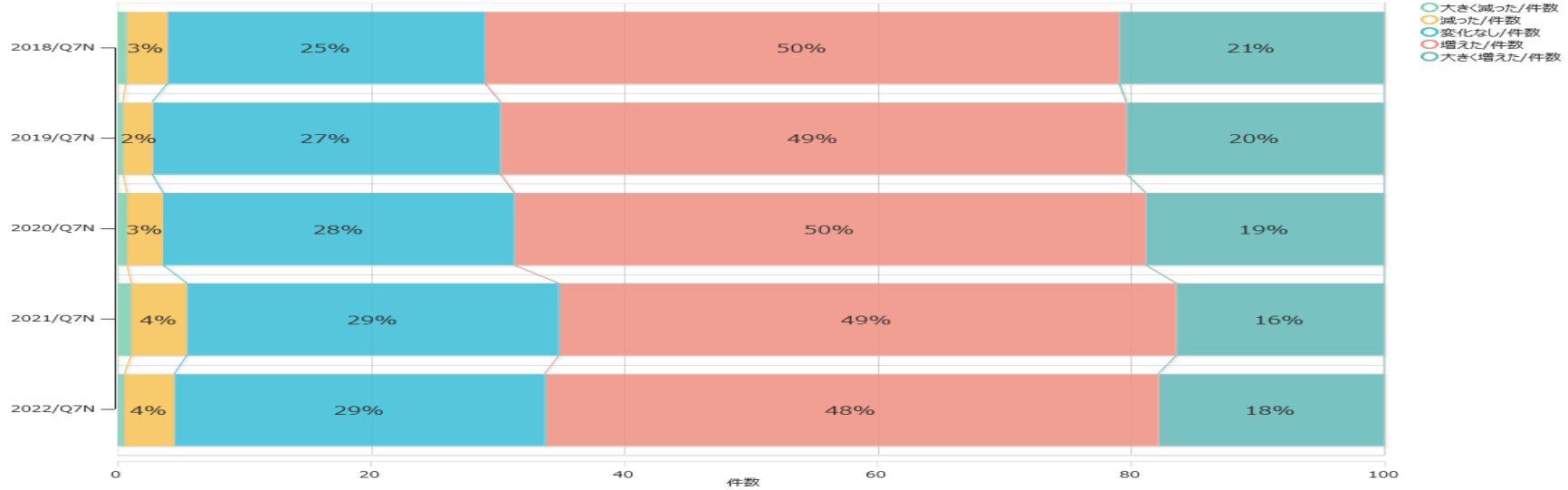


人間生活学部

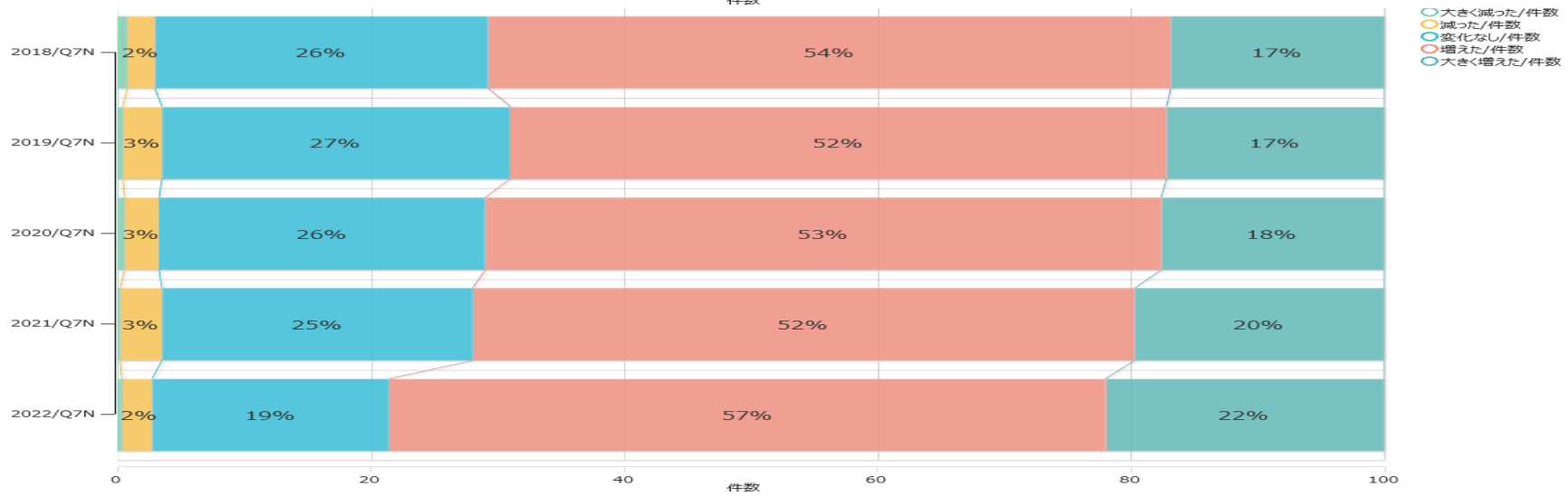


4-14. コミュニケーションの能力 【Q7-N】

文学部

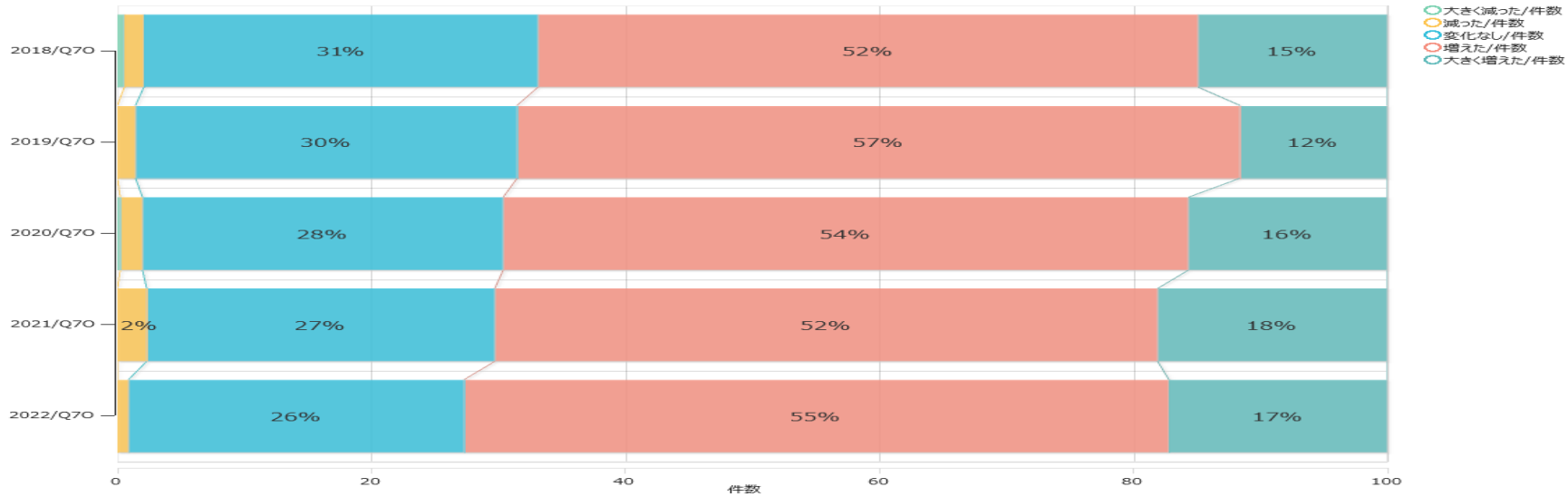


人間生活学部

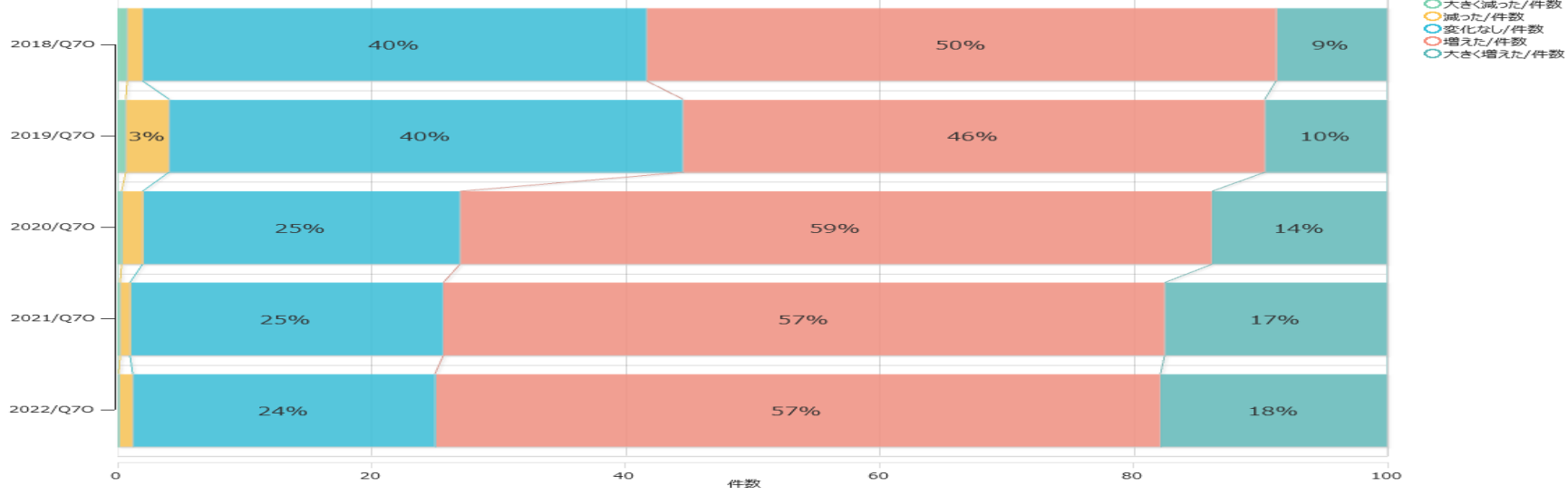


4-15. プレゼンテーションの能力 [Q7-0]

文学部

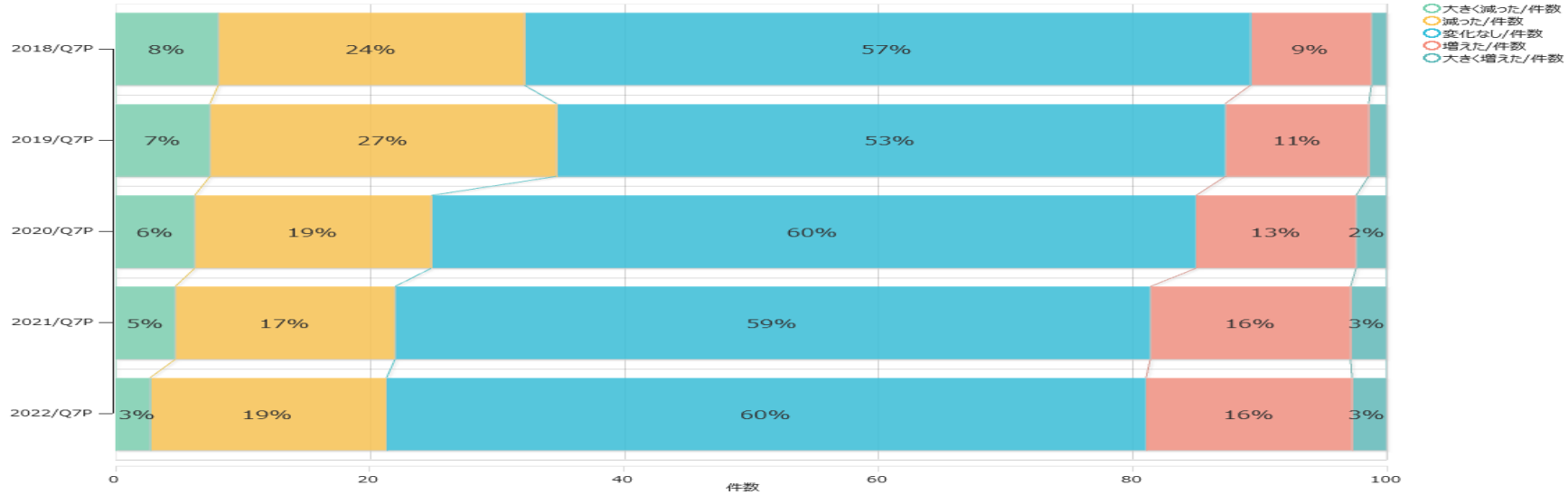


人間生活学部

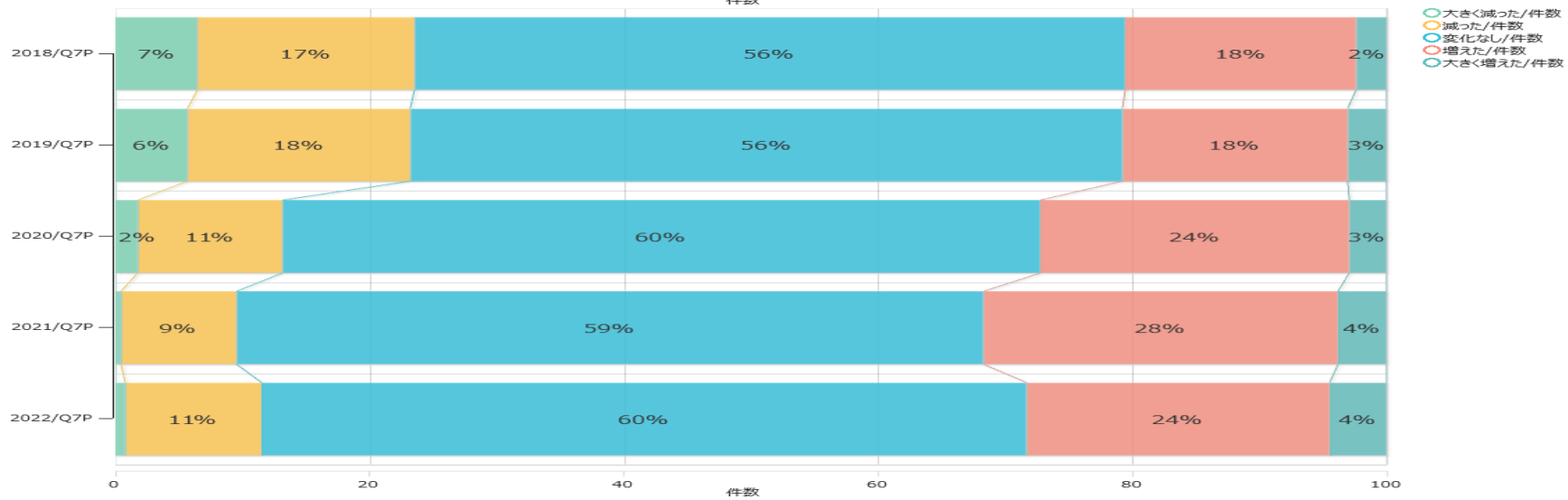


4-16. 数理的な能力 [Q7-P]

文学部

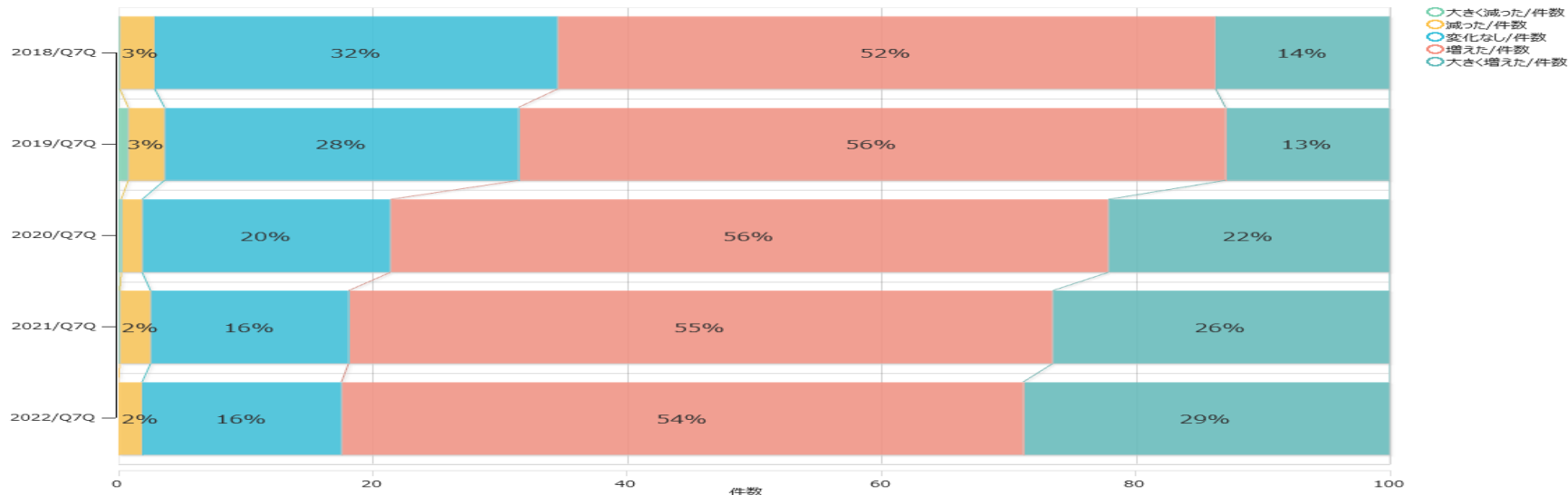


人間生活学部

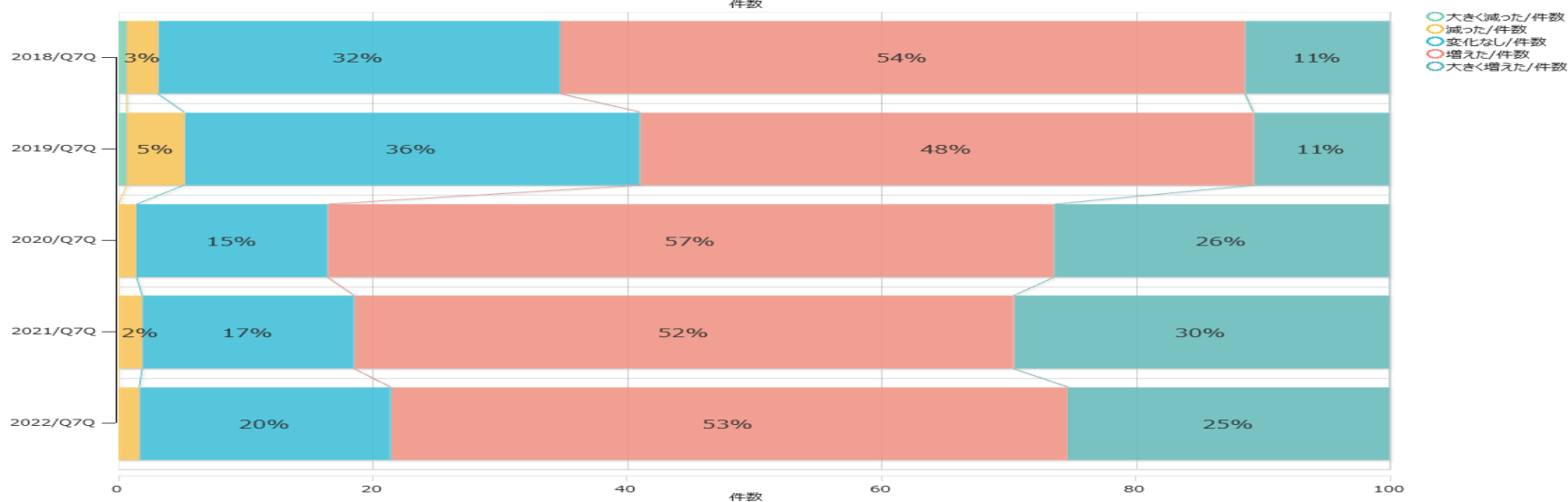


4-17. コンピュータの操作能力 [Q7-Q]

文学部

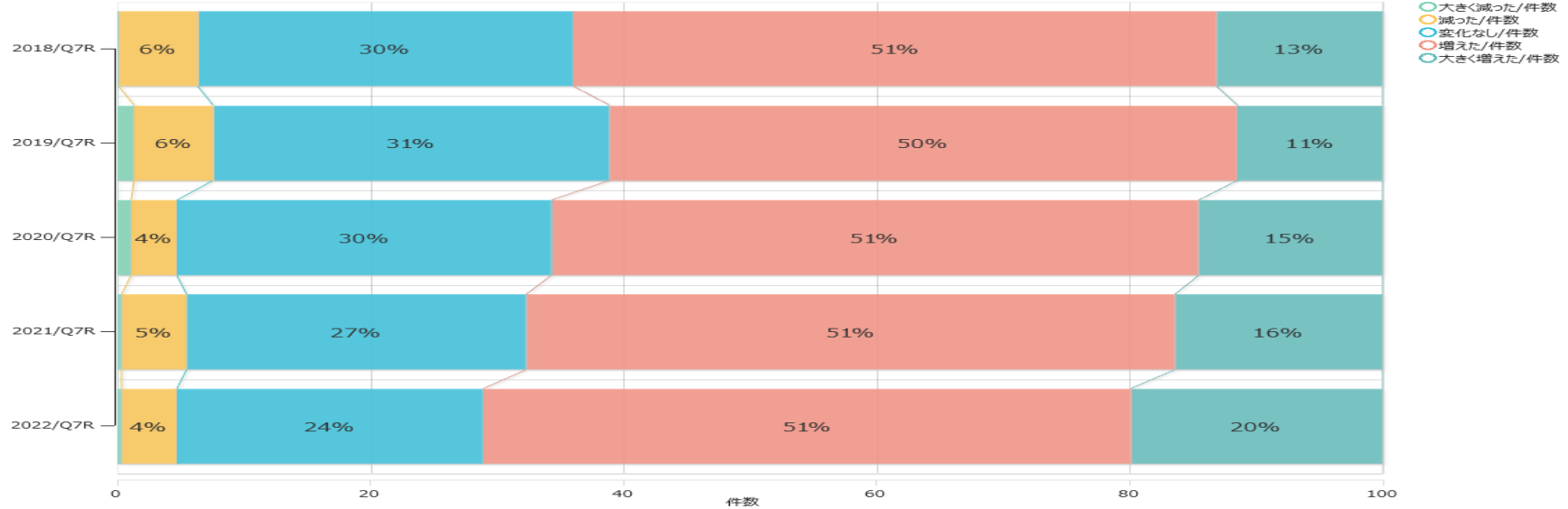


人間生活学部

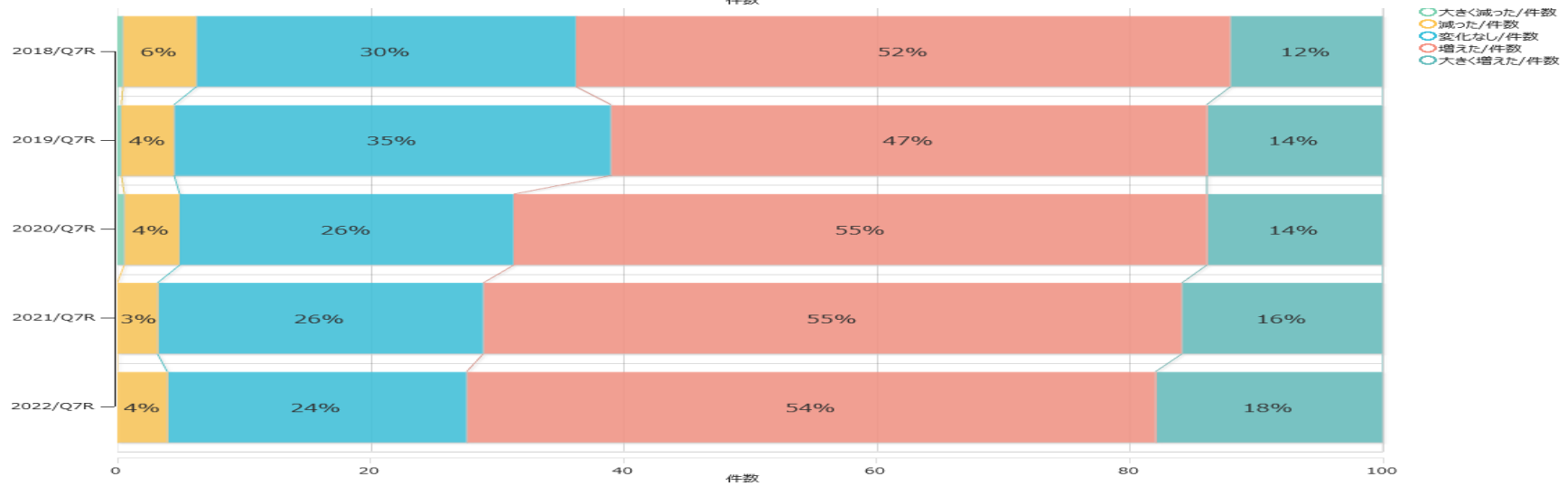


4-18. 時間を効果的に利用する能力 【Q7-R】

文学部

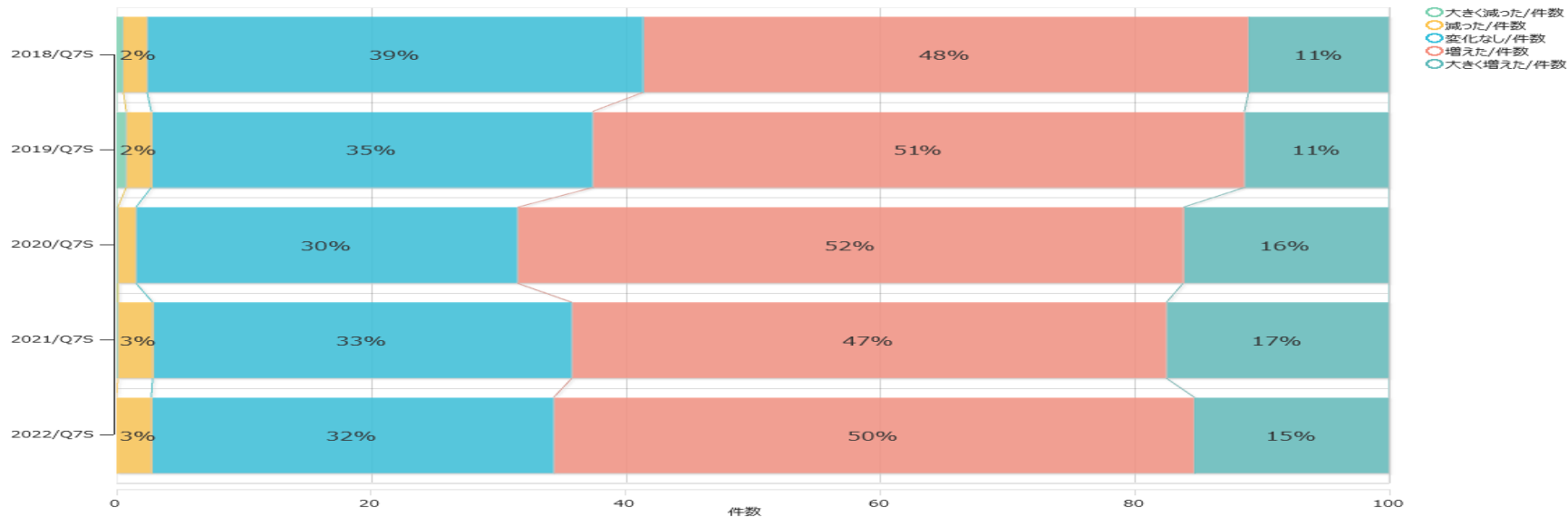


人間生活学部

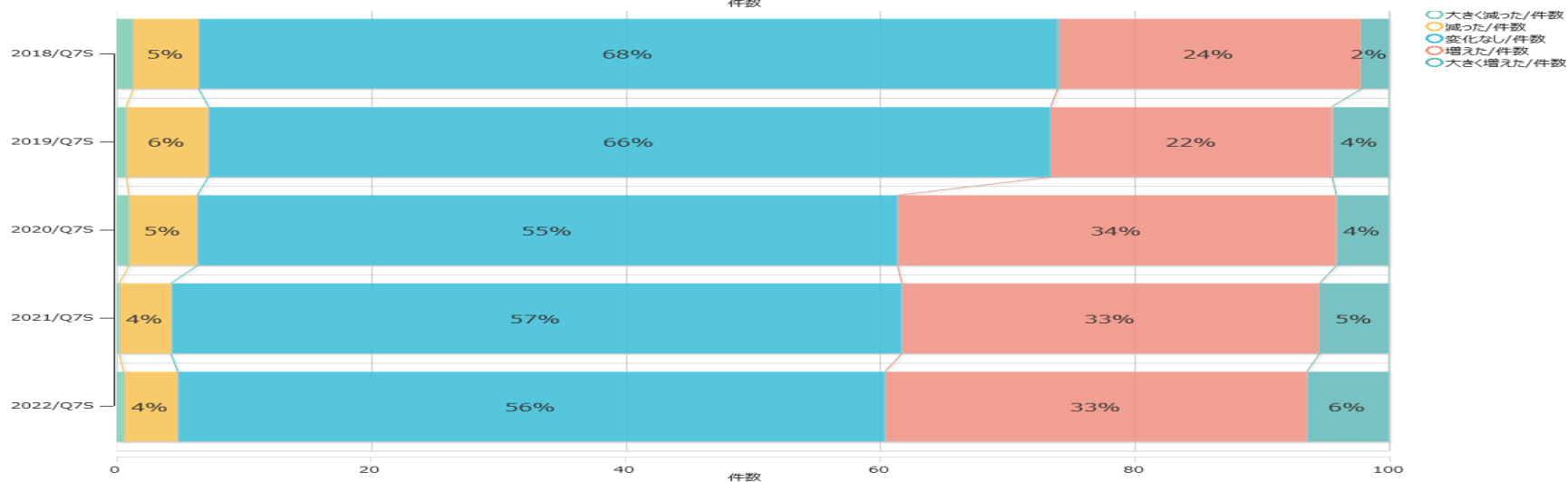


4-19. グローバルな問題の理解 【Q7-S】

文学部

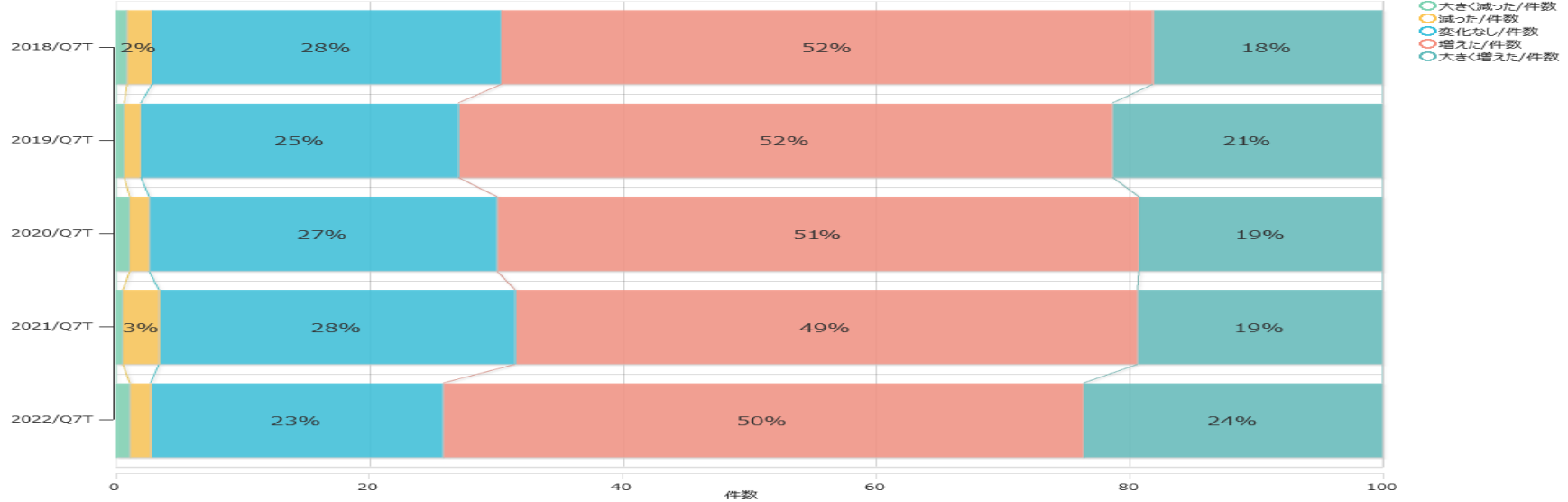


人間生活学部

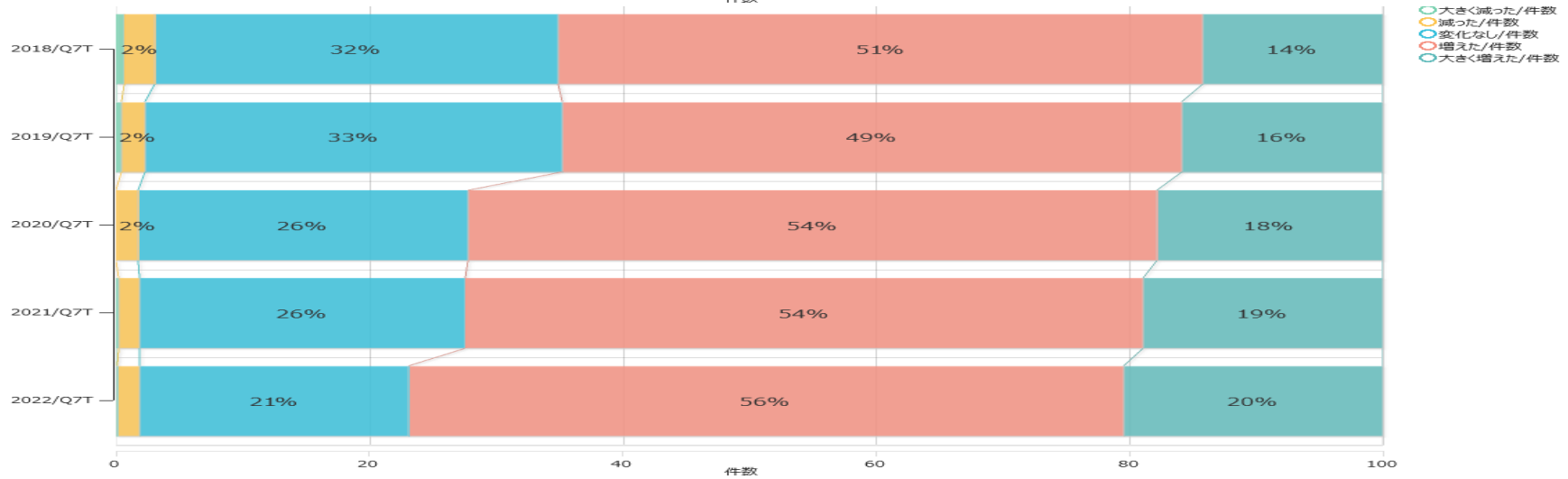


4-20. 卒業後に就職するための準備の度合い [Q7-T]

文学部



人間生活学部



両学部ともに「一般的な教養（4-1）」「分析力や問題解決能力（4-2）」「批判的に考える能力（4-4）」について年々増加傾向がみられ、共通科目や卒論などへの取り組み状況の成果が一つの要因と考えられる。また、文学部においては「文章表現の能力（4-12）」「プレゼンテーションの能力（4-15）」について年々微増傾向にある一方、人間生活学部ではコロナ禍を境に増加していることから、研究や課題成果等を文章にまとめる機会やプレゼンテーションで発表する経験を通して、成長を実感できていることが推測できる。また、「数理的な能力（4-16）」「コンピュータの操作能力（4-17）」が両学部ともにコロナ禍を境に増加したことから、授業外でのコンピュータ使用頻度の増加が能力の向上に繋がっており、またデータ処理などの課題に向き合っている状況が伺える。文学部では「外国語の運用能力（4-13）」に関して、コロナ後に「大きく増えた」と感じる学生の割合がやや減少しており、留学への希望やモチベーションが高まりにくい状況が続いていたことが伺える。一方、人間生活学部では「コミュニケーションの能力（4-14）」が2022年度調査で増加しており、学外実習（臨地実習）や課外活動などが正常化したことが影響している可能性が考えられる。両学部ともに「卒業後に就職するための準備の度合い（4-20）」について増加しており、より早い時期から将来像を描き、目標に向かうことの重要性について気づく学生が増えてきていると考えられる。

能力の変化については、主観的評価のみならず到達すべき水準を評価する客観的な指標と組み合わせて判断することが求められる。昨今は学生一人ひとりの資質や特性が多様化しており、能力向上のためには一層オーダーメイドによる対応が必要となるだろう。

5. 教育への満足度

Q. あなたは、本学の教育内容・環境にどれくらい満足していますか。

5-1. 専門教育あるいは所属学科の授業

5-2. 2年次生または3年次生を対象としたゼミ（演習）などの教育内容

5-3. 授業の全体的な質

5-4. 日常生活と授業内容との関連

5-5. 将来の仕事と授業内容の結びつき

5-6. 教員と話をする機会

5-7. 学習支援や個別の学習指導

5-8. 他の学生と話をする機会

5-9. 大学のなかでの学生同士の一体感

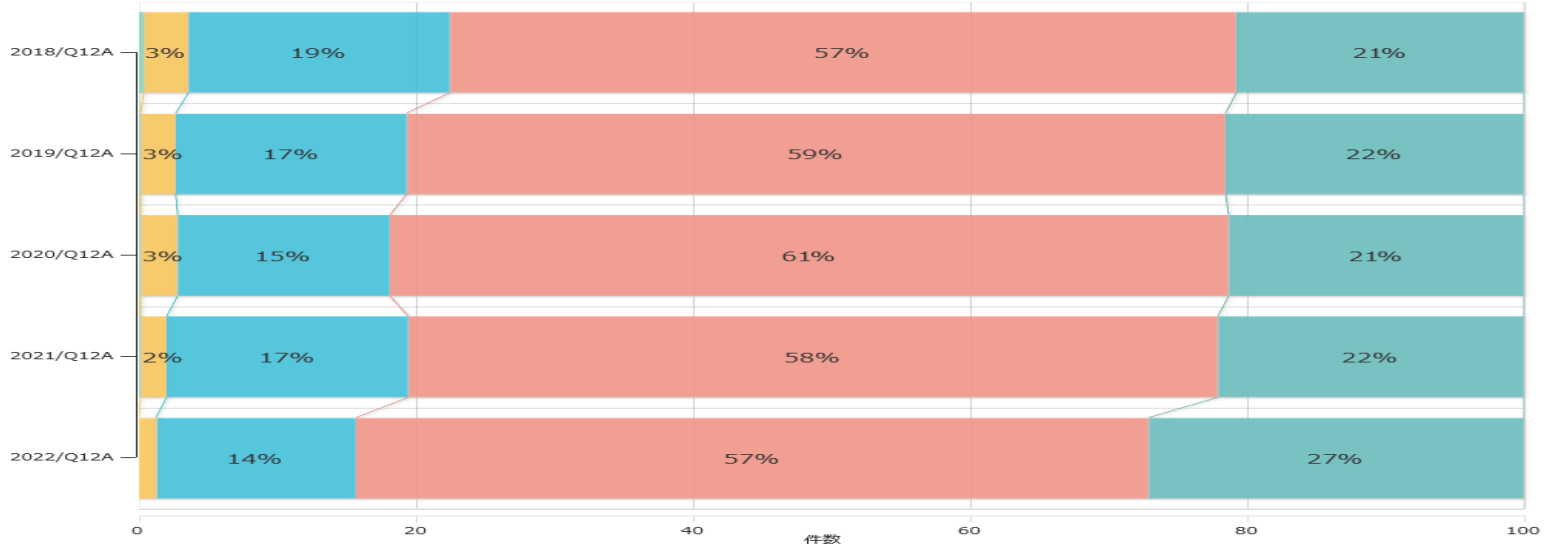
5-10. 多様な考え方を認め合う雰囲気

5-11. 大学での経験全般について

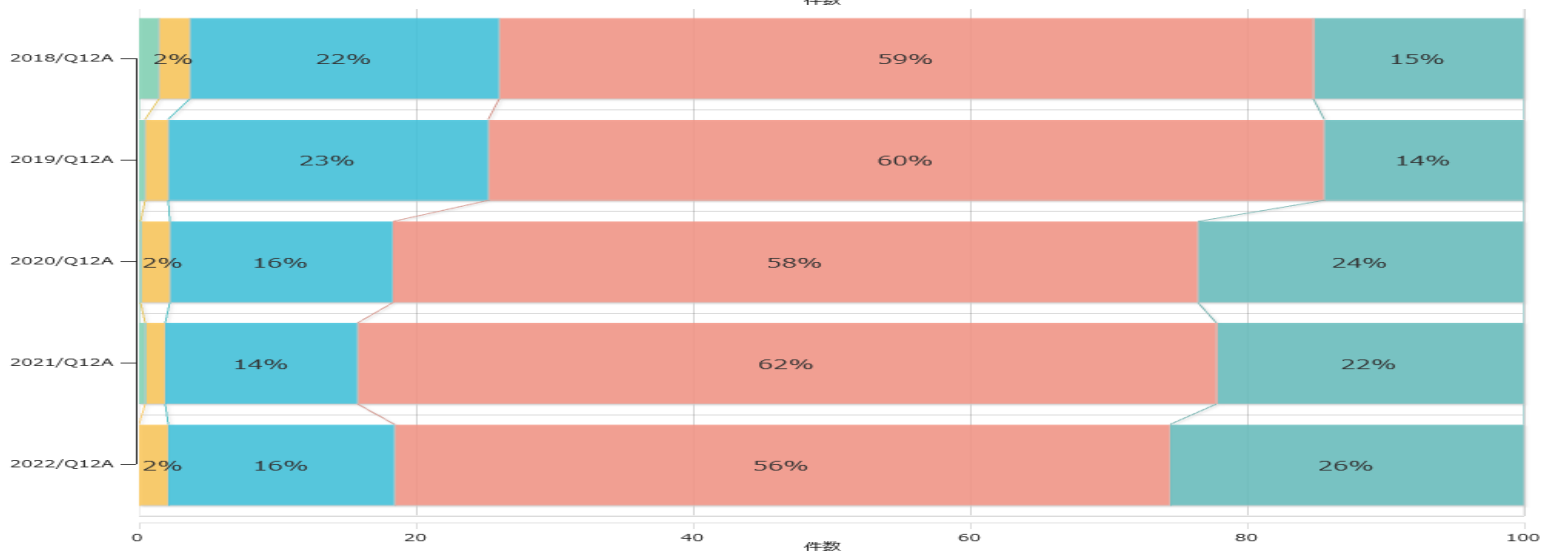
5-12. 1つの授業を履修する学生数

5-1. 専門教育あるいは所属学科の授業 [Q12-A]

文学部



人間生活学部

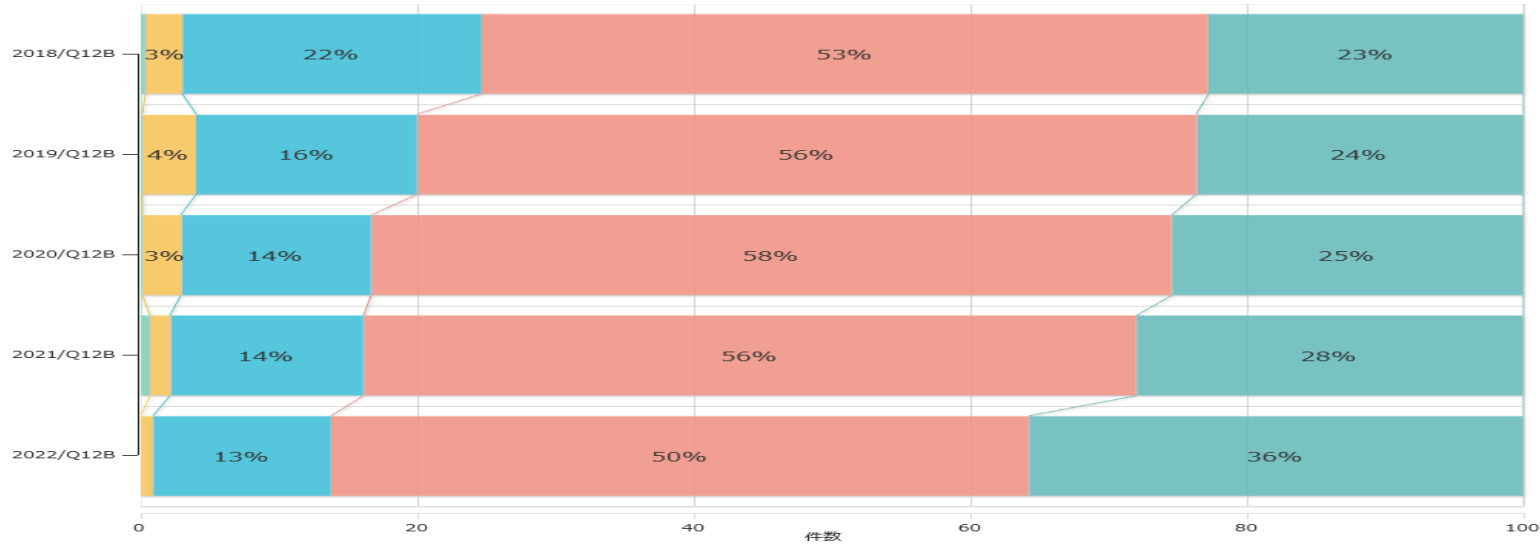


5-2. 2年次または3年次を対象としたゼミ（演習）などの教育内容

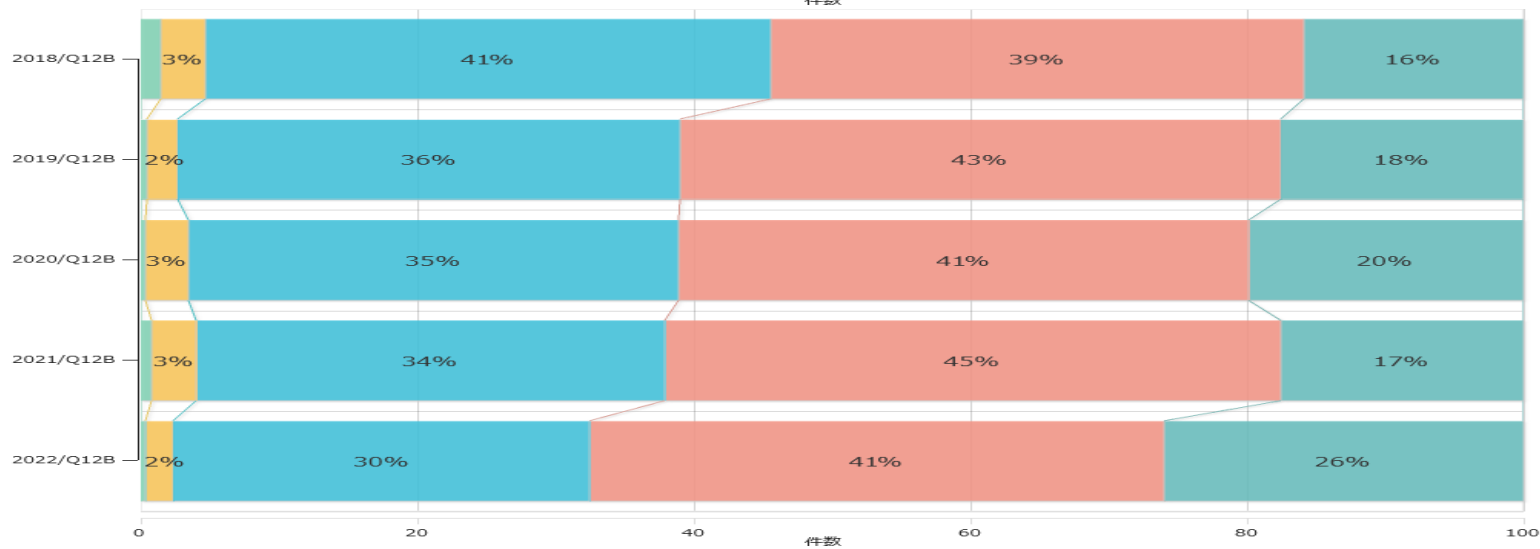
[Q12-B]



文学部

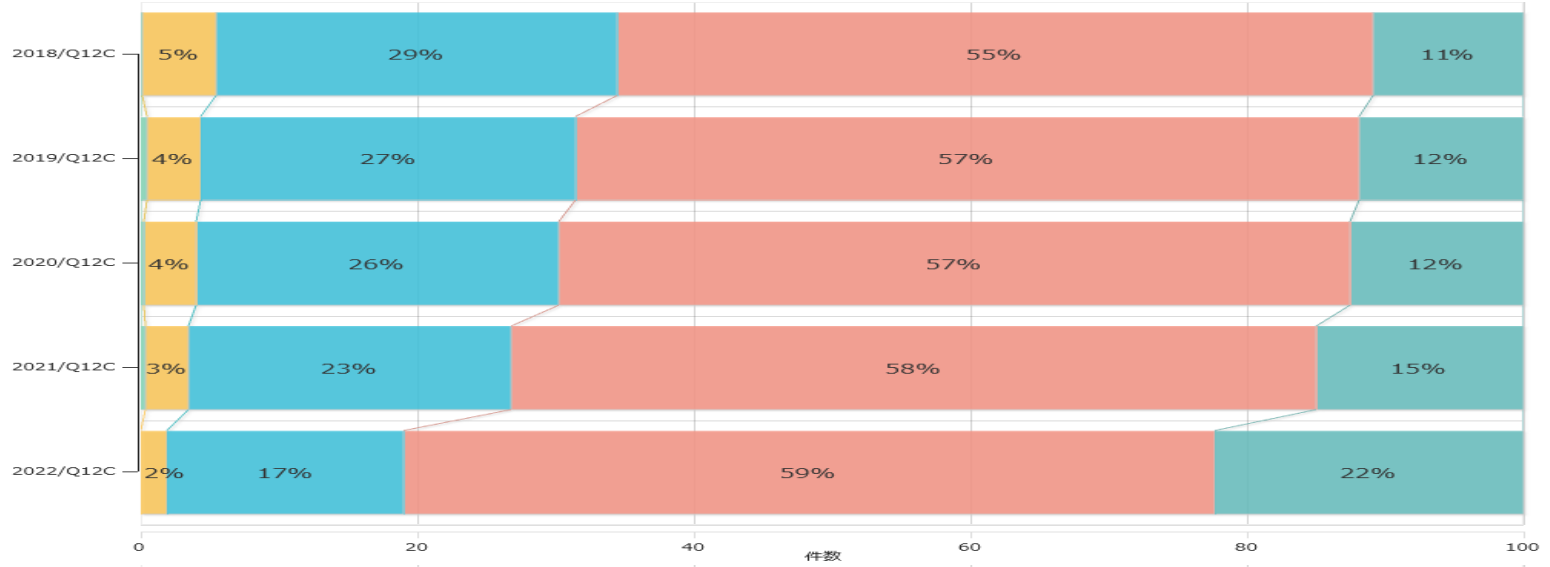


人間生活学部

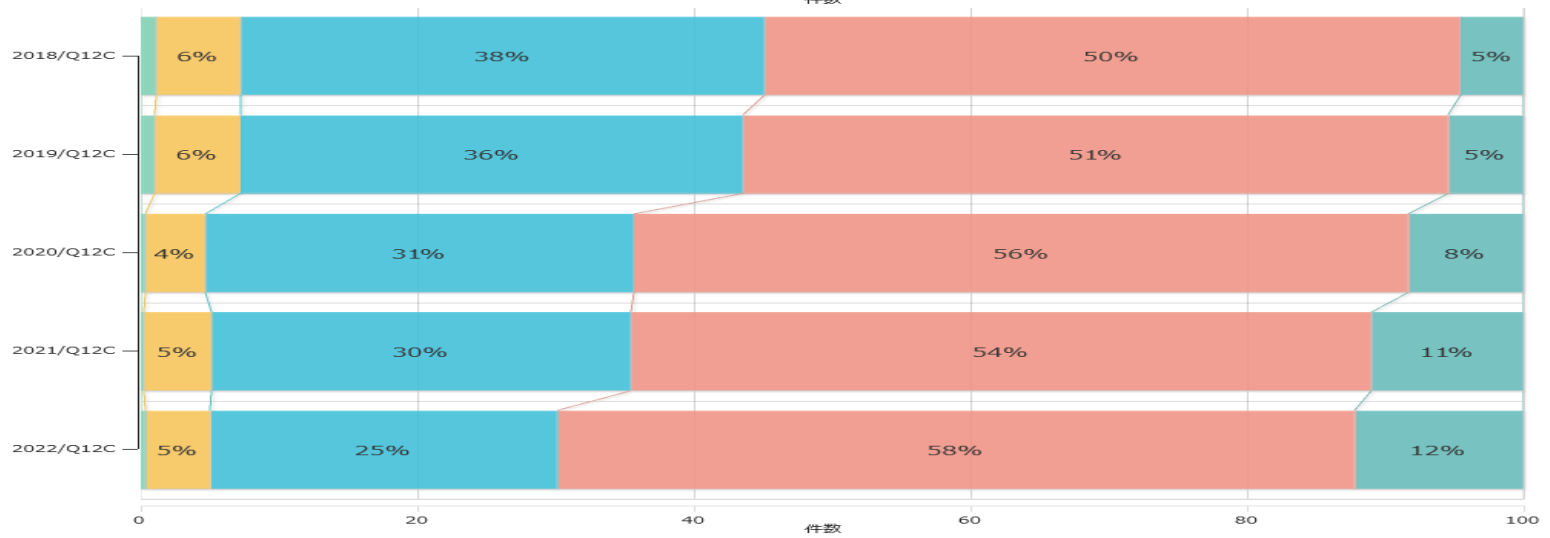


5-3. 授業の全体的な質 [Q12-C]

文学部

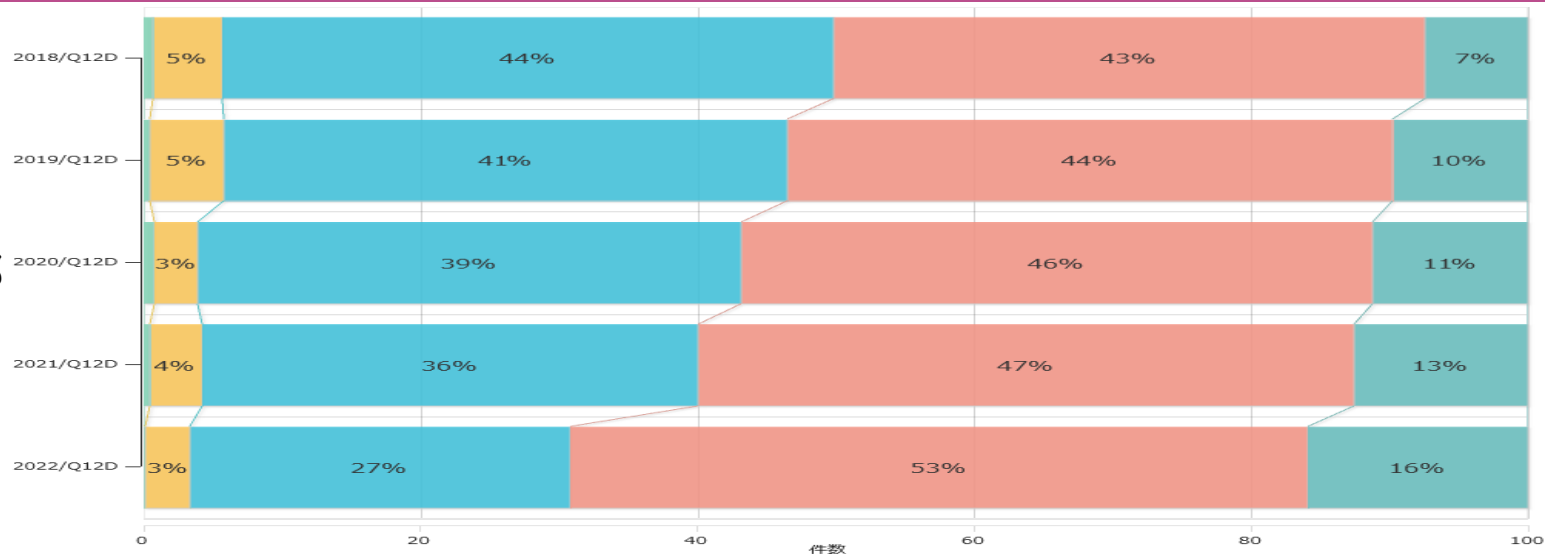


人間生活学部

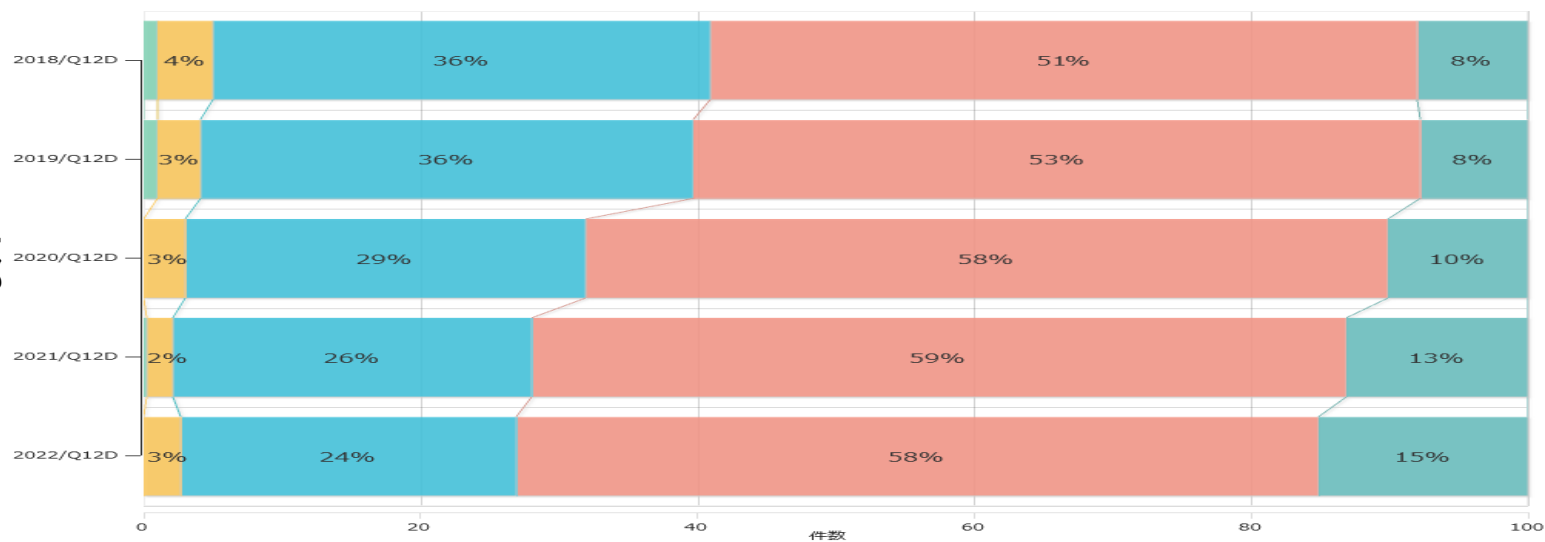


5-4. 日常生活と授業内容との関連 【Q12-D】

文学部



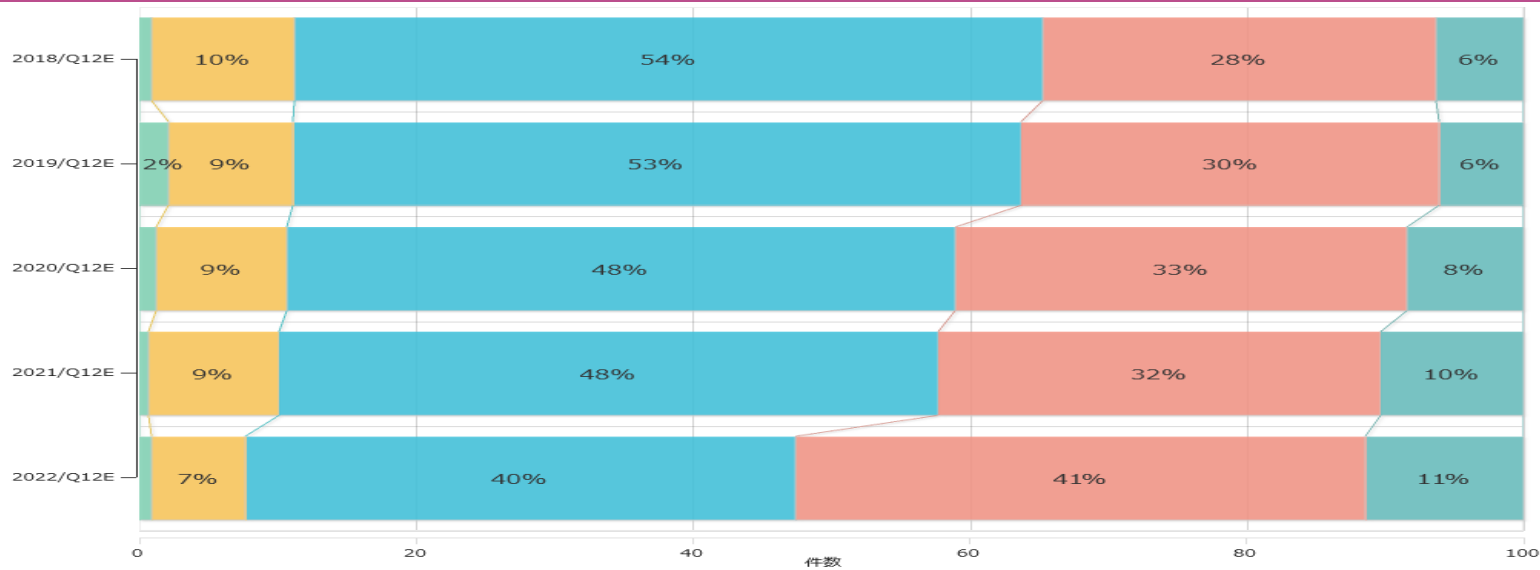
人間生活学部



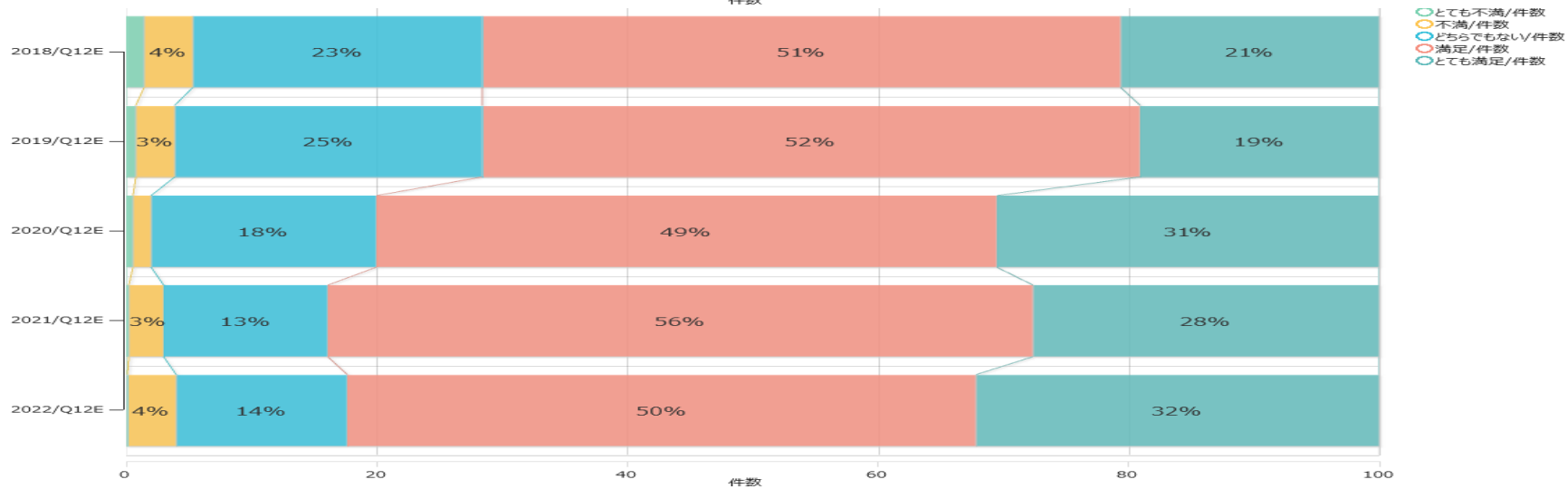
5-5. 将来の仕事と授業内容の結びつき

[Q12-E]

文学部

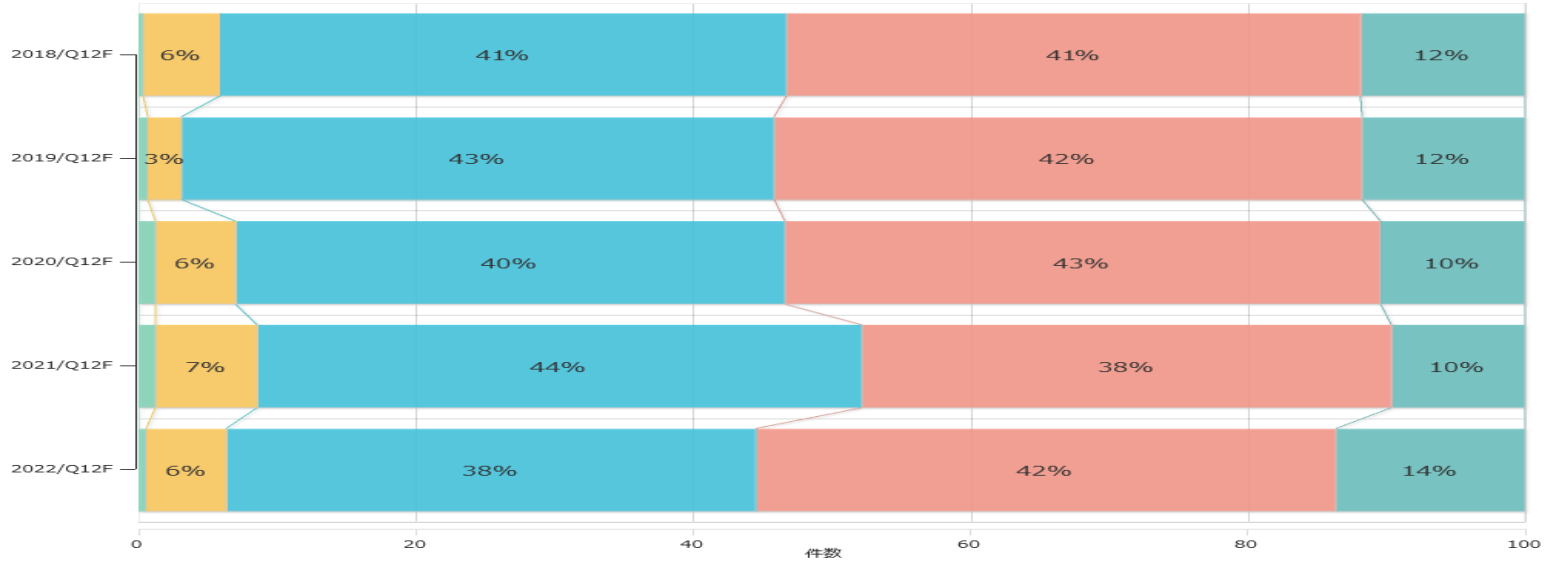


人間生活学部

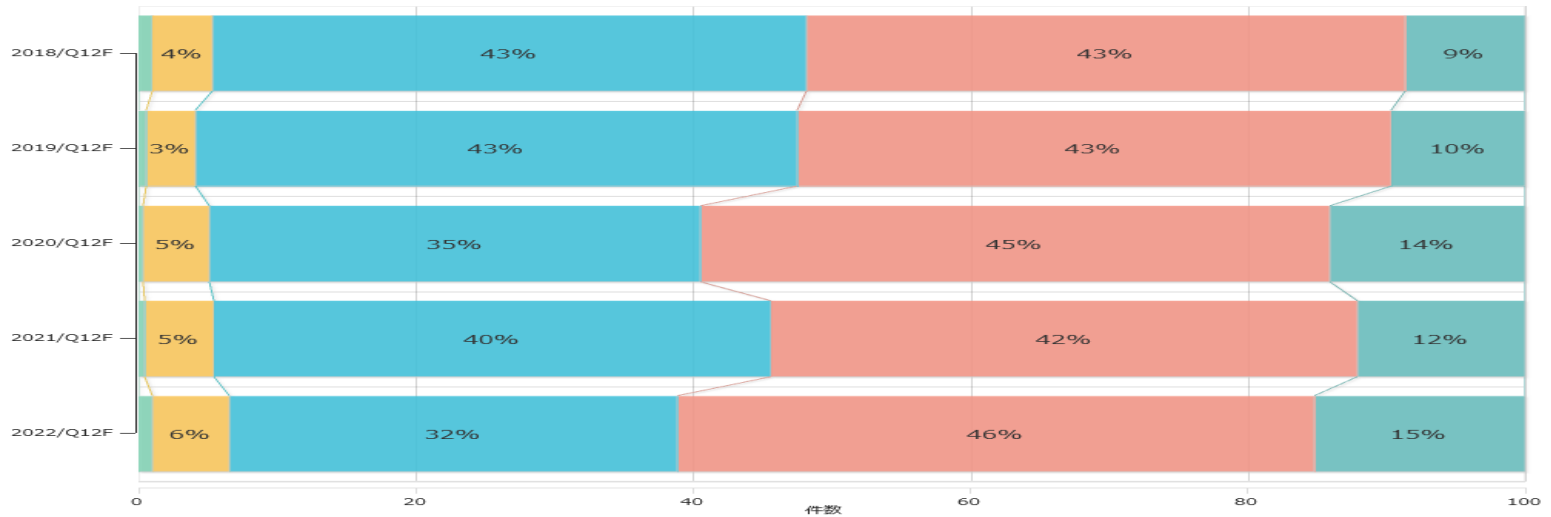


5-6. 教員と話をする機会 [Q12-F]

文学部

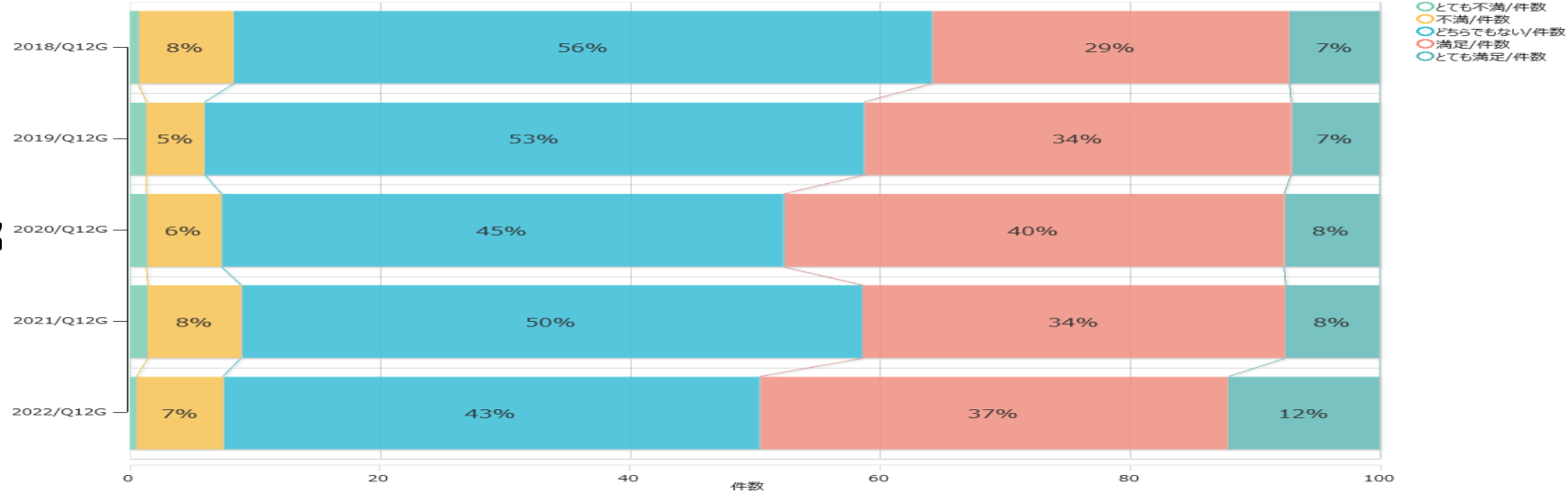


人間生活学部

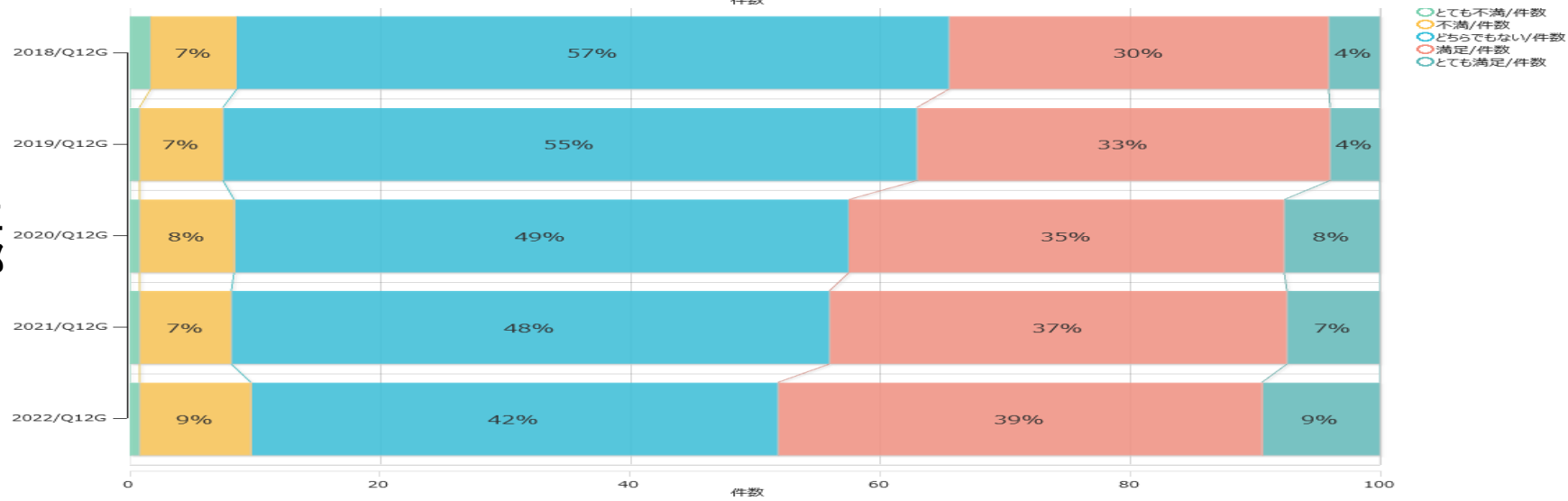


5-7. 学習支援や個別の学習指導 [Q12-G]

文学部

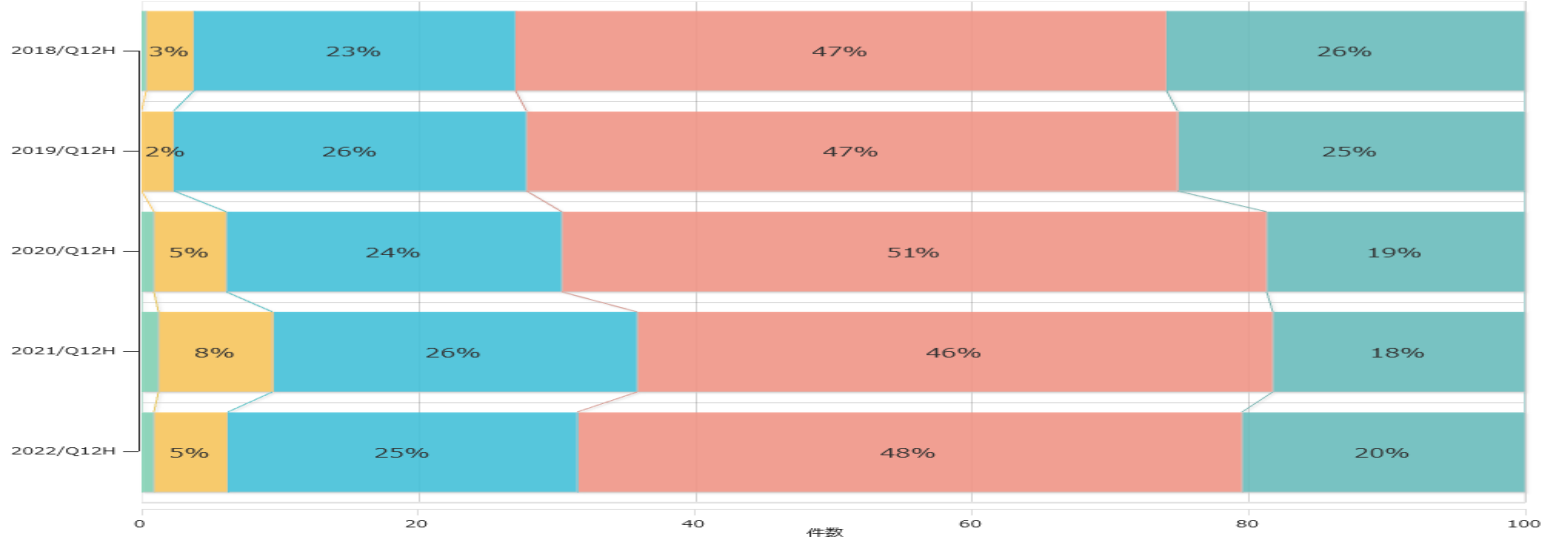


人間生活学部

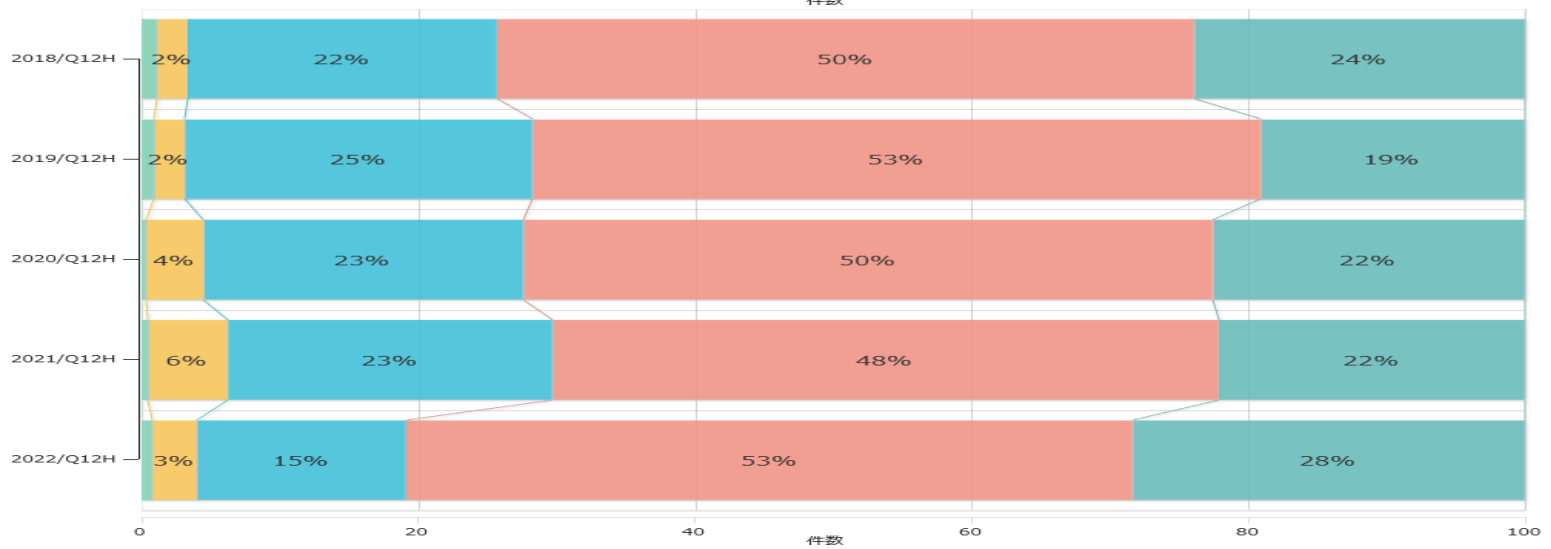


5-8. 他の学生と話をする機会 [Q12-H]

文学部

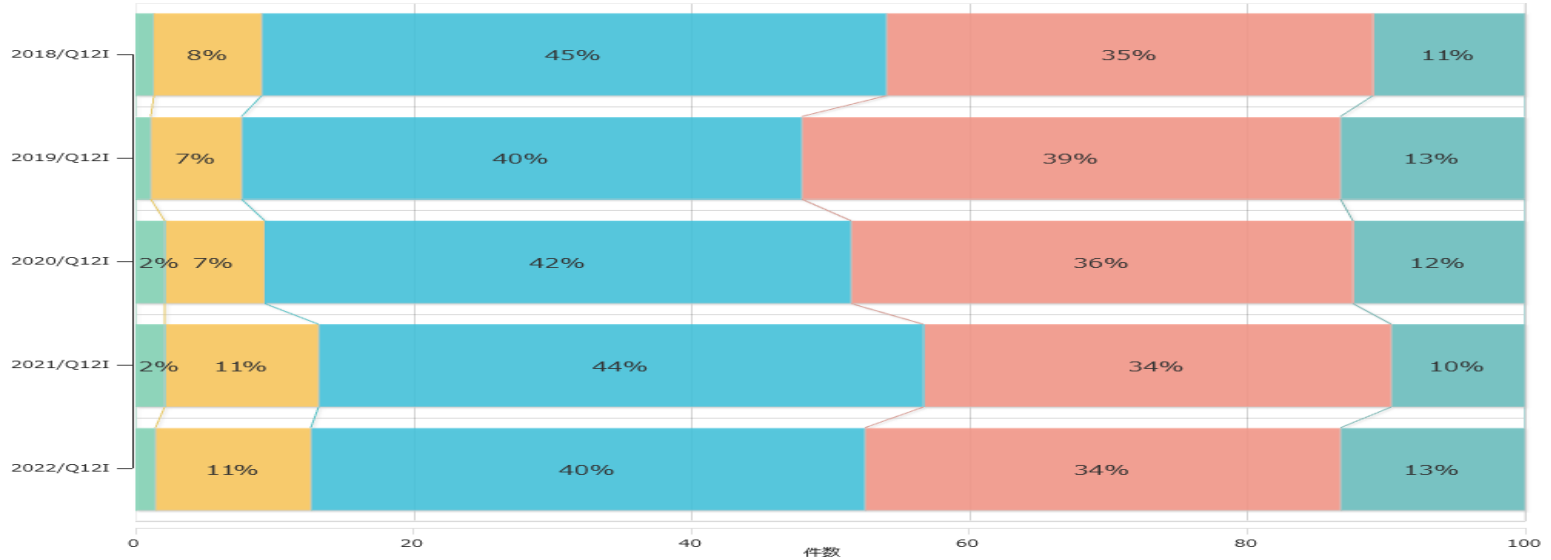


人間生活学部

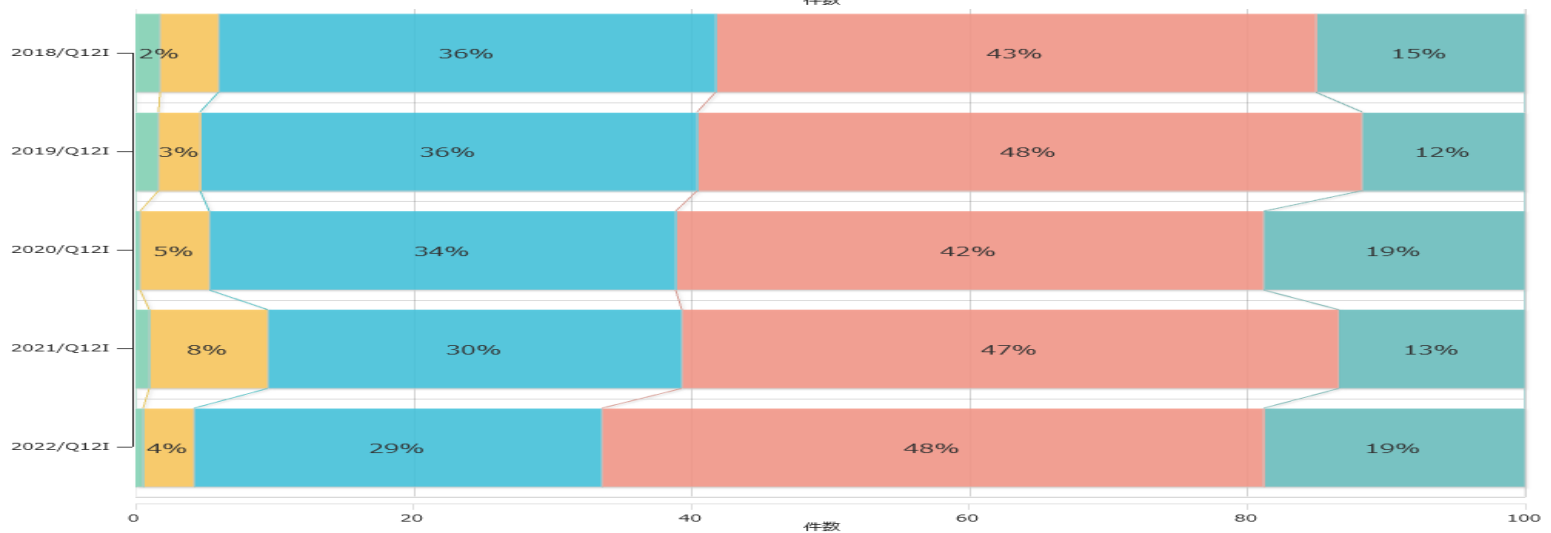


5-9. 大学のなかでの学生同士の一体感 [Q12-I]

文学部

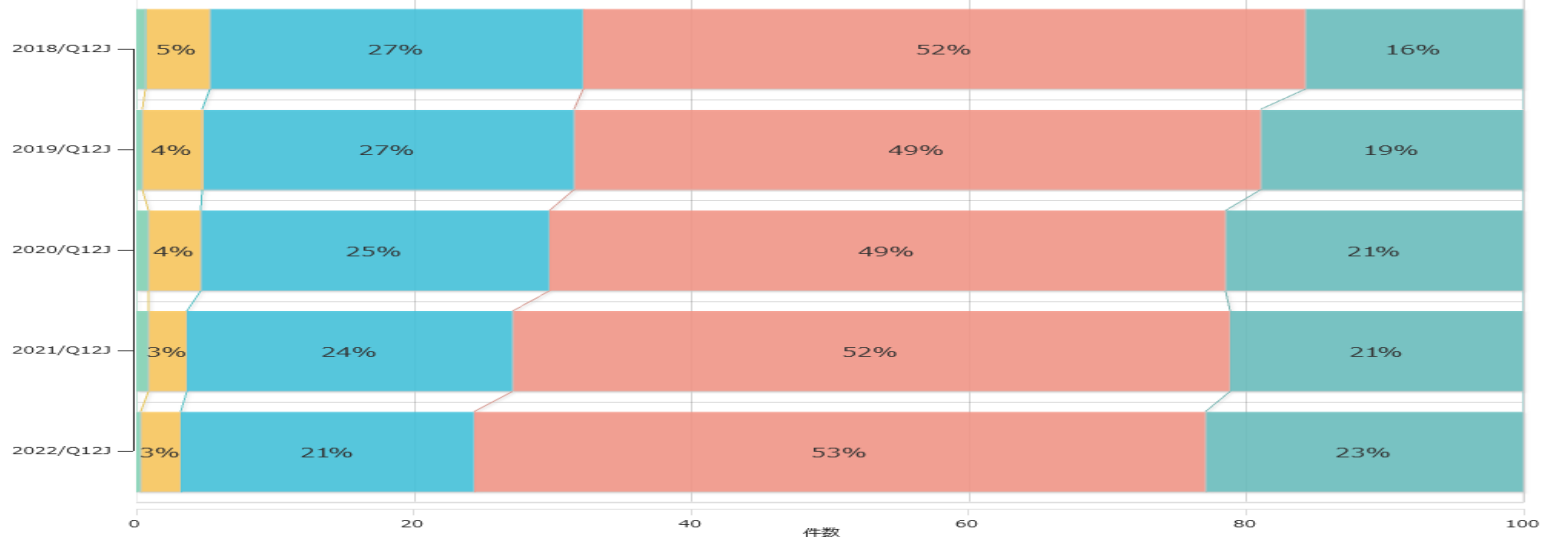


人間生活学部

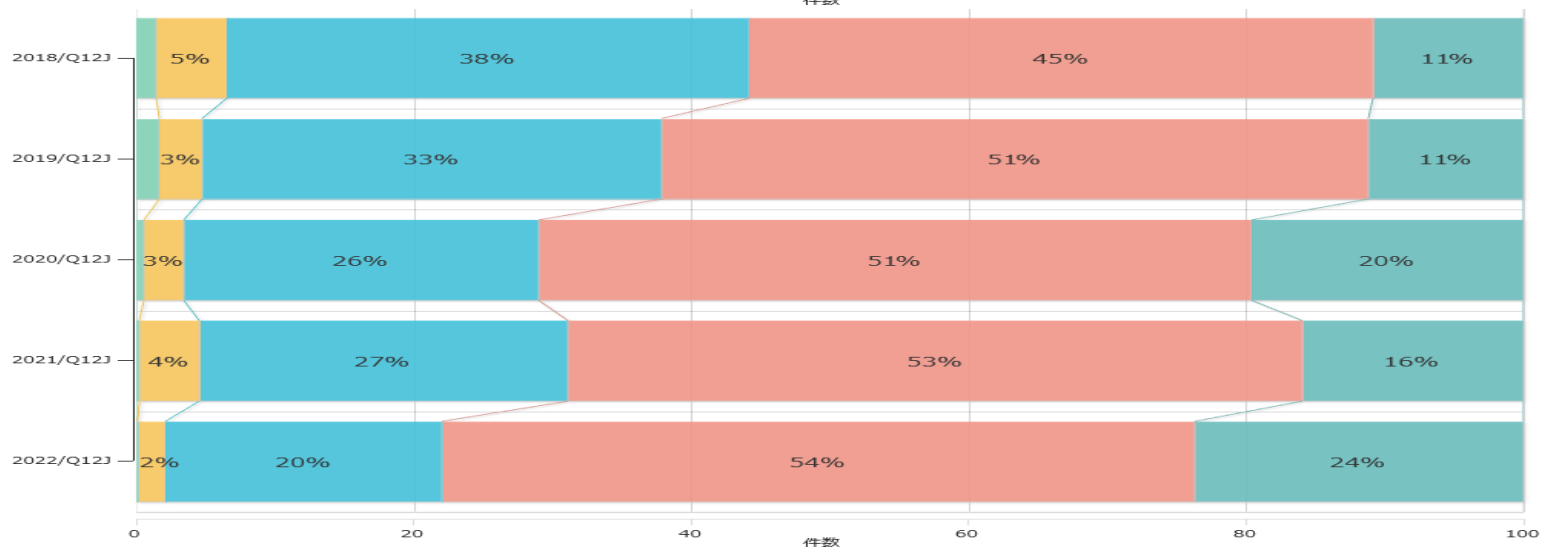


5-10. 多様な考え方を認め合う雰囲気 【Q12-J】

文学部

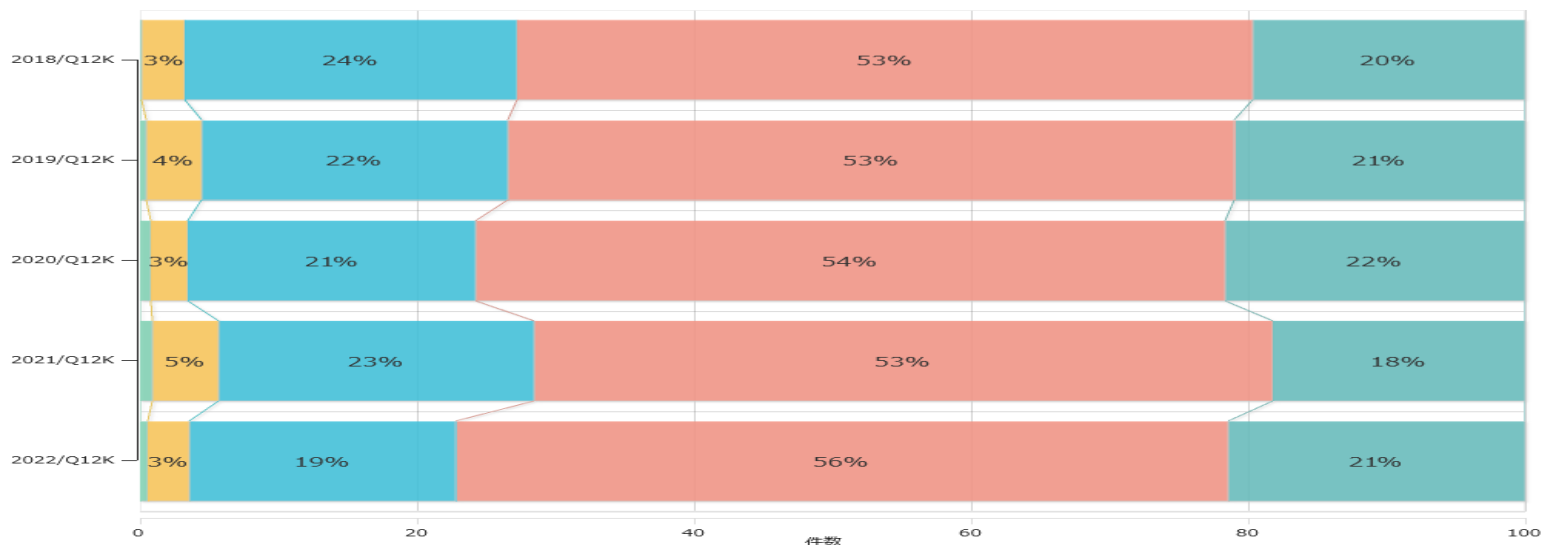


人間生活学部

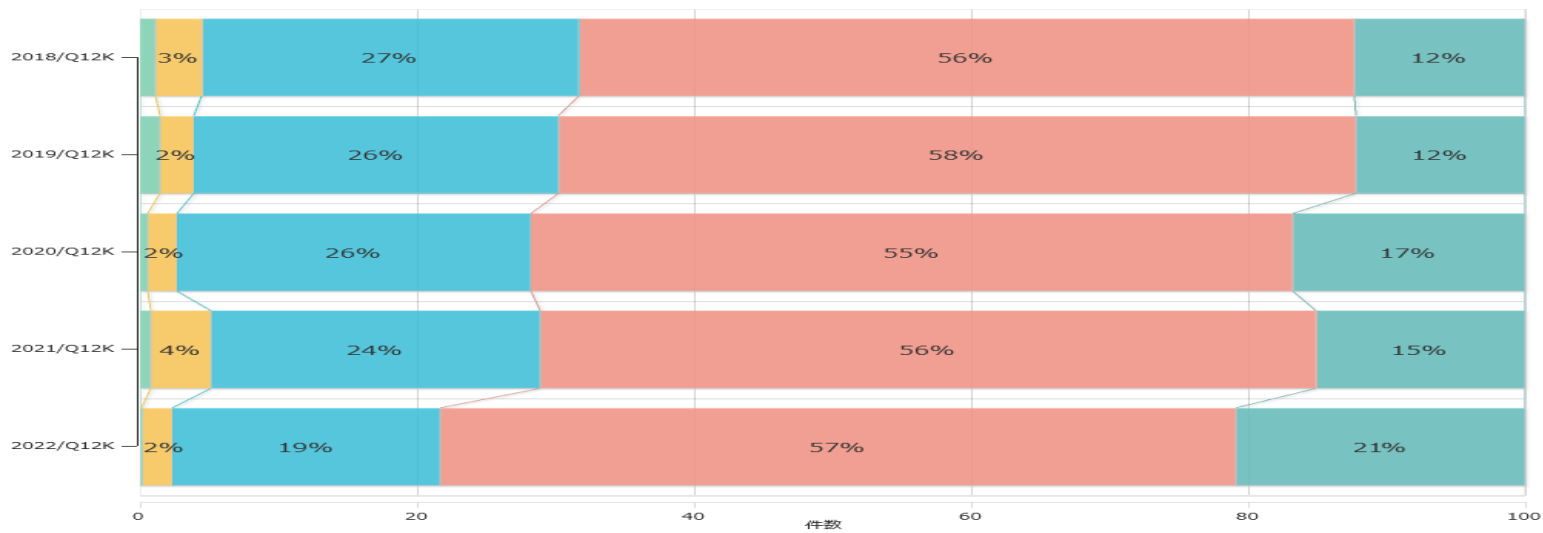


5-11. 大学での経験全般について 【Q12-K】

文学部

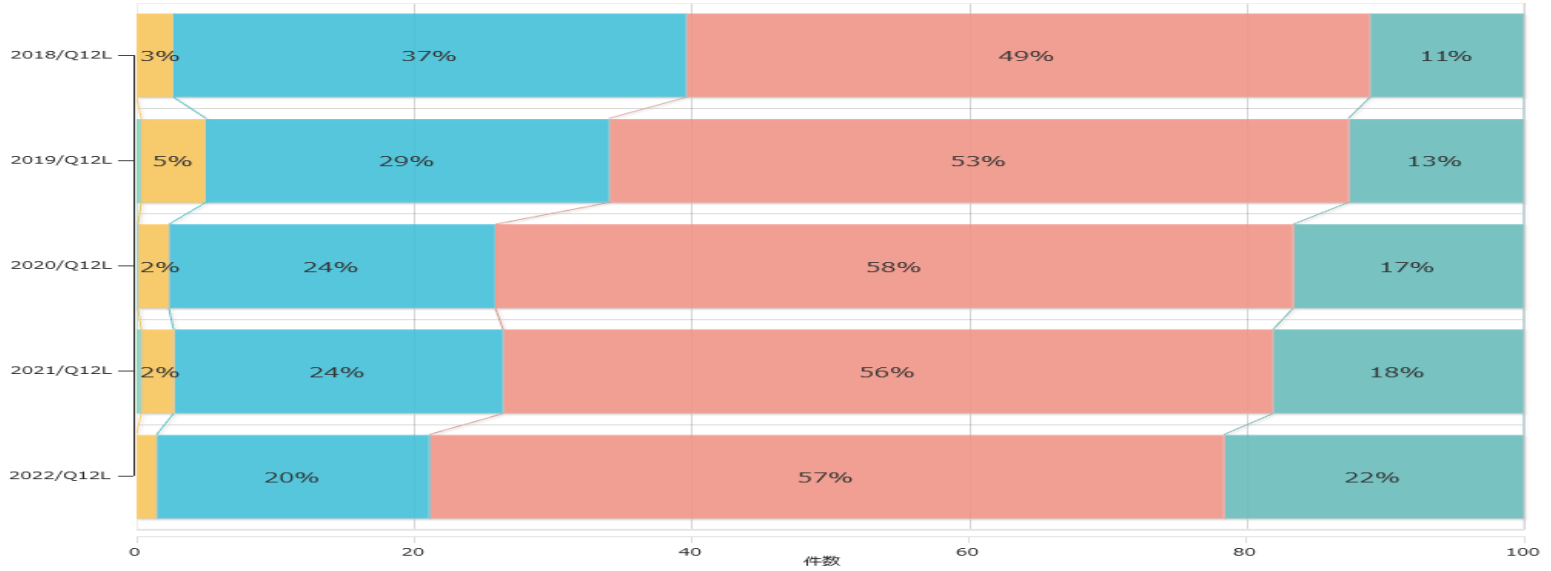


人間生活学部

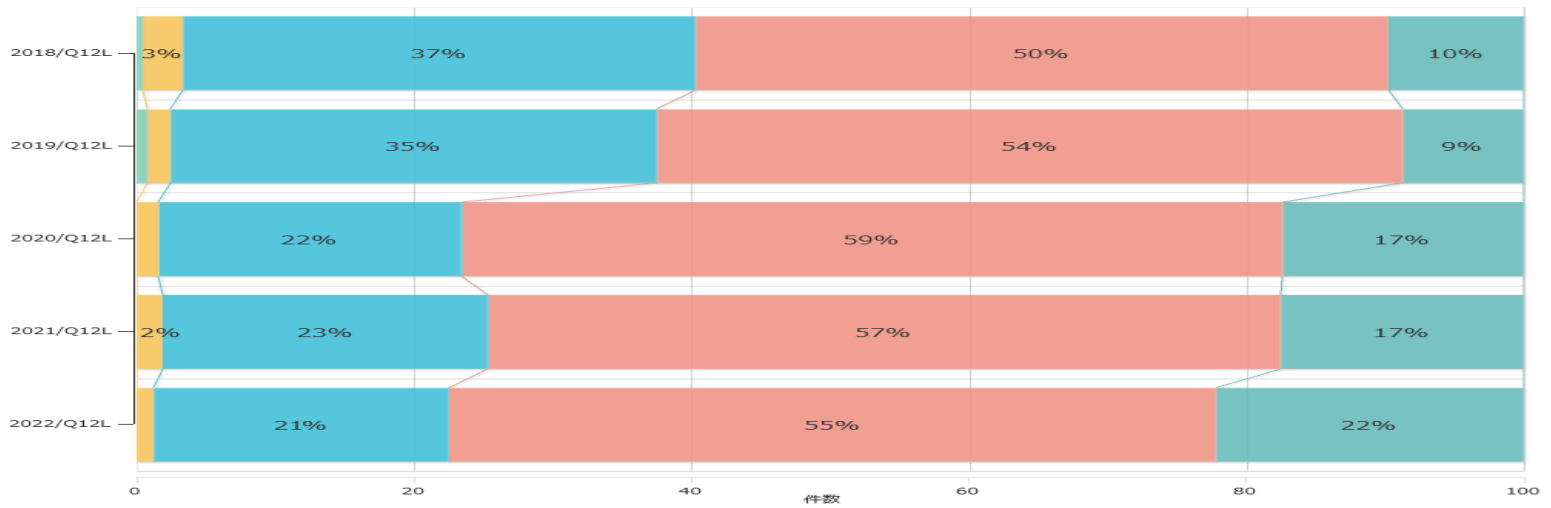


5-12. 1つの授業を履修する学生数 [Q12-L]

文学部



人間生活学部



全ての項目において、昨年度回答よりも良い反応がみられており、学生は本学に対する「教育への満足度」が高いと判断される。

特に文学部では「専門教育あるいは所属学科の授業」「2年次または3年次を対象としたゼミ（演習）などの教育内容」「授業の全体的な質」の3項目で、人間生活学部では「専門教育あるいは所属学科の授業」「将来の仕事と授業内容の結びつき」「他の学生と話をする機会」の3項目で、80ポイント以上が「満足・とても満足」しているという結果だった。

また、対面授業へ戻ったことが影響していると思われるが、「教員と話をする機会」「大学のなかでの学生同士の一体感」「大学での経験全般について」のポイントがコロナ以前に戻りつつある。

今後は、全体での満足度を維持しつつ、「満足・とても満足」が50ポイントを少し下回っている「学修支援や個別の学習指導」（両学部）、「大学のなかでの学生同士の一体感」（文学部）における満足度を高める取り組みが必要である。

6. 設備・制度への満足度

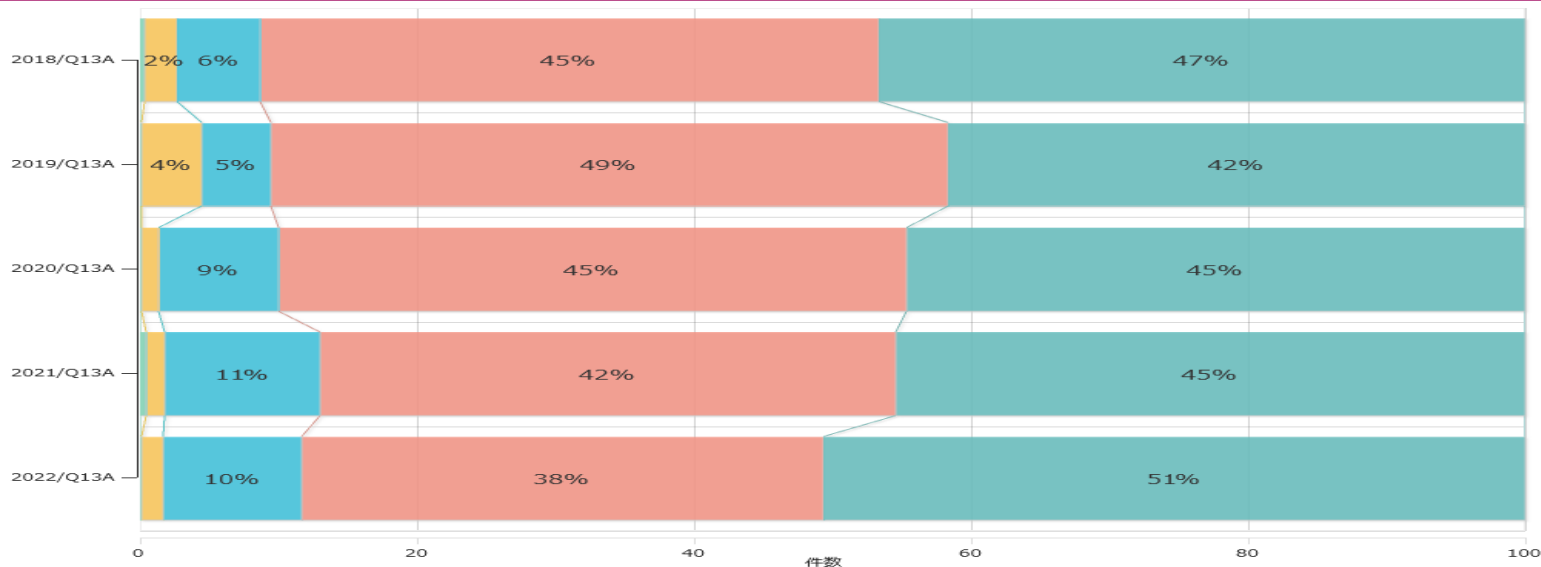
Q. あなたは本学の設備や学生支援制度にどの程度満足していますか。

- 6-1. 図書館の設備（蔵書やレファレンスサービス）
- 6-2. 実験室の設備や器具
- 6-3. コンピュータの施設や設備
- 6-4. コンピュータの訓練や援助
- 6-5. インターネットの使いやすさ
- 6-6. 奨学金などの学費援助の制度
- 6-7. 健康・保健サービス（心身の健康に関わる問題についての診療や相談）
- 6-8. レクリエーション施設（ジムの設備など）
- 6-9. キャリアカウンセリング（就職や進学に関する相談）

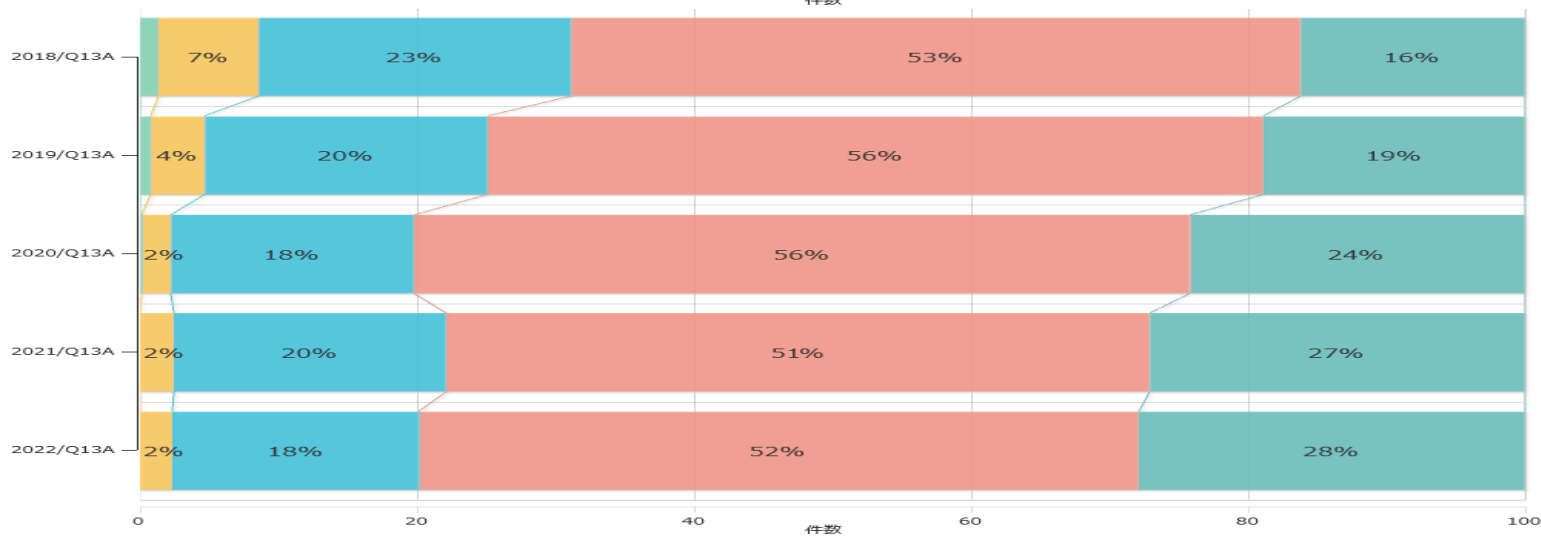
6-1. 図書館の設備（蔵書やレファレンスサービス）

[Q13-A]

文学部



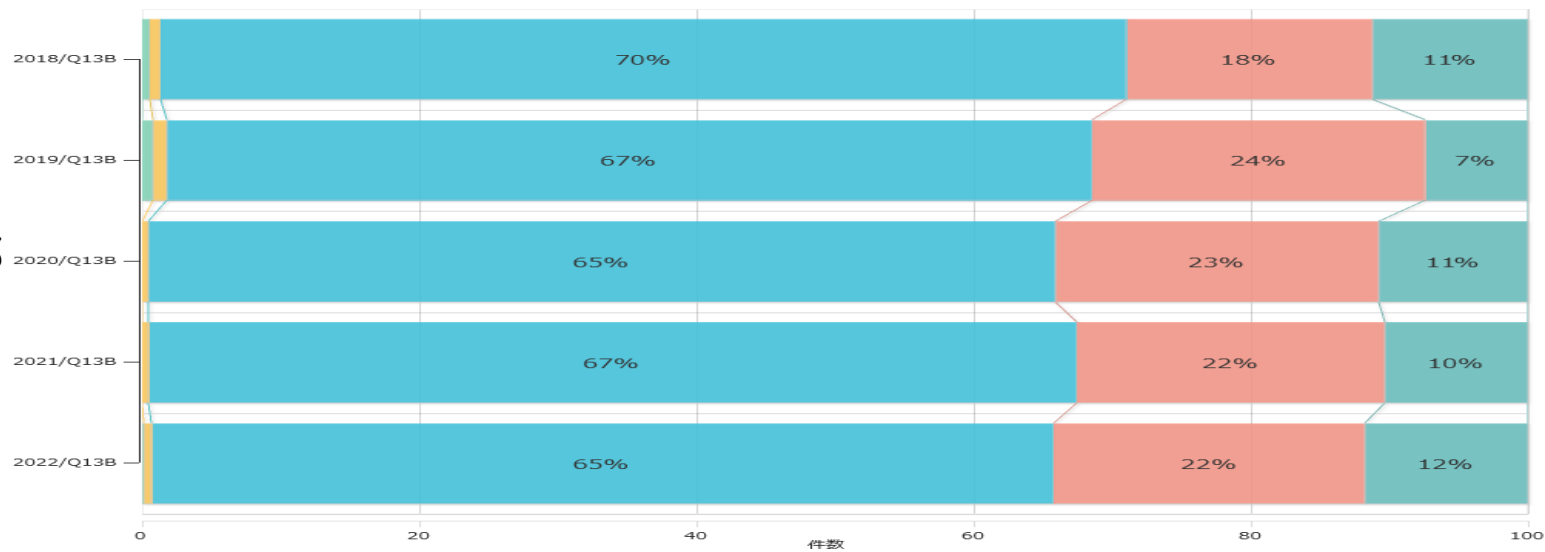
人間生活学部



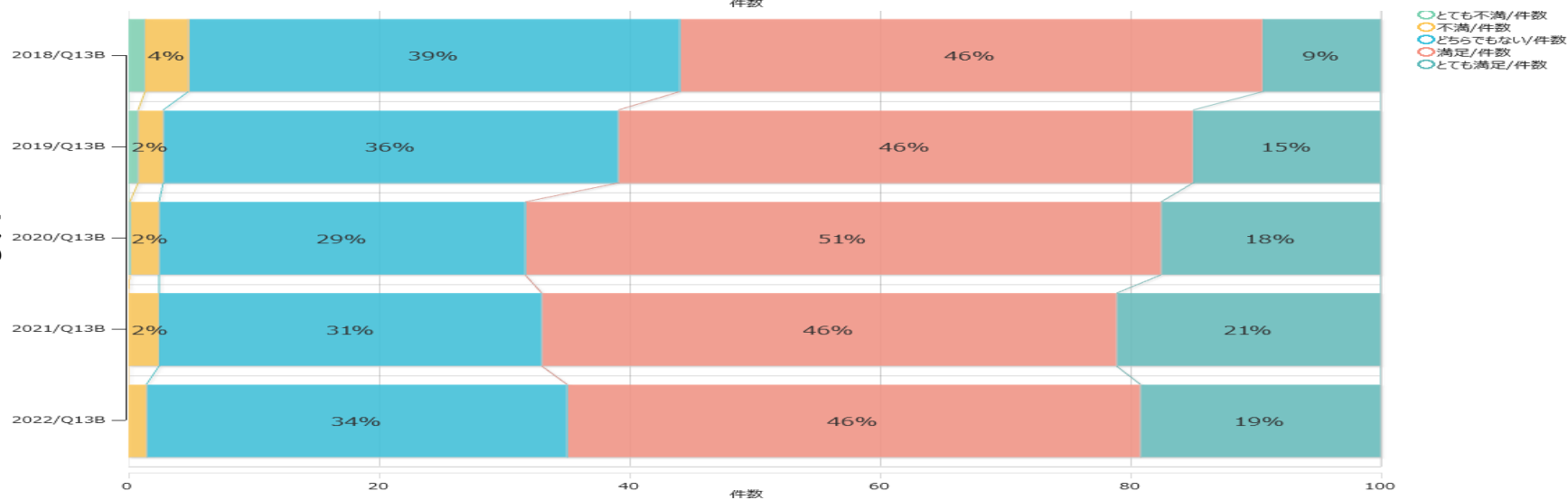
6-2. 実験室の設備や器具

【Q13-B】

文学部

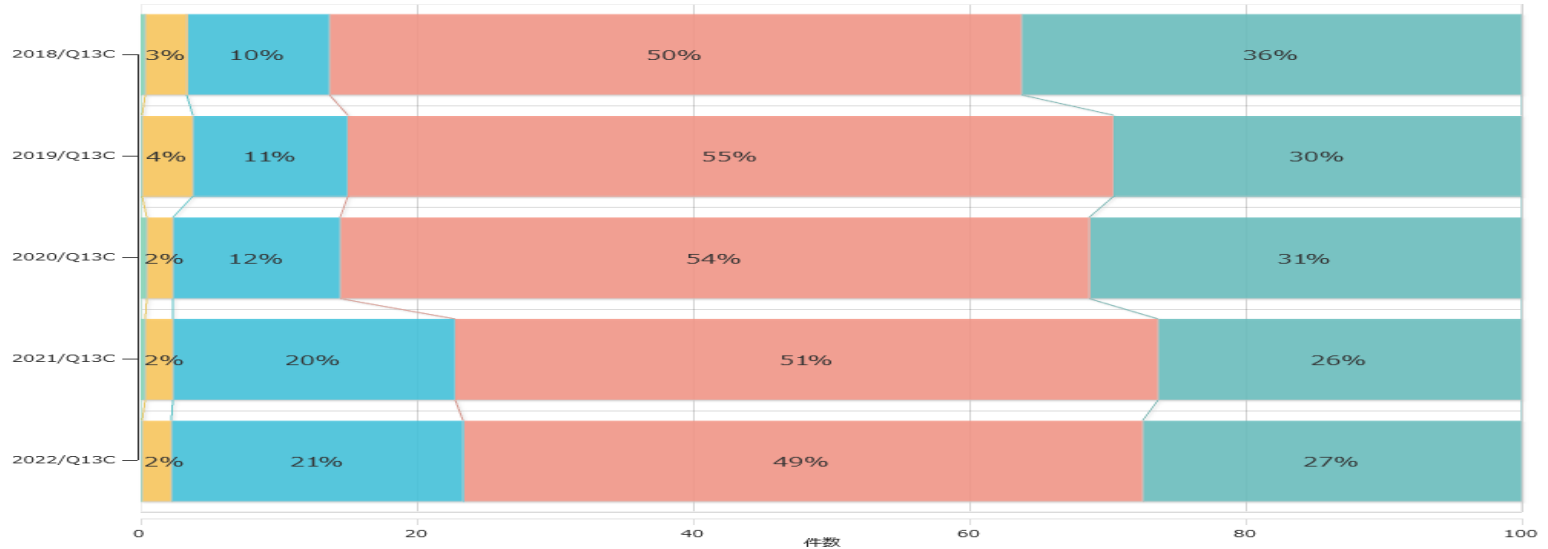


人間生活学部

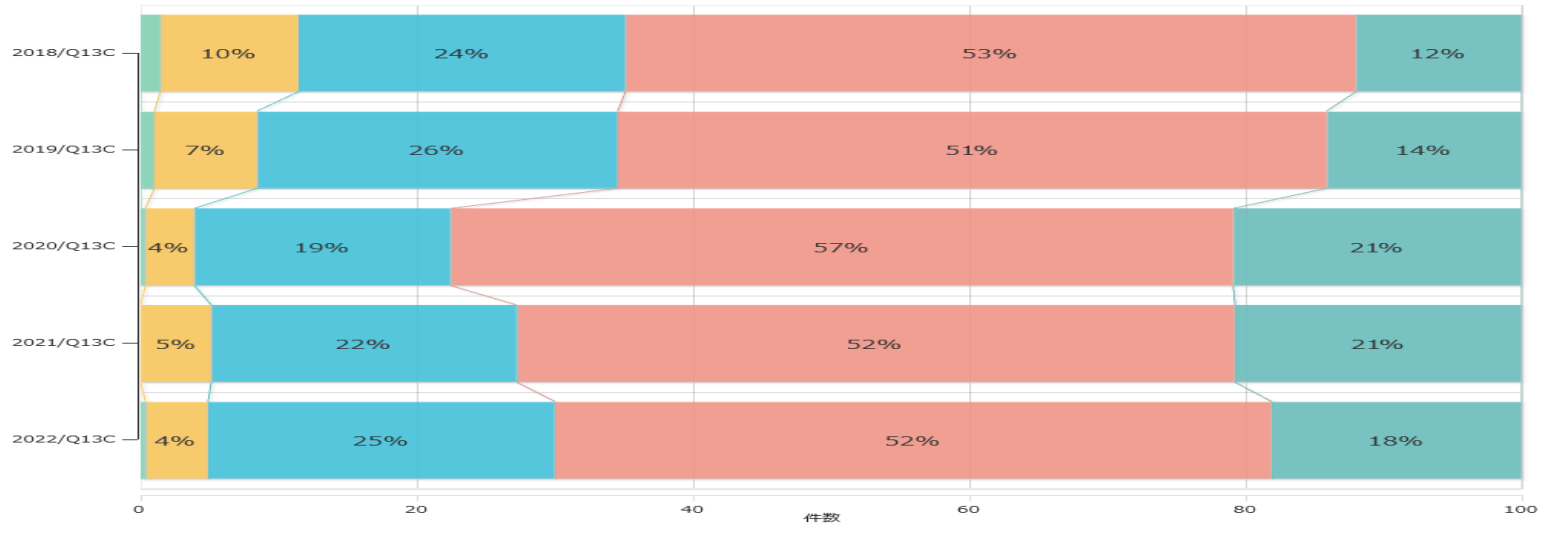


6-3. コンピュータの施設や設備 [Q13-C]

文学部

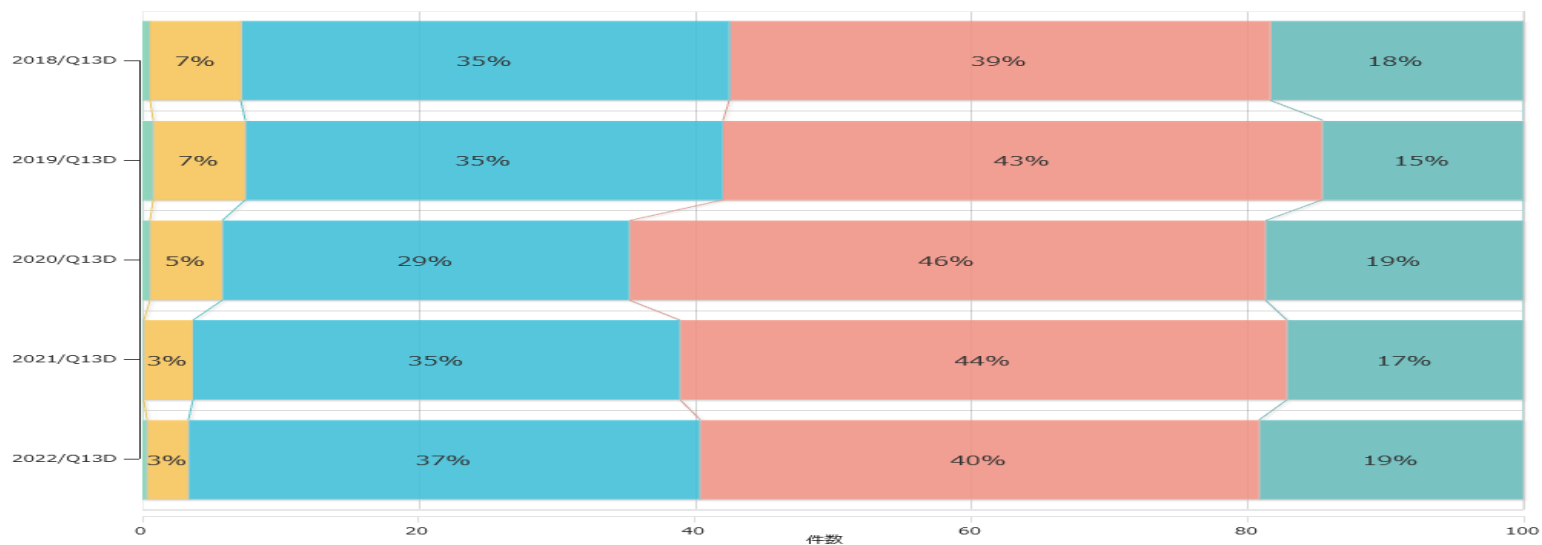


人間生活学部

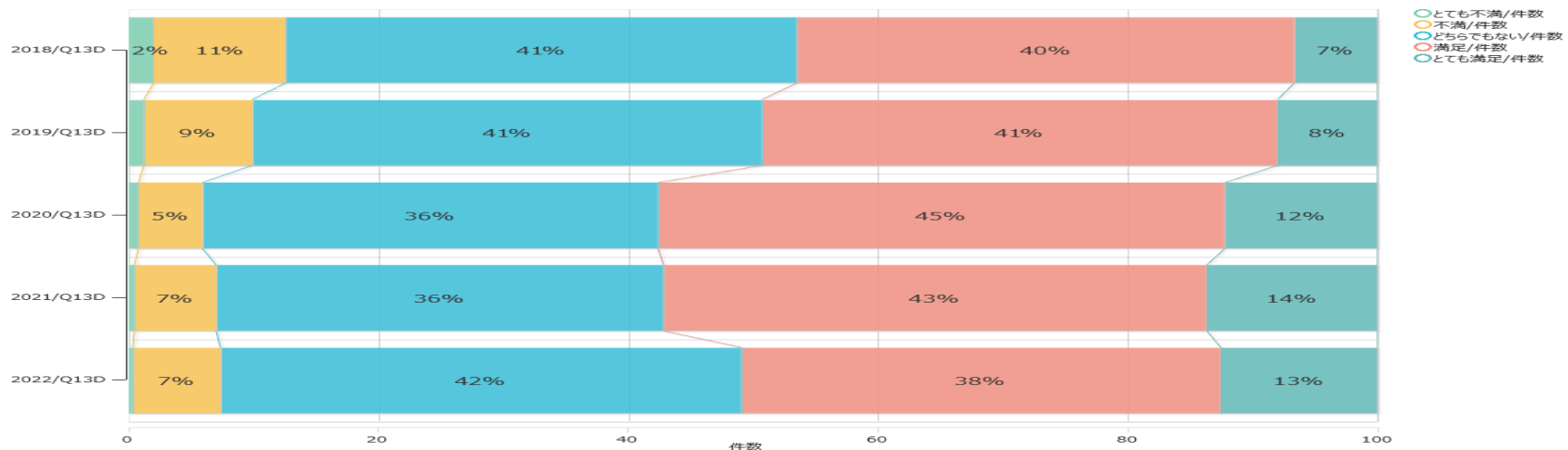


6-4. コンピュータの訓練や援助 【Q13-D】

文学部

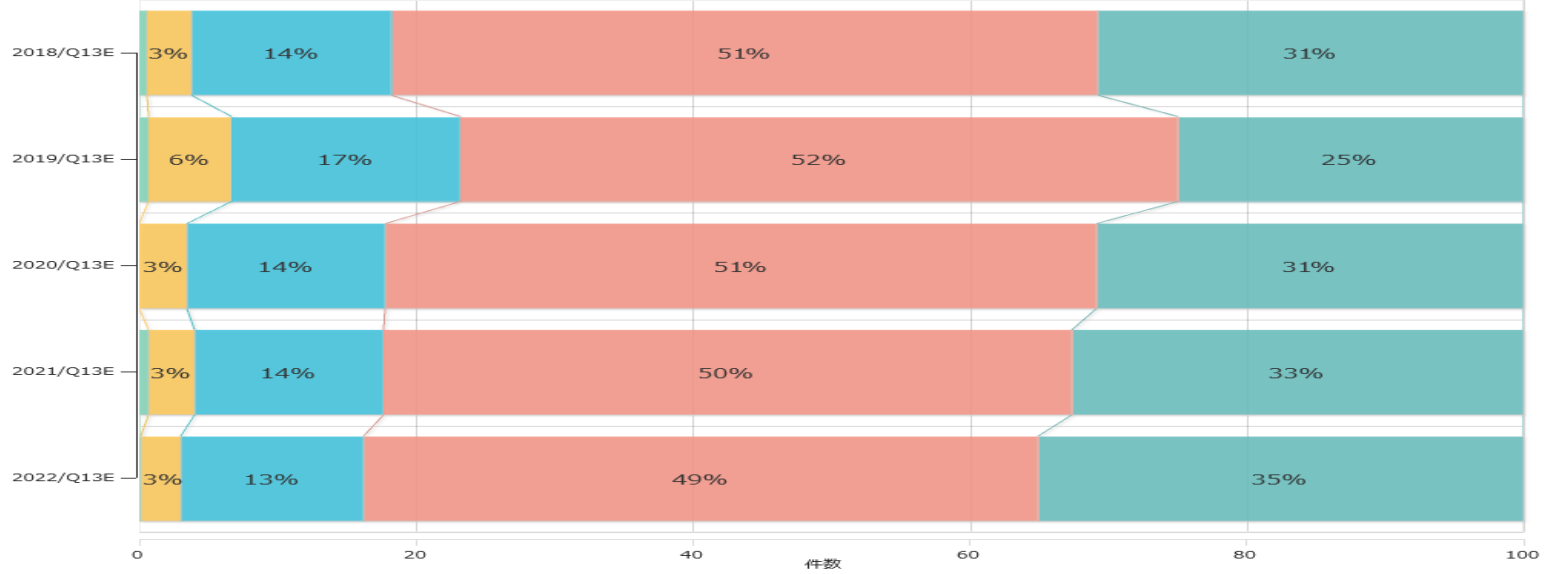


人間生活学部

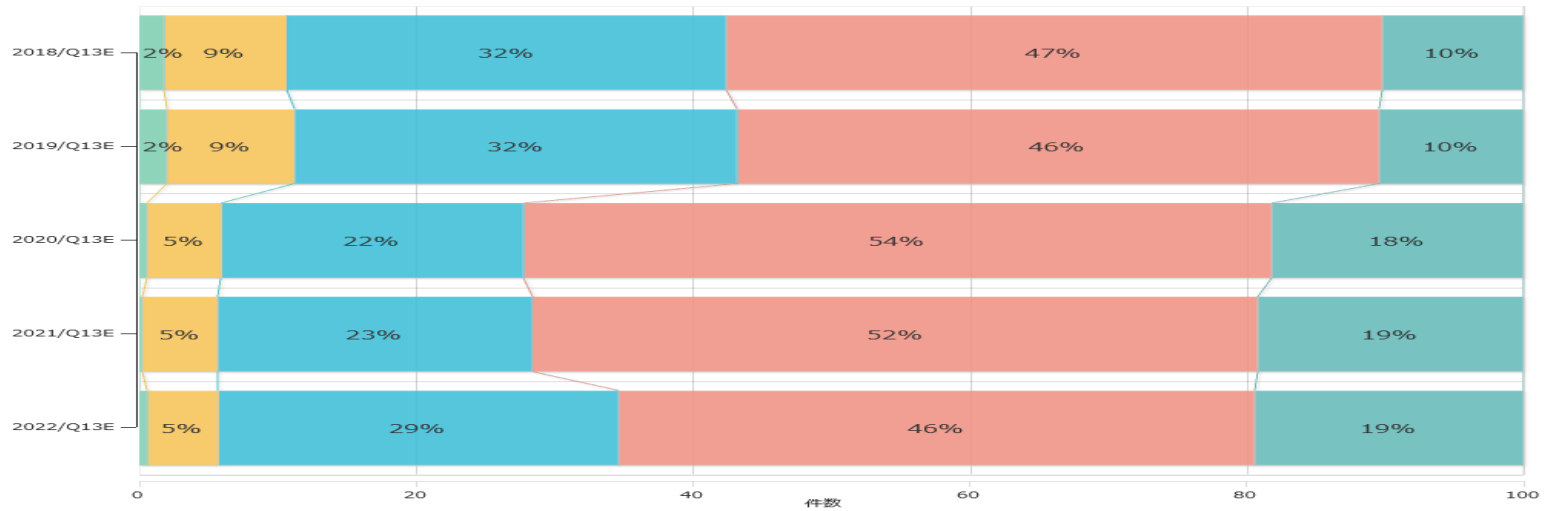


6-5. インターネットの使いやすさ 【Q13-E】

文学部

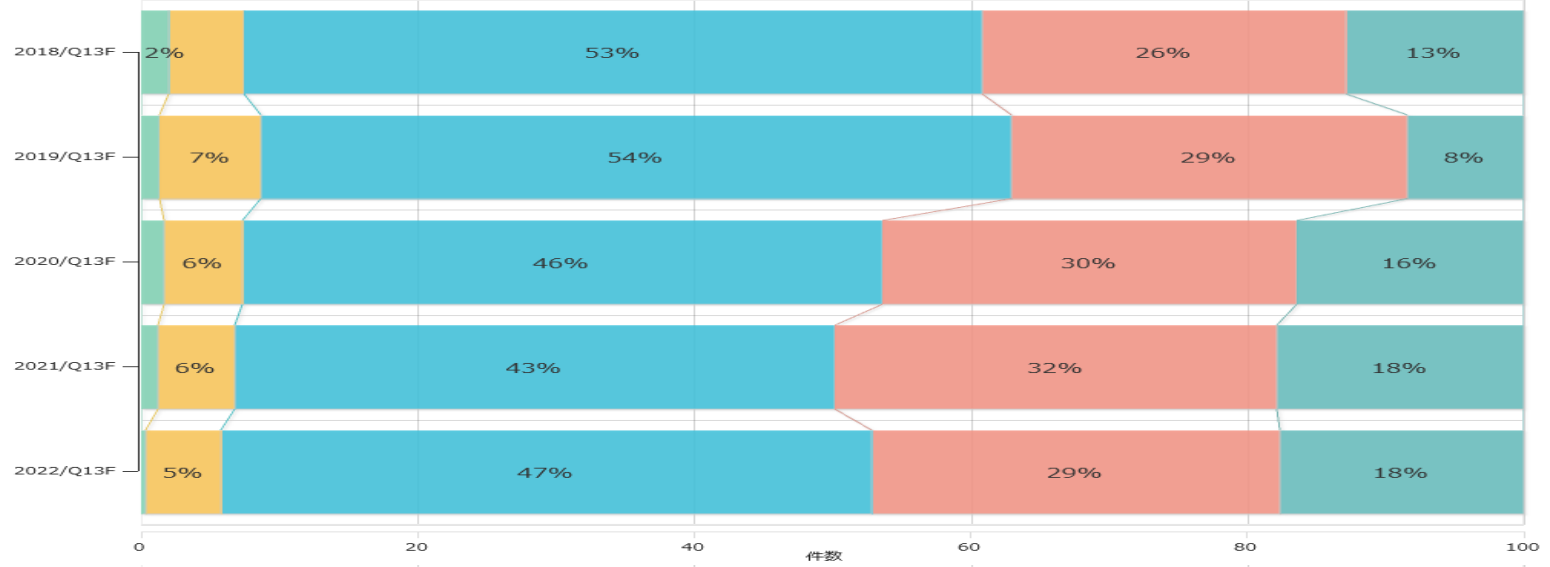


人間生活学部

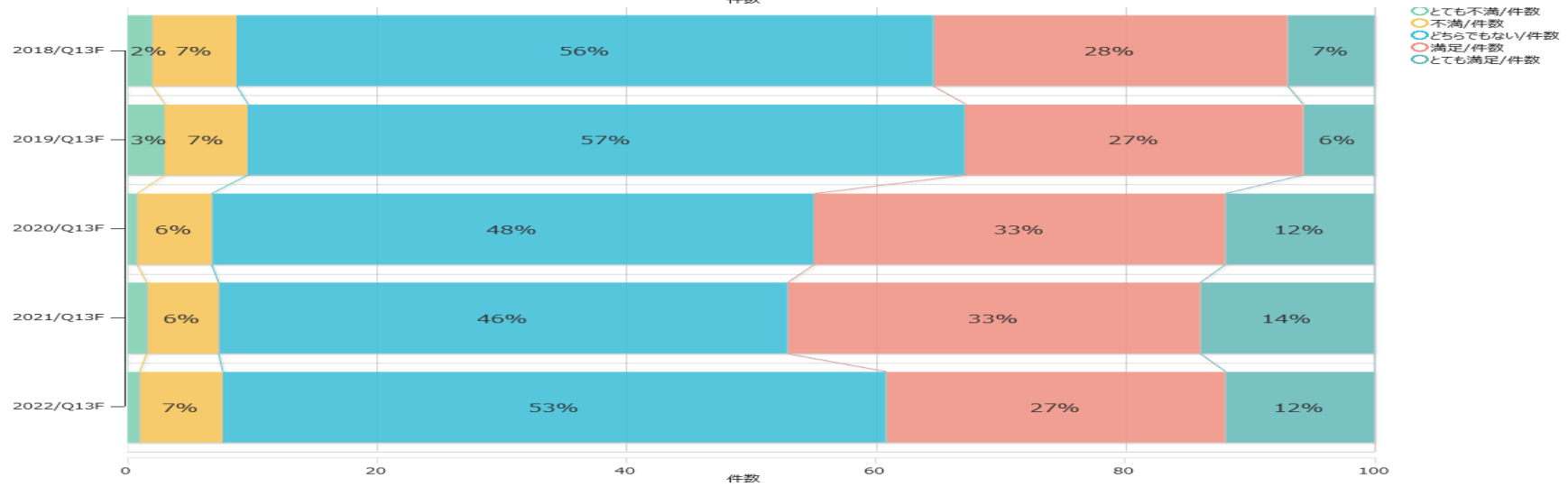


6-6. 奨学金などの学費援助の制度 【Q13-F】

文学部



人間生活学部

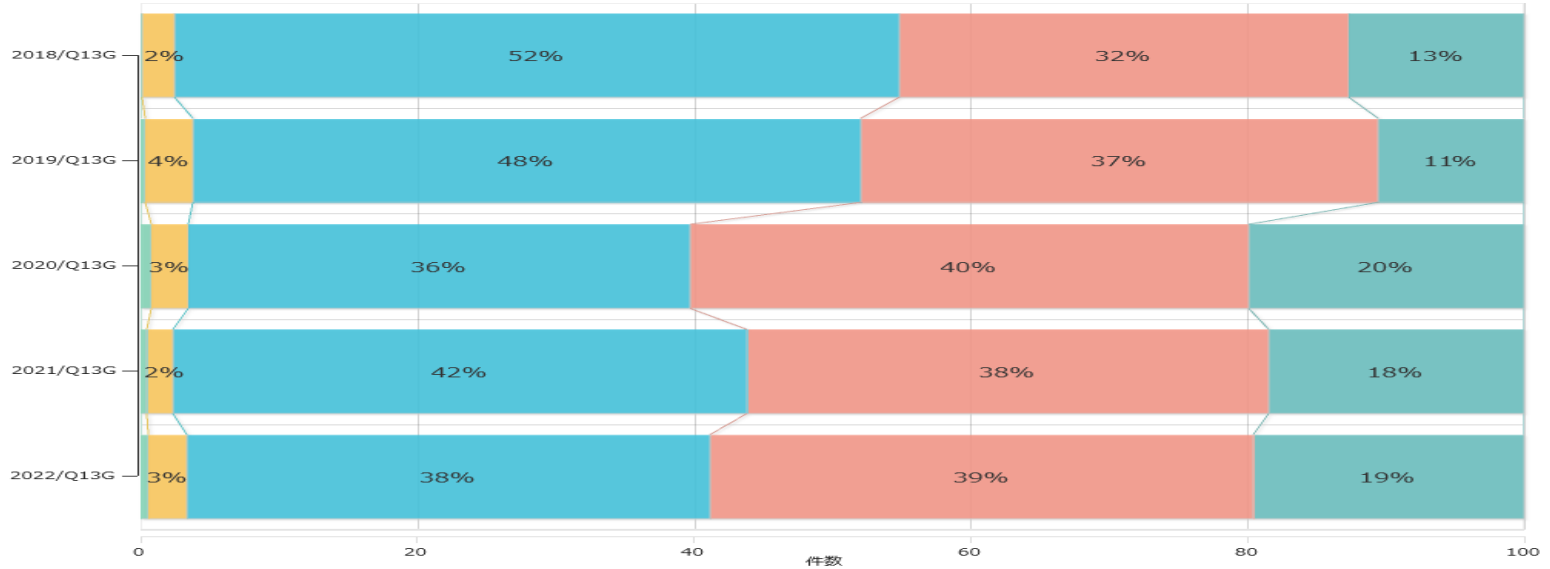


6-7. 健康・保健サービス（心身の健康に関わる問題についての診療や相談）

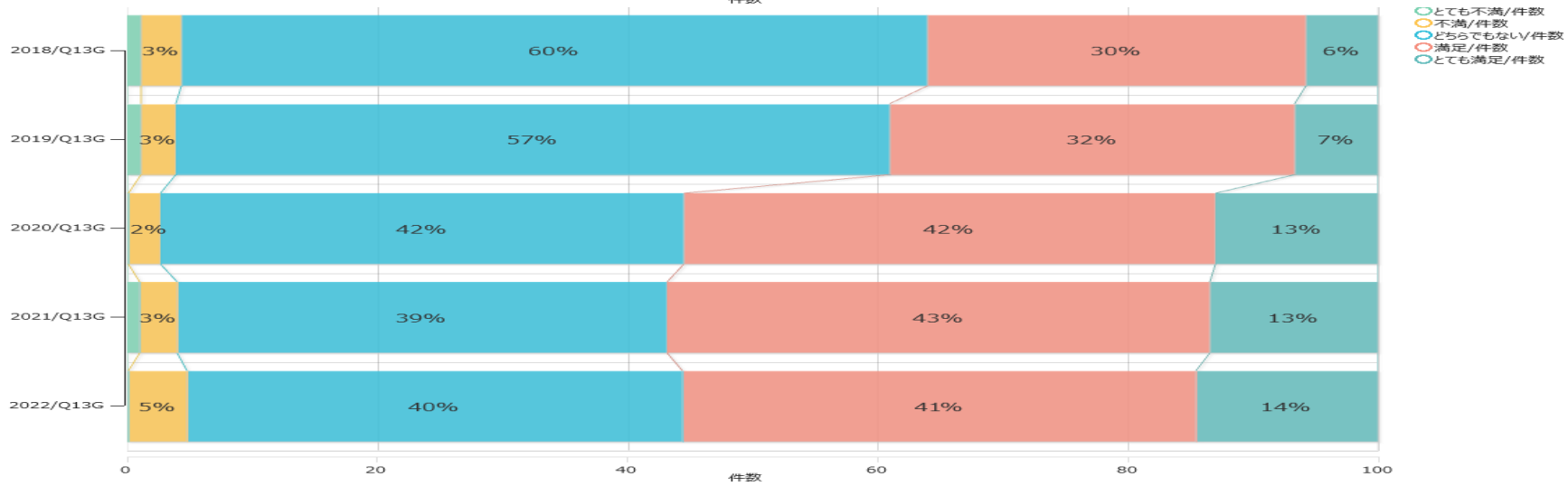
[Q13-G]



文学部



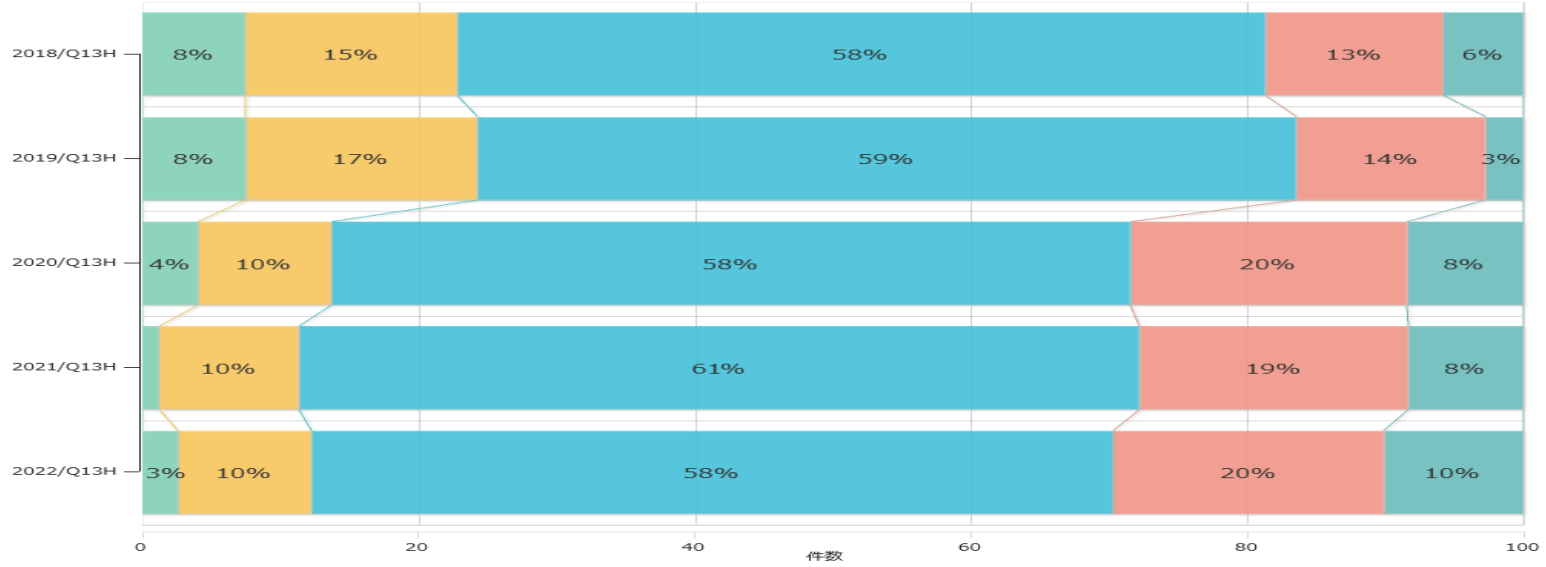
人間生活学部



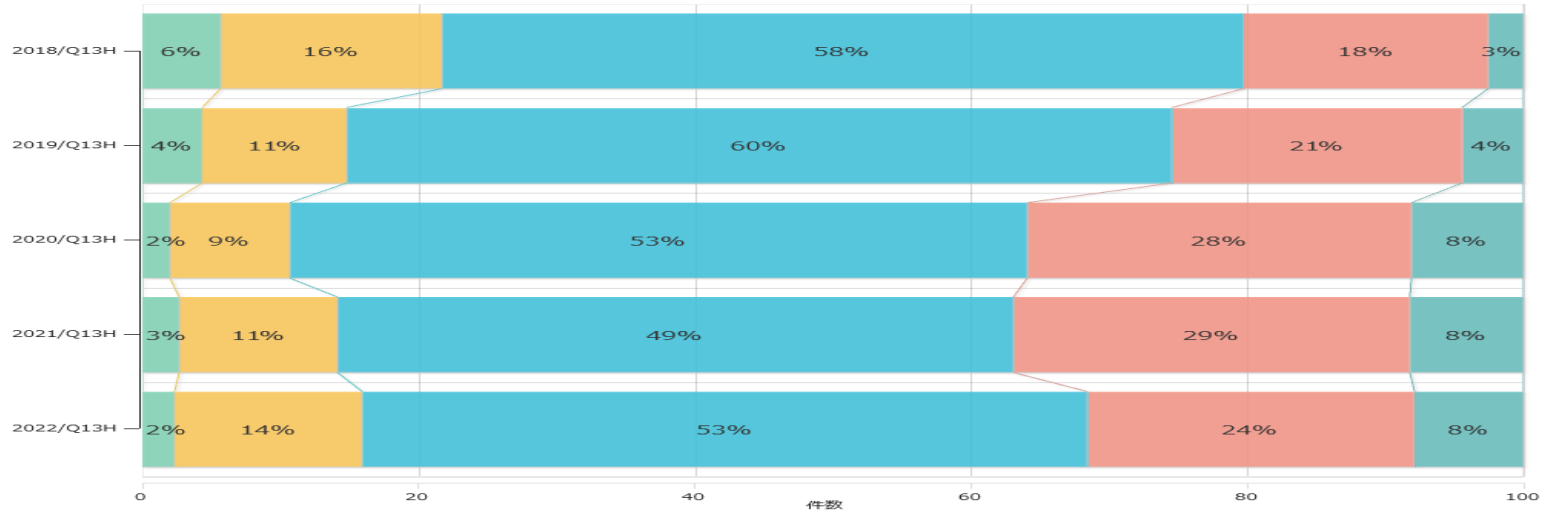
6-8. レクリエーション施設（ジムの設備など）

【Q13-H】

文学部



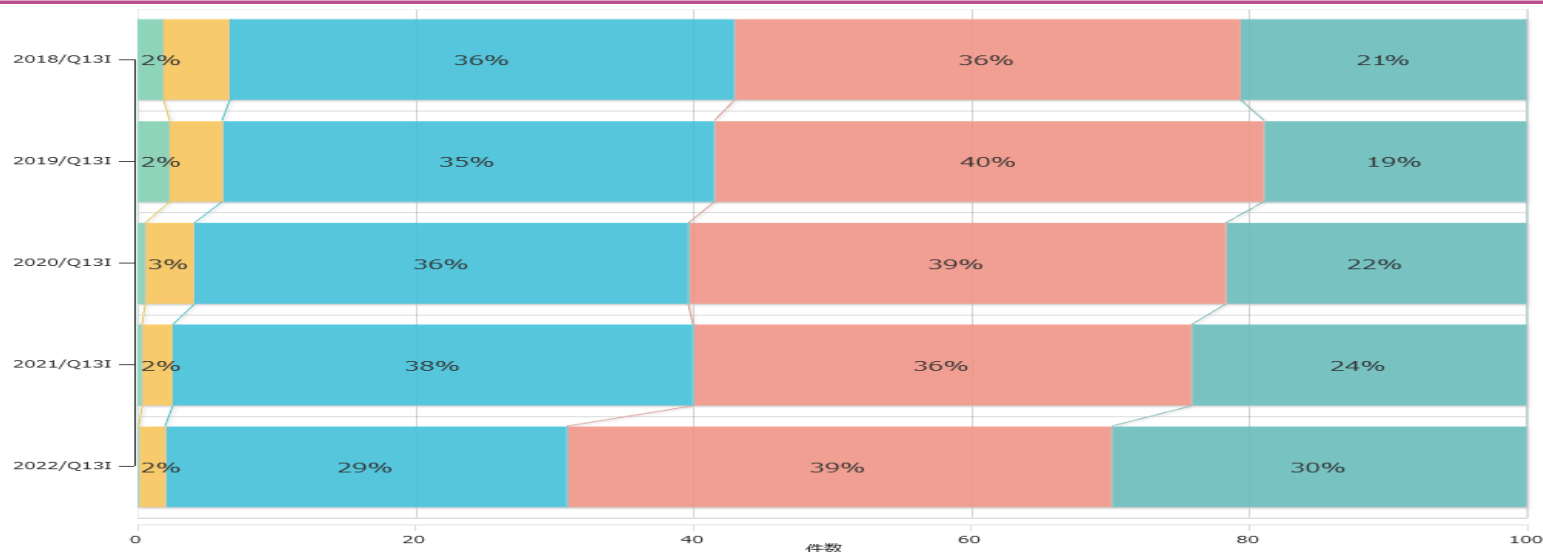
人間生活学部



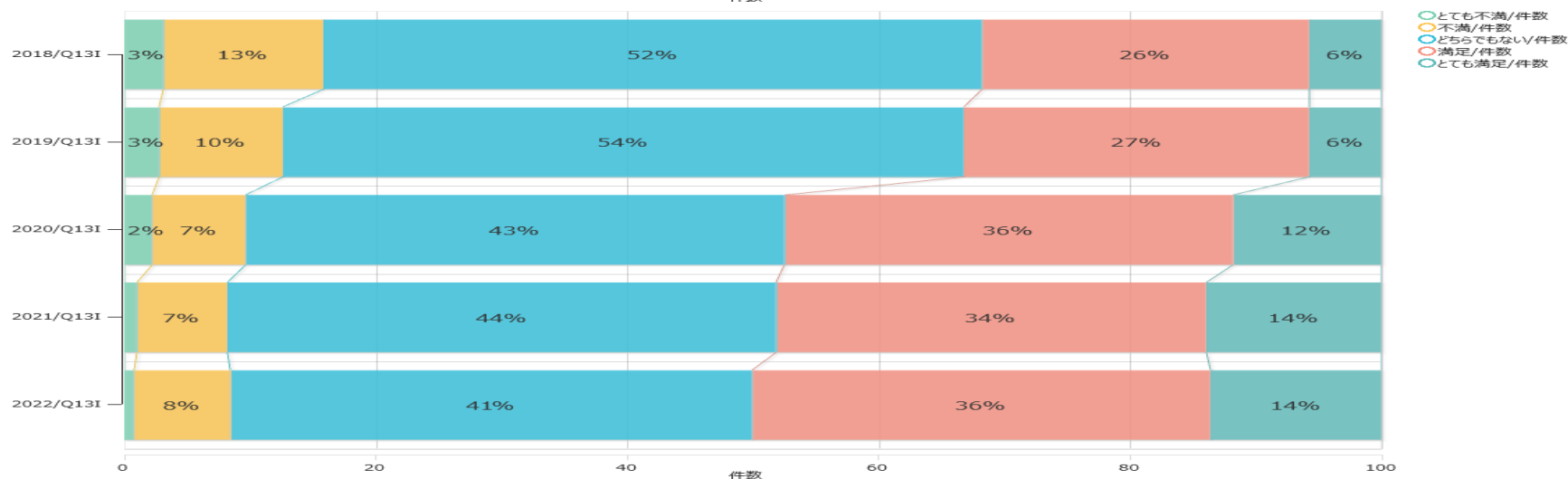
6-9. キャリアカウンセリング（就職や進学に関する相談）

[Q13-I]

文学部



人間生活学部



「設備・制度への満足度」 コメント

【図書館】

2022年度についてはコロナの制限が緩和されたこともあり、図書館の入館者数や資料の貸出は前年と比較して増加しているが、コロナ禍が長く続いた影響もあり元のような回復傾向ではない。10年前と比較して図書館の入館者数の減少、資料の貸出人数と冊数は半減しており学生に対する図書館利用や活用について改めて積極的な広報が必要になっている。

【コンピュータ・インターネット】

経年比較を見るとコロナ初年度の2020年度をピークに満足度がコロナ禍以前に戻りつつある。学生にとってコロナ初年度はオンライン授業中心であり、必然的にコンピュータやネットの利用機会が多く、授業の中でも訓練や援助を受けることとなった。

コロナが落ち着き対面授業に戻り、これらの印象が薄まり満足度も戻ったのではないかと考えられる。

次に、コンピュータの施設・設備、インターネットの使いやすさで、文学部と人間生活学部で差がある。これはそれぞれの校舎において、パソコンを常設している場所や機種は共通でありWiFiの校舎内カバー率も同等であるが、人間生活学部の校舎は学生が貸出しPCや自分の持ち込みPCで自由に学習できるスペースが文学部の校舎に比べ少ない点が要因としてあるのではないかと考えられる。

【奨学金制度】

奨学金の制度を利用していない者も含め全学生を対象したアンケート調査のため読みづらいデータではあるが、2021度と比べると、両学部とも「とても満足」の割合は増えてはいないものの、「とても不満」の割合が減り「どちらでもない」の割合が増えていることから、2020年度から開始した高等教育の修学支援新制度が広く浸透してきたことが要因とも考えられる。

【健康・保健サービス】

両校舎とも、ここ3年変わらない結果である。

満足度が上がった理由はコロナ禍となり、体調不良に関する電話対応を保健センターで行っていたため、多くの学生が利用し、満足感へとつながる対応ができたと考える。学生相談室、保健センターでは今後とも教職員と連携を行いながら個々に応じたケアの実践を行っていききたい。

【キャリアカウンセリング】

2021度同様、両学部共にIRコンソーシアム加盟大学全体平均（評価：「満足」以上）41.2%を上回っており、特に文学部は前年度比較9%の大幅増加となった。様々な要因が考えられるが、予約制のZoomを利用することにより一回の面談時間をしっかりと確保できるようになったことから学生の満足度が向上したものと思われる。人間生活学部は学科教員による専門職指導が行き届いており、キャリア支援課の利用が伸び悩んでいると思われるが、一般企業就職希望者への早期段階の就職指導を検討する必要がある。